



**2018年度  
SSI 履修要綱・講義概要  
(シラバス)**

**法政大学**



2018 (平成30) 年度 学 年 暦 (市ヶ谷・多摩・小金井地区)

学務部教学企画課

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
学 年 開 始	4月1日(日)		
入 学 式	4月3日(火)		
春学期授業期間	4月7日(土)～7月20日(金)	4月7日(土)～7月23日(月)	4月7日(土)～7月20日(金)
春 学 期 補 講 日	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月7日(土)，7月14日(土)	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月7日(土)，7月14日(土) 補講日：7月21日(土)	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月7日(土)，7月14日(土)
	(授業期間内補講日は，原則として，市ヶ谷地区については5時限目以降，多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)		
春学期試験期間	7月21日(土)～7月31日(火)	7月24日(火)～7月31日(火)	7月21日(土)～7月31日(火)
夏季休業期間	8月1日(水)～9月20日(木)		
夏季集中特別授業期間	サマーセッション：8月1日(水)～8月7日(火) オータムセッション：9月14日(金)～9月20日(木)		
9月卒業学位記交付式	9月15日(土)		
秋学期授業期間 (補講日含む)	9月21日(金)～12月24日(月) 1月8日(火)～1月21日(月)		
秋 学 期 補 講 日	授業期間内補講日： 10月20日(土)，10月27日(土)， 11月10日(土) 補講日： 1月15日(火)，1月16日(水)	授業期間内補講日： 10月27日(土)，11月10日(土) 補講日：10月19日(金)， 1月15日(火)～1月17日(木)	授業期間内補講日： 10月20日(土)，10月27日(土)， 11月10日(土) 補講日：1月15日(火)， 1月16日(水)，1月19日(土)
	(授業期間内補講日は，原則として，市ヶ谷地区については5時限目以降，多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)		
冬季休業期間	12月25日(火)～1月7日(月)		
秋学期試験期間	1月22日(火)～2月2日(土)		
春季休業期間	2月3日(日)～3月31日(日)		
春季集中特別授業期間	スプリングセッション：3月9日(土)～3月22日(金)		
学位授与式	3月24日(日)		
学 年 終 了	3月31日(日)		

[市ヶ谷・多摩・小金井]

- ・4月10日(火)創立記念日は5月1日(火)に振替
- ・5月1日(火)は創立記念日の振替により休講
- ・5月2日(水)はレクリエーションデーにより休講
- ・7月16日(月)海の日，9月24日(月)秋分の日振替休日，10月8日(月)体育の日は授業実施
- ・4月30日(月)昭和の日の振替休日，5月3日(木)憲法記念日，5月4日(金)みどりの日，5月5日(土)こどもの日，  
11月3日(土)文化の日，11月23日(金)勤労感謝の日，12月24日(月)天皇誕生日の振替休日，1月14日(月)成人の日は授業を実施しない
- ・1月18日(金)は大学入試センター試験準備により3時限以降を休講，1月19日(土)は大学入試センター試験実施により休講(市ヶ谷のみ)
- ・5月14日(月)は多摩スポーツフェスティバルのため休講とし，7月23日(月)に振替えて授業を実施(多摩のみ)
- ・夏季及び春季集中特別授業期間中の9月17日(月)敬老の日，3月21日(木)春分の日，特別授業実施日とする。

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
春学期授業期間	15週6日	16週2日	15週6日
秋学期授業期間	15週4日		
春学期試験期間	1週4日	1週1日	1週4日
秋学期試験期間	1週5日		
夏季集中特別授業期間	2週0日		
春季集中特別授業期間	2週0日		
合 計	38週5日		

※左表の授業期間は  
ガイダンス期間・補講期間を含む

2018 (平成30) 年度 学 年 暦 (デザイン工学部)

デザイン工学部	
学 年 開 始	4月1日(日)
入 学 式	4月3日(火)
春 学 期 前 半 授 業 期 間	4月7日(土)～6月1日(金)
春 学 期 前 半 補 講 日	授業期間内補講日：5月12日(土) 5月19日(土) 5月26日(土)
春 学 期 後 半 授 業 期 間	6月2日(土)～7月20日(金)
春 学 期 後 半 補 講 日	授業期間内補講日：6月30日(土) 7月 7日(土) 7月14日(土)
春 学 期 試 験 期 間	7月21日(土)～7月31日(火)
夏 季 休 業 期 間	8月1日(水)～9月20日(木)
夏 季 集 中 特 別 授 業 期 間	サマーセッション：8月1日(水)～8月7日(火) オータムセッション：9月14日(金)～9月20日(木)
9 月 卒 業 学 位 記 交 付 式 秋 学 期 入 学 式	9月15日(土)
秋 学 期 前 半 授 業 期 間	9月21日(金)～11月11日(日) 11月15日(木)
秋 学 期 前 半 補 講 日	授業期間内補講日：10月20日(土) 10月27日(土) 11月10日(土)
秋 学 期 後 半 授 業 期 間 ( 補 講 日 含 む )	11月12日(月)～12月24日(月) 11月15日(木)を除く 1月8日(火)～1月21日(月)
秋 学 期 後 半 補 講 日	1月15日(火), 1月16日(水)
冬 季 休 業 期 間	12月25日(火)～1月7日(月)
秋 学 期 試 験 期 間	1月22日(火)～2月2日(土)
春 季 休 業 期 間	2月3日(日)～3月31日(日)
春 季 集 中 特 別 授 業 期 間	スプリングセッション：3月9日(土)～3月22日(金)
学 位 授 与 式	3月24日(日)
学 年 終 了	3月31日(日)

[デザイン工学部]

- ・4月10日(火)創立記念日は5月1日(火)に振替
- ・5月1日(火)は創立記念日の振替により休講
- ・5月2日(水)はレクリエーションデーにより休講
- ・7月16日(月)海の日, 9月24日(月)秋分の日振替休日, 10月8日(月)体育の日は授業実施
- ・4月30日(月)昭和の日の振替休日, 5月3日(木)憲法記念日, 5月4日(金)みどりの日, 5月5日(土)こどもの日, 11月3日(土)文化の日, 11月23日(金)勤労感謝の日, 12月24日(月)天皇誕生日の振替休日, 1月14日(月)成人の日は授業を実施しない
- ・1月18日(金)は大学入試センター試験準備により3時限以降を休講, 1月19日(土)は大学入試センター試験実施により休講(市ヶ谷のみ)

	授業期間	試験期間	合計
春学期前半	8週6日		9週6日
春学期後半	7週0日	1週4日	8週4日
秋学期前半	7週4日		7週4日
秋学期後半	8週0日	1週5日	9週5日
夏季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
春季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
合 計	35週3日	3週2日	38週5日

※左表の授業期間は  
ガイダンス期間・補講期間を含む

## ＝目 次＝

2018年度 SSI 科目履修要綱	1
I. 概要	
1. はじめに	2
2. SSI 履修要綱・講義概要（シラバス）について	2
II. 履修	
1. 卒業要件と進級要件	3
2. 学部ごとの特記事項	3
3. SSI 科目	3
4. 外国語の履修	5
5. 体育科目の履修	13
6. 履修上限単位	14
7. 履修登録の流れ	14
III. 授業・試験	
1. 掲示板	15
2. 授業について	15
IV. 問い合わせ	
1. SSI 窓口	17
2. 保健体育部	17
V. その他	
1. スポーツ指導者資格	18
2. オフィスアワーの実施について	18
各学部卒業・進級要件（SSI）	19
法学部 法律学科	20
法学部 政治学科	22
法学部 国際政治学科	25
文学部 哲学科	28
文学部 日本文学科	32
文学部 英文学科	36
文学部 史学科	40
文学部 地理学科	44
文学部 心理学科	50
経済学部 経済学科・現代ビジネス学科	56
社会学部	58
経営学部	68
国際文化学部	71
人間環境学部	75
現代福祉学部	80
キャリアデザイン学部	88
デザイン工学部 システムデザイン学科	91
SSI 科目一覧	92
2018年度 SSI 科目講義概要（シラバス）	99
SSI 主催科目担当 専任教員一覧	174



# HOSEI

# UNIVERSITY

2018 年度履修要綱・講義概要

## 履修要綱

< S S I 窓口業務時間 >

月～金 9 : 0 0 ～ 1 7 : 0 0 (11 : 30～12 : 30 除く)

住所 〒102-8160

東京都千代田区富士見 2 - 1 7 - 1

市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー 1 階入学センター内

**Tel** 03-3264-5390

**E-mail** [jssi@hosei.ac.jp](mailto:jssi@hosei.ac.jp)

**URL** <http://www.hosei.ac.jp/ssi/>

# I 概要

## 1. はじめに

SSI は、「スポーツに優れた者の特別推薦入学試験」の入学者で SSI 希望の方を対象としたスポーツ科学の専門講座で、これからのスポーツ文化の担い手を育てることを目的とした学部横断型のコースです。総合的な知識の修得とともに、文化と科学としてのスポーツの理解を図ります。

皆さんは入学した学部にて在籍します。各自卒業までに所属学部の基礎（教養）科目・専門科目と並行して SSI 科目を履修します。スポーツ能力の向上を目指しながら、将来へ向けて幅広い人生設計が可能になります。

スポーツ分野における様々な科目を設置しており、優れたスポーツ選手や指導者を育成すると同時に、スポーツ振興やスポーツビジネス分野においても活躍できる人材を育成することを目標としています。

<2018 年度 SSI 参加学部（新入生募集学部）>

- 法学部全学科
- 文学部全学科
- 経済学部経済学科、現代ビジネス学科
- 社会学部全学科
- 経営学部全学科
- 国際文化学部国際文化学科
- 人間環境学部人間環境学科
- 現代福祉学部全学科
- キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科
- デザイン工学部システムデザイン学科

## 2. SSI 履修要綱・講義概要（シラバス）について

この履修要綱・講義概要（シラバス）には、SSI で学ぶ皆さんがこれから学習を進めていく上で SSI の必要事項をまとめたものです。

履修要綱には SSI の卒業要件・進級要件をはじめ、SSI 科目・SSI 生への外国語や体育科目の履修説明、SSI 科目の試験や SSI 授業の休講・教室変更などの事務連絡等が掲載されています。また、講義概要（シラバス）には SSI 科目の説明が掲載されています。

なお、この冊子には履修登録、証明書発行申請、学籍に関する手続きや所属学部の基礎（教養）科目・専門科目の内容については触れておりません。

必ず、所属学部のガイダンスで履修要綱や講義概要（シラバス）を入手し、内容をご確認ください。

# II 履 修

## 1. 卒業要件と進級要件

卒業するためには、所属学部の卒業要件 (SSI) を満たすように履修しなければなりません。また、進級するためには、各年次の進級要件を満たさなければなりません。

「各学部卒業・進級要件 (SSI)」以降の頁にて、所属学部の卒業要件と進級要件を必ず確認してください (入学年度によって異なる学部あり)。

なお、入学手続き時に SSI を希望した後、卒業時まで SSI 生の卒業要件と進級要件が適用されます。いかなる理由 (例えば所属の体育会を退部) でも途中の変更はできません。

## 2. 学部ごとの特記事項

SSI 生は前頁に記載の学部学科に所属していますが、学部学科によって条件があります。

<経済学部経済学科>

【2015 年度以前入学者】コース制が設けられていますが、SSI 生はどのコースにも所属しません。したがって所属コースによる科目履修制限はありません。

【2016 年度以降入学者】コース制は設けられておりません。

<社会学部>

【2018 年度以降入学者】2017 年度以前入学者とカリキュラムが大きく異なりますので、注意してください。カリキュラムの詳細は「社会学部履修要綱」でご確認ください。

<国際文化学部国際文化学科>

SA (スタディ・アブロード) の参加可否については、入学手続き時に選択した外国語パターンによって異なります。SA に参加する必要がわからない場合は、国際文化学部担当にお問い合わせください。なお、SA に参加する学生は、必ず SA ガイダンスに出席してください。

## 3. SSI 科目

SSI 科目は、SSI 基礎科目と SSI 専門科目で構成されており、卒業までに 44 単位以上を修得する必要があります。

### (1) SSI 基礎科目 (7 科目)

- ①14 単位必修です。卒業までにすべて修得してください。
- ②市ヶ谷と多摩の両キャンパスで開講します。どちらか一方のキャンパスで履修してください。履修登録していないキャンパスでは受講することはできません。
- ③時間割や授業内容は、SSI 専用の時間割表や講義概要を参照ください。

### (2) SSI 専門科目

SSI 専門科目には「SSI が主催する科目」と「学部が主催する科目」があります。履修する上での注意事項は以下の通りです。

<SSI 主催科目・学部主催科目に共通すること。>

- ①SSI 主催科目・学部主催科目を合わせて卒業までに 30 単位以上修得してください。
- ②他キャンパスで開講の SSI 主催科目や他学部主催科目を履修することが可能です。

<SSI 主催科目>

- ①時間割や授業内容は、SSI 専用の時間割表や講義概要を参照ください。
- ②休講や教室変更、試験などの授業に関する情報は SSI 担当からお知らせします。

<学部主催科目>

- ①時間割表には SSI 専門科目として掲載しますが、授業内容については各主催学部の講義概要を参照ください。
- ②休講や教室変更、試験などの授業に関する情報は各主催学部からお知らせします。
- ③所属の学部・学科が主催する SSI 専門科目を履修する場合、学部専門科目に同名科目が存在するため、以下のような扱いになります（履修登録時にはご注意ください）。

(例) 文学部心理学科所属の SSI 生の場合

- ・「マス・コミュニケーション論」（法学部政治学科開講）を受講する場合  
⇒SSI 専門科目
- ・「スポーツ心理学特講」（文学部心理学科開講）を受講する場合  
⇒文学部心理学科専門科目

学部・学科		SSI 専門	学部・学科 専門	説 明
法	法律	○		政治学科・国際政治学科主催科目のため、学部・学科専門科目ではなく、SSI 専門科目の区分系列として履修します。
	政治 国際政治		○	SSI 専門科目ではなく、学部・学科専門科目の区分系列として履修します。
文	心理		○	SSI 専門科目ではなく、学部・学科専門科目の区分系列として履修します。
	心理以外	○		心理学科主催科目のため、学部・学科専門科目ではなく、SSI 専門科目の区分系列として履修します。
経営	全学科		○	SSI 専門科目ではなく、学部・学科専門科目の区分系列として履修します。
国際文化			○	
人間環境			○	
キャリアデザイン			○	
経済	全学科		○	
社会	全学科			「社会学部履修要綱」を参照ください。
現代 福祉	全学科	同名科目の科目群により異なります。 ・総合教育科目＝現代福祉学部の総合教育科目として履修します。 ・学部専門科目＝SSI 専門科目として履修します。		
デザイン工		所属学部に同名科目は存在しません。		

## 4. 外国語の履修

外国語の必要単位数は所属学部や入学年度によって異なります。以下に記載されている自分の所属学部の内容をよく確認してください。受講にあたっては、所属学部の「履修の手引き」も参照し、所属学部の時間割から指定されたクラスの外国語授業を選んで履修してください。

なお、自分が選択した外国語以外はクラスが指定されていても受講する必要はありません。外国語の履修について不明な点がある場合は、所属学部窓口にお問い合わせしてください。

### (1) - 1 法（法律・政治学科）・文・経営学部

入学時に選択した1カ国語必修（4単位以上）

選択した言語	科目名	単位	配当年次
英語	English1 I / II English2 I / II	各 1	1
諸外国語	〇〇語 1 I / II 〇〇語 2 I / II	各 1	1

※ 上記の他に SSI 生用の外国語科目を履修することができます。詳細は、「(5) SSI 生用の外国語科目の履修について」（8～10頁）を参照してください。

### (1) - 2 法学部（国際政治学科）

入学時に選択した1カ国語必修（4単位以上）

選択した言語	科目名	単位	配当年次
英語	Academic English I Academic English II	各 2	1
諸外国語	〇〇語(1) I / II 〇〇語(2) I / II	各 1	1

※ 上記の他に SSI 生用の外国語科目を履修することができます。詳細は、「(5) SSI 生用の外国語科目の履修について」（8～10頁）を参照してください。

ただし、英語を選択した場合、英語の必要単位数（4単位）を修得するにあたり、国際政治学科の SSI 生は、「入門英語（SSI） I / II（各 1 単位）」と「Academic English I / II（各 2 単位）」の単位数が異なりますので注意してください。

## (2) 国際文化学部

入学時に選択したパターンに従い履修してください。

### ① パターン1：英語8単位以上

科目名	単位	配当年次
英語 1～6	各 1	1
英語 7、8	各 1	2

\* S Aに行く選択ができる。

### ② パターン2：諸外国語8単位以上

科目名	単位	配当年次
〇〇語 1～6	各 1	1
〇〇語 7、8	各 1	2

\* S Aに行かなければならない。

### ③ パターン3：英語4単位以上、諸外国語4単位以上

科目名	単位	配当年次
英語 1～4	各 1	1
〇〇語 1～4	各 1	1

\* S Aに行くことができない。

<以下の説明は、2016年度以前入学生のみが対象です。※2017年度以降入学生は対象ではありません。>

#### 【諸外国語の履修について】

国際文化学部の SSI 生は、上記諸外国語科目の他に、ILAC 科目・市ヶ谷基礎科目 4 群選択科目（諸外国語）の授業を、必修科目に代えて履修することができます（代替制度）。履修登録時に代替する必修科目の科目名で登録をすることにより、4 群外国語の卒業所要単位に含めることができます。

4 群選択科目（諸外国語）の一覧や履修登録の方法については、国際文化学部の「履修の手引き」を確認してください。

※ 上記の他に SSI 生用の外国語科目を履修することができます。詳細は、「(5) SSI 生用の外国語科目の履修について」（8～10頁）を参照してください。

### (3) 人間環境学部

入学時に選択した1カ国語必修

#### ①2012年度以降入学生：4単位以上

選択した言語	科目名	単位	配当年次
英語	English1-I/II English2-I/II	各1	1
諸外国語	〇〇語1-I/II 〇〇語2-I/II	各1	1

#### ②2011年度以前入学生：8単位以上

選択した言語	科目名	単位	配当年次
英語	英語1-I/II	各1	1
	英語2-I/II		
	英語3-I/II	各1	2
	英語4-I/II		
諸外国語	〇〇語1-I/II	各1	1
	〇〇語2-I/II		
	〇〇語3-I/II	各1	2
	〇〇語4-I/II		

※ 上記の他に SSI 生用の外国語科目を履修することができます。詳細は、「(5) SSI 生用の外国語科目の履修について」(8～10頁)を参照してください。

### (4) キャリアデザイン学部

#### 2012年度以降入学生

2012年度以降に入学した SSI 生は英語4単位以上が必修となります。

#### 必修

##### ● 英語の履修方法 (2012年度以降入学生)

次の1)ならびに2)の方法で、英語を4単位以上修得してください。

1)のみ、または2)のみ、もしくは1)と2)を組み合わせても、いずれの方法でも単位修得は可能です。

##### 1) クラス分けされた授業を履修する

- ・ 4月初旬の TOEFL スコアにより習熟度別に分けられたクラスにて、英語を履修します。
- ・ 教育職員免許状の取得をする場合は、このクラス授業の英語を2単位以上履修することが必要です。

科目名	単位	配当年次
英語1-I/II 英語2-I/II	各1	1

## 2) SSI 生用の授業を履修する

- ・ SSI 生限定の英語科目を履修して、英語必修単位に充当します。
- ・ 同名科目を次年度に連続して履修することが可能です。

科目名	単位	配当年次
入門英語 (SSI) I / II *	各 1	1~4

\* 2016 年度以前入学生は「入門英語 I / II」の科目名で履修します。

- ※ 充当科目は、各種通知書・証明書等では、履修登録上の科目名で表記されます。  
(例)「入門英語 (SSI) I」を履修し、「英語 2-I」に充当した場合  
→各種通知書・証明書等では「入門英語 (SSI) I」と表記されます。

「入門英語 (SSI) I」、「入門英語 (SSI) II」は教職課程表に掲載されていない科目のため、教育職員免許状取得のためには、上記 1) のクラス授業の英語を 2 単位以上履修する必要があります。

### 希望者のみ (2012 年度以降入学生)

必修の英語科目に加えさらに英語科目を履修することが可能です。

- 必修の英語科目に加えさらに英語科目を履修する場合  
英語の 4 群選択科目を履修することができます。修得した単位は、2017 年度以降入学生は ILAC 科目の卒業所要単位として、2016 年度以前入学生は市ヶ谷基礎科目の卒業所要単位として、計上されます。

### (5) SSI 生用の外国語科目の履修について

法・文・経営・国際文化・人間環境学部の SSI 生は、SSI 生限定の外国語科目を履修することができます。

以下の科目を履修することによって外国語の必要単位を修得することができます (入学年度によって、修得できる科目が異なります)。

- ※ 受講者人数の制限があるため、春学期初回授業に出席し担当教員から受講許可を得た後に履修登録してください。秋学期科目の受講許可も春学期初回授業に行いますので、秋学期科目のみの履修の場合であっても、必ず春学期初回授業に出席して受講許可を得てください。

法・文・経営・国際文化・人間環境学部の S S I 生が対象

## ①2017 年度以降入学生

※2016 年度以前入学生は、②を確認して下さい。

科目名	単位	定員	配当年次	連続	重複	摘要
入門英語 (SSI) I / II	各 1	48	1～	○	○	◆法(法律・政治学科)・文・経営学部 English1 I / II、English2 I / II  ◆法学部(国際政治学科) Academic English I / II  ◆国際文化学部 英語 1～8  ◆人間環境学部 English1- I / II、English2- I / II、 <u>上記必修科目に充当可</u>
入門ドイツ語 (SSI) I / II	各 1	30	1～	○	○	◆法(法律・政治学科)・文・経営学部 ドイツ語 1 I / II、ドイツ語 2 I / II  ◆法学部(国際政治学科) ドイツ語(1) I / II、ドイツ語(2) I / II  ◆国際文化学部 ドイツ語 1～6  ◆人間環境学部 ドイツ語 1- I / II～ドイツ語 2- I / II  <u>上記必修科目に充当可</u>

### <用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目を今年度もう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同一名称の科目を複数履修すること。

【充当】：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。  
 充当科目は、各種証明書・通知書ではそのままの科目名で表記されます。

※入門英語 (SSI) I / II、入門ドイツ語 (SSI) I / II の修得単位は、必修外国語科目の単位として認められます。

※「入門英語 (SSI) I」「入門英語 (SSI) II」は教職課程表に掲載されていない科目です。教育職員免許状取得のためには、教職課程表に掲載されている科目を修得しないと免許状は取得できません。十分注意、確認してください。

法・文・経営・国際文化・人間環境学部の S S I 生が対象

## ②2016 年度以前入学生

※2017 年度以降入学生は、①を確認して下さい。

科目名	単位	定員	配当年次	連続	重複	摘要
入門英語 (SSI) I / II	各 1	48	1~4	○	○	<p>◆法(法律・政治学科)・文・経営学部 English1 I / II、English2 I / II</p> <p>◆法学部(国際政治学科) Academic English I / II</p> <p>◆国際文化学部 英語 1~8</p> <p>◆人間環境学部 English1- I / II、English2- I / II、 英語 1- I / II ~ 英語 4- I / II</p> <p>上記必修科目に<b>充当可</b></p>
スポーツ・ドイツ語 I / II	各 1	30	1~3	○	○	<p>◆法(法律・政治学科)・文・経営学部 ドイツ語 1 I / II、ドイツ語 2 I / II</p> <p>◆法学部(国際政治学科) ドイツ語(1) I / II、ドイツ語(2) I / II</p> <p>◆国際文化学部 ドイツ語 1~6</p> <p>◆人間環境学部 ドイツ語 1- I / II ~ ドイツ語 4- I / II</p> <p>上記必修科目のいずれかに<b>代替しなければならぬ</b></p>

※スポーツ・フランス語 I / II は 2017 年度をもって閉講しました。

### <用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目を今年度もう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同一名称の科目を複数履修すること。

【代替】：特定の科目の代わりとして履修すること。

必修科目の代替として履修した場合、代替された科目は、各種通知書・証明書等では、“○○語 3 I” のように表記されます。

(例) 「スポーツ・ドイツ語 I」を履修し、「ドイツ語 1 I」に代替した場合  
→各種通知書・証明書等では「ドイツ語 1 I」と表記されます。

【充当】：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。

充当科目は、各種証明書・通知書ではそのままの科目名で表記されます。

(例) 「入門英語 (SSI) I」を履修し、「English1 I」に充当した場合

→各種通知書・証明書等では「入門英語 (SSI) I」と表記されます。

ただし、教育職員免許状取得希望者は「入門英語 (SSI) I」「入門英語 (SSI) II」ではなく「English1 I / II」「English2 I / II」を履修してください。「入門英語 (SSI) I」「入門英語 (SSI) II」は教職課程表に掲載されていない科目です。教育職員免許状取得のためには、教職課程表に掲載されている科目を修得しないと免許状は取得できません。十分注意してください。

## (6) 経済学部

【2015年度以前入学生】英語 8 単位必修

科目名	単位	配当年次
英語(a)/(b)	各 2	1
英語(c) A/B、(d) A/B	各 1	2

【2016年度以降入学生】英語 6 単位必修

科目名	単位	配当年次
Reading and Interaction A/B	各 1	1
Listening and Presentation A/B	各 1	1
Writing and Interaciton A/B	各 1	2

## (7) 社会学部

「社会学部履修要綱」を参照してください。

## (8) 現代福祉学部

対象	科目名	単位	配当年次
英語選択学生	英語 1～5	各 1	1
	英語 6～9	各 1	2
	英語 10	1	3
中国語選択学生	中国語 1 A/B～2 A/B	各 2	1
	中国語 3 A/B～5 A/B	各 2	2

※英語選択者は、英語 1～10 のうち 8 単位を任意に修得してください。

※中国語選択者は中国語 1 A/B～5 A/B のうち、同じ数字の科目を A と B のセットで受講し、8 単位を任意に修得してください。

## **(9) デザイン工学部**

英語 4 単位必修

科目名	単位	配当年次
英語 1～4	各 2	1

※英語 1～4 のうち任意の 2 科目 4 単位を修得してください。

## **(10) 教職課程履修希望者への注意事項**

所属学部や希望する免許状により必要となる外国語科目が異なります。該当する課程表をよく確認し、計画的に履修するよう注意してください。

## 5. 体育科目の履修

### (1) 単位の修得

SSI 生も体育科目（スポーツ総合演習）の履修は必修（デザイン工学部を除く）となっていますが、体育会部員は原則として在学中に体育会活動を続けることを条件に体育実技の単位を修得することができます。ただし、必要な履修登録手続きを取らなかった場合や退部した場合は、この措置は適用されません。別途、履修登録を行い、単位を修得する必要がありますので、注意してください。

以下の説明は、**2017年度以降入学生のみ**、参照してください。

**本枠内の説明は、2017年度以降入学生のみ、参照してください。**

必修の「スポーツ総合演習」に加えて、選択科目の「スポーツ総合演習 S」を履修可能ですが、「スポーツ総合演習 S」の修得単位は、必修の「スポーツ総合演習」の単位としては認められませんので、注意してください。

### (2) 履修登録について

＜法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部＞

所定の申請用紙での申請手続きが必要となりますので、履修登録期間内に所属学部窓口にて手続きしてください。

履修登録期間内に手続きをしなかった場合は、年間を通して体育会活動を行っていても単位は修得できませんので、必ず手続きをしてください。

なお、経済・社会・現代福祉・デザイン工学部については、所属の学部にお問い合わせください。

## 6. 履修上限単位

履修登録は、各学部で登録可能な上限単位数（履修登録が可能な単位数）が決められています。必ず各所属学部の「履修の手引き」等で確認の上、不明な点は各所属学部窓口へご相談ください（SSI では回答できません）。

## 7. 履修登録の流れ

本学は半期ごとの Semester 制（デザイン工学部はクォーター制）をとっています（科目によっては通年科目もあります）。

履修登録のルールは各学部で異なります。所属学部の指示に従って登録期間や登録時期に遅れぬよう手続きを行ってください。

### 時間割は以下のような手順で考えましょう。

#### ① 外国語科目・学部必修科目・体育(各所属体育会)を入れる

はじめに、履修しなければならない上記の科目を時間割表に入れてください。

SSI 基礎科目と曜日・時限が重なった場合には上記科目の履修を優先してください。

#### ② SSI 基礎科目・基礎(教養)科目・SSI および学部専門科目を入れる

次に SSI 基礎科目を時間割表に入れてください。また、基礎(教養)科目や専門科目は所属学部の履修の手引きや講義概要を見ながら、SSI 専門科目は本冊子を見ながら自分自身の興味・関心にあわせて入れてください。なお、各科目には配当年次が決まっていますので注意してください。

#### ③ 履修登録を行う

登録方法は学部によって異なりますので、所属学部の指示に従ってください。

#### ④ 登録の確認をする

登録の確認方法は学部によって異なりますので、所属学部の指示に従ってください。

登録間違いがあった場合には、授業に出席していても単位が修得できませんので十分注意してください。

### <履修登録の注意事項>

(1) SSI 生は卒業までに独自のカリキュラムを履修することになり、通常学生と卒業要件や必修科目が異なります。履修登録等で必要な進級条件や卒業条件を確認する場合、『SSI 履修要綱・講義概要』に掲載の「各学部卒業・進級要件(SSI)」(19 頁以降)が適用されます。ご不明な点は必ず所属学部窓口へお問い合わせください（登録や単位の確認について SSI では回答できません）。

(2) 講義概要で『SSI 履修要綱・講義概要』には SSI 主催科目のみが掲載されていますが、SSI 専門科目(学部主催科目)は「主催学部の講義概要」でご確認ください。  
基礎(教養)科目、学部専門科目の講義概要は市ヶ谷・多摩とで異なります。

<市ヶ谷> 基礎(教養)科目 ⇒ 「市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要」

所属学部専門科目 ⇒ 「各学部講義概要」

<多摩> 基礎(教養)科目・所属学部専門科目 ⇒ 「各学部講義概要」

# Ⅲ 授業・試験

## 1. 掲示板

SSI から皆さんへ、SSI 主催科目に関するの通知・連絡は以下の通りご案内しますので、登下校時は必ずご確認ください。掲示板でお知らせした内容は、公開に支障がないものに限って、SSI ホームページ（下記参照）でもご案内します。

なお、授業の休講などは情報ポータルサイト（Web 携帯）でもご案内します。

### 【SSI 事務連絡・授業の休講・補講、試験の案内・教室変更】

- 市ヶ谷キャンパス・・・SSI 掲示板
- 多摩キャンパス・・・各学部掲示板・多摩総合体育館掲示板

### 【SSI ホームページ】

URL : <http://www.hosei.ac.jp/ssi/> または、  
法政大学公式ホームページ『<http://www.hosei.ac.jp>』 → 『在学生の方』 → 『SSI』  
で確認できます。

(参考)

以下の科目は SSI 掲示板で通知・連絡は行っていません。

<市ヶ谷>

- ・基礎（教養）科目⇒「市ヶ谷基礎科目・総合科目」掲示板
- ・所属学部専門科目⇒「各学部」掲示板
- ・学部主催科目 SSI 専門科目⇒「各科目主催の学部」掲示板

<多摩>

- ・基礎（教養）科目・所属学部専門科目⇒「各学部」掲示板
- ・学部主催科目 SSI 専門科目⇒「各科目主催の学部」掲示板

## 2. 授業・試験について

ここでは SSI 主催授業・試験について説明します。SSI 主催授業は皆さんの練習、試合、遠征などの競技活動を考慮して平日（月～木）の 1 時限～3 時限で時間割を編成しています（但し、一部の科目は除く）。授業日に公式試合の予定が予め分かっている場合、事前に最寄りの保健体育部へ「法政大学体育会 公式競技参加による欠席願」を提出してください（内容によって許可されない場合もあります）。

また、SSI 主催科目の評価は「授業内試験」、「レポート」、「平常点」などに基きますが、「授業内試験」や「レポート」の提出日に事前に公式試合が入っている場合は担当教員とご相談ください。また、「授業内試験」当日病気などの不可抗力で受験できなかった場合、SSI 担当までご相談ください。SSI 主催科目はすべて遅刻や欠席に対し、厳しい対応をとっています。安易な気持ちで授業に臨まぬよう心掛けてください。

## <注意>

- ・授業において以下の行為が発覚した場合、厳しい罰則を受けるので絶対に行わないこと。
  - ・単独で不正行為を行った者はもちろん、不正を依頼した者・依頼された者も共に罰せられるので注意すること。
  - ・履修登録していない者が代替で授業を受けること(代理出席)。
  - ・履修登録していない者が代替で試験を受けること(代理受験)。
  - ・試験(参照不可)でカンニングペーパー、机上への書き込み、テキストやノートを閲覧すること。
  - ・試験中、他人の答案を覗く、参照可における試験で資料等を借用する、答案を持ち帰ったりすること。
  - ・レポート提出において他人のものを丸写ししたり(剽窃)、他人のレポートを提出すること。……等
- なお、各学部の「履修の手引き」でも掲載しているため、必ず熟読の上理解しておくこと。

## (参考)

学部授業では追試(試験代替措置)や再試などの措置を取っていますが、各学部により取扱いが異なります。詳細は所属学部の「履修の手引き」で必ずご確認ください。

**なお、SSI 科目は再試の対象科目にはなりません。ただし、SSI 専門科目(学部主催科目)で所属学部・学科との同名科目を SSI 科目としてではなく学部専門科目の区分・系列として履修している場合、当該科目が再試対象であれば、その科目は再試対象科目となります。**

詳しくは所属学部窓口でご確認ください。

## <追試>

病気などの不可抗力で定期試験を受験できなかった場合、診断書(試験当日発行のもの)等の証明書を提出し、許可された科目について改めて行う試験のこと。

## <再試>

3年次から4年次への進級時および卒業時に単位不足のため再度行う試験のこと。再試制度がない学部もあります。

# IV 問い合わせ

## 1. SSI 窓口

SSIに関する質問は、SSI 窓口で対応します。内容によってはメールや電話で回答できない場合もありますのでご注意ください。

住所 : 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学学務部学部事務課SSI担当  
場所 : 市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー1階入学センター内学務部学部事務課分室内  
Tel : 03-3264-5390  
Mail : [jssi@hosei.ac.jp](mailto:jssi@hosei.ac.jp)  
Web : <http://www.hosei.ac.jp/ssi/>

業務取り扱い時間  
月～金 9:00～11:30、12:30～17:00

なお、主な問い合わせ先は以下の通りです。

問い合わせ内容	問い合わせ先
SSI 主催科目に関する質問全般・ (公) 日本体育協会スポーツ指導者資格関係	SSI 窓口
科目履修登録手続き・成績関係・進級、卒業関係 教職関係・各種証明書発行	所属学部窓口
SSI 専門科目(学部主催科目)	科目主催学部窓口
体育会活動全般	各体育課窓口

## 2. 保健体育部

各キャンパスの練習場付近には以下の通り体育課があり、体育会活動全般に関することについて対応しています。SSIに関する連絡や書類の提出など各体育課を指定することもありますのでご注意ください。

市ヶ谷 : 市ヶ谷総合体育館 1F  
武蔵小杉 : 川崎体育事務所 1F  
多摩 : 多摩総合体育館 1F

※なお、小金井キャンパスには体育課はありません。

# V その他

## 1. スポーツ指導者資格

(公) 日本体育協会の「スポーツ指導者資格」を取得する場合、資格養成の講習や試験を受けて資格を得ることが必須条件となっていますが、本学 SSI では資格養成の講習・試験の免除が下記コースにおいて認定されています。卒業時に下記コースの申請条件を満たし、SSI 窓口(保健体育部多摩体育課)で修了証明書発行願を申請することで資格を取得することができます。

なお、この資格申請は SSI 生で卒業予定の 4 年生のみとなっており、卒業後は一切申請できません。

(発行料金：2017 年度参考)

コース名称	申請条件	修了証明書発行料金 ※注 2
共通科目 I + II + III (講習・試験) ※注 1	SSI 基礎科目 7 科目の単位をすべて修得する。	10,800 円
テニス指導員 水泳指導員※注 3 バレーボール指導員 (上記体育会所属者限定)	①基礎科目 7 科目の単位をすべて修得する。 ②該当するスポーツ実習科目を修得する。 ※注 3 ③検定試験(4 年次に受験)に合格する。	3,240 円

※注 1) この講習・試験の免除者はスポーツ指導の基礎を学ぶ資格である『スポーツ指導基礎資格(スポーツリーダー)』の資格を取得したことになります。現在、地域におけるスポーツグループやサークルなどでスポーツ指導にあたっている方や、これから指導者になろうと考えている方、体育指導員の方に必要な資格です。また、取得後は、競技別指導者資格やフィットネス系資格へステップアップすることも可能となっています。

※注 2) 申請方法や支払方法については 4 年生を対象に掲示等でお知らせします。

※注 3) **◆2017 年度以降入学者は、水泳指導員資格は申請できません。**

◆テニス指導員の場合、実習授業は以下のようになります。

2014 年度以前入学者：「専修実習(テニス) I・II」

2015 年度、2016 年度入学者：「スポーツ実習(テニス) I・II」

2017 年度以降入学者：「スポーツ実習(テニス) III・IV」(2019 年度開講予定)

◆バレーボール指導員の場合、実習授業は以下のようになります。

2016 年度以前入学者：「スポーツ実習(バレーボール) I・II」

2017 年度以降入学者：「スポーツ実習(バレーボール) III・IV」(2019 年度開講予定)

## 2. オフィスアワーの実施について

SSI ではオフィスアワーを実施し、教員が担当科目に関する学生の皆さんの質問や相談に応じています。オフィスアワーの設定日時、場所については以下の通りです。

### 《専任教員》

専任教員が所属する各学部の窓口にて、ご確認ください。

### 《兼任教員》

授業の開始前または終了後に教室で、質問・相談を受け付けます。

# 各学部卒業・進級要件（SS I）

## SS Iカリキュラム表

※卒業・進級要件に関する問い合わせは  
各学部担当へご相談ください。

法学部 法律学科 卒業要件 S S I (2017年度以降入学者)

区分・系列		単位規定		
I L A C 科 目	0群 (導入)	14 単位以上 ※注 1		24 単位以上
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)	4 単位以上		
	4群 (外国語)			
5群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2			
S S I 科 目	SSI 基礎科目	14 単位		44 単位以上
	SSI 専門科目	30 単位以上		
専 門 科 目	選択必修科目	憲法科目 4 単位以上 行政法科目 4 単位以上 民法科目 8 単位以上 商法科目 6 単位以上 民事訴訟法科目 2 単位以上 刑事法科目 4 単位以上 労働法科目 2 単位以上 国際関係法科目 2 単位以上	32 単位以上  ※32 単位を超えて修得した単位は「選択科目」として計算されます。	56 単位以上
	選択科目	16 単位以上		
	自由科目	※8 単位以上の履修は可能ですが、8 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません。		
ILAC 科目、SSI 科目、専門科目より自由に履修 ※注 3				8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上				

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

※注 3 I L A C 科目 (24 単位以上)、S S I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 法律学科 卒業要件 S S I (2009年度～2016年度入学者)

区分・系列		単位規定			
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上		24 単位以上	
	1群 (人文分野)				
	2群 (社会分野)				
	3群 (自然科学)	4 単位以上			
	4群 (外国語)				
	5群 (保健体育)	2 単位以上			
S S I 科目	SSI 基礎科目	14 単位		44 単位以上	
	SSI 専門科目	30 単位以上			
専門科目	選択必修科目	憲法科目	4 単位以上	32 単位以上 ※32 単位を超えて修得した単位は「選択科目」として計算されます。	56 単位以上
		行政法科目	4 単位以上		
		民法科目	8 単位以上		
商法科目		6 単位以上			
民事訴訟法科目		2 単位以上			
刑事法科目		4 単位以上			
労働法科目		2 単位以上			
国際関係法科目	2 単位以上				
選択科目	16 単位以上				
自由科目	※8 単位以上の履修は可能ですが、8 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません。				
市ヶ谷基礎科目、SSI 科目、専門科目より自由に履修 ※注				8 単位以上	
卒業所要単位合計				132 単位以上	

※注) 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、S S I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 政治学科 卒業要件 (SS I) (2017年度以降入学者)

区分・系列		単位規定		
I L A C 科 目	0群 (導入)	14 単位以上 ※注 1		24 単位以上
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)	4 単位以上		
	5群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2		
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位		44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専 門 科 目	必修科目	政治学の基礎概念 I	4 単位	56 単位以上
	選択科目	32 単位以上		
	自由科目	※20 単位以上の履修は可能ですが、20 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません		
I L A C 科目、SS I 科目、専門科目より自由に履修 ※注 3				8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上				

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

※注 3 I L A C 科目(24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 政治学科 卒業要件 (SS I) (2011年度～2016年度入学者)

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)	4 単位以上		
	5群 (保健体育)	2 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	必修科目	政治学の基礎概念 I	4 単位	56 単位以上
	選択科目	32 単位以上		
	自由科目	※20 単位以上の履修は可能ですが、20 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません		
市ヶ谷基礎科目、SS I 科目、専門科目より自由に履修 ※注			8 単位以上	
卒業所要単位合計 132 単位以上				

※注) 市ヶ谷基礎科目(24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 政治学科 卒業要件（SSI）（2010年度入学者）

区分・系列		単位規定			
市ヶ谷基礎科目	0群（導入）	14 単位以上			24 単位以上
	1群（人文分野）				
	2群（社会分野）				
	3群（自然科学）				
	4群（外国語）	4 単位以上			
	5群（保健体育）	2 単位以上			
SSI科目	SSI基礎科目	14 単位			44 単位以上
	SSI専門科目	30 単位以上			
専門科目	必修科目	政治学の基礎概念I	4 単位（必修）	12 単位以上	56 単位以上
		演習 ※8 単位を超えて修得した単位は「選択科目」として計算されます。	8 単位（必修）以上		
	選択科目	24 単位以上			
	自由科目	※20 単位以上の履修は可能ですが、20 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません			
市ヶ谷基礎科目、SSI科目、専門科目より自由に履修 ※注					8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上					

※注) 市ヶ谷基礎科目（24 単位以上）、SSI科目（44 単位以上）および専門科目（56 単位以上）の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 国際政治学科 卒業要件 (SS I) (2017年度以降入学者)

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1群 (人文分野)		
	2群 (社会分野)		
	3群 (自然科学)	4 単位以上	
	4群 (外国語)	2 単位以上 ※注 2	
	5群 (保健体育)		
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	必修科目	HOP(Hosei Oxford Programme) 2 単位(必修)	56 単位以上
	選択科目	34 単位以上 HOP以外の国際政治学科科目は選択科目として扱います。	
	自由科目	※20 単位以上の履修は可能ですが、20 単位を超えた分は、 専門科目の卒業所要単位の中には含まれません。	
I L A C 科目、SS I 科目、専門科目より自由に履修 ※注 3			8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 Sは選択科目ですので、ご注意ください)。

※注 3 I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

法学部 国際政治学科 卒業要件 (SS I) (2016年度以前入学者)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1群 (人文分野)		
	2群 (社会分野)		
	3群 (自然科学)		
	4群 (外国語)	4 単位以上	
	5群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	HOP (Hosei Oxford Programme) 2 単位 (必修)	56 単位以上
	選択科目	34 単位以上 HOP 以外の国際政治学科科目は選択科目として扱います。	
	自由科目	※20 単位以上の履修は可能ですが、20 単位を超えた分は、専門科目の卒業所要単位の中には含まれません。	
市ヶ谷基礎科目、SS I 科目、専門科目より自由に履修 (※)			8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注) 市ヶ谷基礎科目(24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

## 進級に関する規程（法学部）

### 2012年度以降入学者

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、基礎科目、SSI科目、専門教育科目を問わず20単位以上を修得しなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、次の単位を修得しなければならない。
- (1) 基礎科目※、SSI科目、専門教育科目を問わず、第2年次において年間4単位以上
  - (2) 基礎科目※、SSI科目、専門教育科目を問わず、第2年次修了までに36単位以上
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。
- (1) 基礎科目※のうち4群（外国語科目）及び5群（保健体育科目）の卒業所要単位
  - (2) 前号の単位を含め、基礎科目、SSI科目、専門教育科目を問わず84単位以上
- 第4条 前条における不足単位数がある場合は、次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。
- (1) 基礎科目※と専門教育科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く。）
- 第5条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。
- 第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。
- ※2017年度以降入学者は、ILAC科目という名称で履修します。

### 2011年度までの入学者

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、基礎科目、SSI科目、専門教育科目を問わず8単位以上を修得しなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、基礎科目、SSI科目、専門教育科目を問わず、2年次に年間4単位以上を修得しなければならない。
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。
- (1) 基礎科目のうち4群（外国語科目）及び5群（保健体育科目）の卒業所要単位
  - (2) 前号の単位を含め、基礎科目、SSI科目、専門科目を問わず84単位以上
- 第4条 前条における不足単位数がある場合は、次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。
- (1) 基礎科目と専門教育科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く。）
- 第5条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。
- 第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

文学部 卒業要件 (SS I)  
哲学科

2017 年度以降入学者

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2	
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	選択科目(必修 科目から選択科 目として読み替 え)	卒業論文	規定せず
	選択必修科目 (必修科目か ら読み替え)	哲学概論 1 / 2 論理学概論 1 / 2 倫理学概論 1 / 2 西洋哲学史 I - 1 / I - 2 西洋哲学史 II - 1 / II - 2 基礎演習 1 / 2	12 単位以上
	選択科目 (選択必修科目からの読み替え科目を 含みます)		規定せず
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目です  
ので、ご注意ください)。

備考

1. I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から履修してください。
2. 卒業論文 (8 単位) は必修科目ですが、選択科目として読み替えます。卒業論文を履修する場合は、必ず 4 年次に哲学演習 (4 単位) も履修してください。
3. 卒業論文以外の必修科目【哲学概論 1 / 2、論理学概論 1 / 2、倫理学概論 1 / 2、西洋哲学史 I - 1 / I - 2、西洋哲学史 II - 1 / II - 2、基礎演習 1 / 2】12 科目のうち、12 単位以上を選択必修とします。すべてを履修することも可能です。
4. 哲学特講は選択必修科目ですが、選択科目として読み替えます。

文学部 卒業要件 (SS I)  
哲学科

2016 年度入学者

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	選択科目 (必修科目から選択科目として読み替え)	卒業論文	規定せず
	選択必修科目 (必修科目から読み替え)	哲学概論 1 / 2 論理学概論 1 / 2 倫理学概論 1 / 2 西洋哲学史 I - 1 / I - 2 西洋哲学史 II - 1 / II - 2 基礎演習 1 / 2	12 単位以上
	選択科目 (選択必修科目からの読み替え科目を含みます)		規定せず
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から履修してください。
- 卒業論文 (8 単位) は必修科目ですが、選択科目として読み替えます。卒業論文を履修する場合は、必ず 4 年次に哲学演習 (4 単位) も履修してください。
- 卒業論文以外の必修科目【哲学概論 1 / 2、論理学概論 1 / 2、倫理学概論 1 / 2、西洋哲学史 I - 1 / I - 2、西洋哲学史 II - 1 / II - 2、基礎演習 1 / 2】12 科目のうち、12 単位以上を選択必修とします。すべてを履修することも可能です。
- 哲学特講は選択必修科目ですが、選択科目として読み替えます。

文学部 卒業要件 (SS I)

哲学科

2015 年度以前入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)	4 単位以上	
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	基礎演習 4 単位・卒業論文 8 単位	12 単位以上
	選択必修科目	哲学概論、論理学概論、倫理学概論、西洋哲学史 I / II (必修科目から読み替え)	12 単位以上
		哲学演習	8 単位以上 16 単位以下
	選択科目	(選択必修科目からの読み替え科目を含みます)	規定せず
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
- 基礎演習と卒業論文は必修です。
- 基礎演習・卒業論文以外の必修科目 (哲学概論、論理学概論、倫理学概論、西洋哲学史 I / II) 5 科目のうち、3 科目 12 単位以上を選択必修とします。
- 哲学特講は選択必修科目ですが、選択科目として読み替えます。

文学部 卒業要件 (SS I)

哲学科

2015年度以前入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)	4 単位以上		
	5群 (保健体育)	2 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	選択必修科目 (必修科目から読み替 え)	哲学概論、論理学概論、 倫理学概論、西洋哲学史 I / II 基礎演習 1 / 2	12 単位以上	56 単位以上
	選択科目 (選択必修科目からの読み替え科目を含みます)		規定せず	
	自由科目			
卒業所要単位合計 132 単位以上				

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 卒業論文以外の必修科目 (哲学概論、論理学概論、倫理学概論、西洋哲学史 I / II、基礎演習 1 / 2) 7 科目のうち、12 単位以上を選択必修とします。すべてを履修することも可能です。卒業論文は履修できません。
3. 哲学演習、哲学特講は選択必修科目ですが、選択科目として読み替えます。

2017 年度以降入学者

区分・系列		単位規定				
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1		24 単位以上		
	1 群 (人文分野)					
	2 群 (社会分野)					
	3 群 (自然科学)					
	4 群 (外国語)				4 単位以上	
	5 群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2				
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位		44 単位以上		
	SS I 専門科目	30 単位以上				
専 門 科 目	必修科目 (7 科目)		14 単位		56 単位以上	
	選択必修科目	ゼミナール	8 単位以下			
		日本文芸研究特講	24 単位以上 32 単位以下			
	選択科目 (「日本文芸学概論 A/B」、 「日本語学概論 A/B」を含む)		規定せず			42 単位以上
	卒業論文		規定せず			
	自由科目					
卒業所要単位合計 132 単位以上						

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

備考

1. I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 「日本文芸学概論 A/B」「日本語学概論 A/B」は必修科目ではなく、選択科目として履修することになります。
3. ゼミナールを履修する学生は、1 年次秋学期に選抜等の手続きがありますので、諸連絡に注意してください。また、ゼミナールは継続履修を原則とします。ゼミナールを履修しない学生は、2 年次より文学コース・言語コースのどちらかを選択し、所属してください。
4. 卒業論文を履修する学生は、ゼミナールを必ず履修してください。
5. 教職課程の履修希望者は、ゼミナール、卒業論文を履修することが望ましいです。

文学部 卒業要件 (SS I)

日本文学科

2016 年度入学者

区分・系列		単位規定			
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上		
	1 群 (人文分野)				
	2 群 (社会分野)				
	3 群 (自然科学)				
	4 群 (外国語)				
	5 群 (保健体育)	2 単位以上			
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上		
	SS I 専門科目	30 単位以上			
専門科目	必修科目 (7 科目)	14 単位	42 単位以上	56 単位以上	
	選択必修科目	ゼミナール			8 単位以下
		日本文芸研究特講			24 単位以上 32 単位以下
	選択科目 (「日本文芸学概論 A/B」、 「日本語学概論 A/B」を含む)	規定せず			
	卒業論文	規定せず			
自由科目					
卒業所要単位合計 132 単位以上					

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なため、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 「日本文芸学概論 A/B」「日本語学概論 A/B」は必修科目ではなく、選択科目として履修することになります。
3. ゼミナールを履修する学生は、1 年次秋学期に選抜等の手続きがありますので、諸連絡に注意してください。また、ゼミナールは継続履修を原則とします。ゼミナールを履修しない学生は、2 年次より文学コース・言語コースのどちらかを選択し、所属してください。
4. 卒業論文を履修する学生は、ゼミナールを必ず履修してください。
5. 教職課程の履修希望者は、ゼミナール、卒業論文を履修することが望ましいです。

文学部 卒業要件 (SS I)

日本文学科

2015 年度以前入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定			
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上		24 単位以上	
	1 群 (人文分野)				
	2 群 (社会分野)				
	3 群 (自然科学)				
	4 群 (外国語)				4 単位以上
	5 群 (保健体育)	2 単位以上			
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位		44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上			
専門科目	必修科目 (8 科目)		22 単位		56 単位以上
	選択必修科目	【2013 年度以前入学者】 日本文芸研究ゼミナール	8 単位		
		【2014 年度以降入学者】 ゼミナール	16 単位以上 20 単位以下		
		日本文芸研究特講			
	選択科目		規定せず		
自由科目					
卒業所要単位合計 132 単位以上					

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 「日本文芸学概論 A/B」「日本言語学概論 A/B」は必修科目ではなく、選択科目として履修することになります。
3. 教職課程の履修希望者は、卒論選択型を選択することが望ましい。

文学部 卒業要件 (SS I)

日本文学科

2015 年度以前入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		単位規定			
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上		24 単位以上	
	1 群 (人文分野)				
	2 群 (社会分野)				
	3 群 (自然科学)	4 単位以上			
	4 群 (外国語)				
	5 群 (保健体育)				
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位		44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上			
専門科目	必修科目 (卒論を除く 7 科目)		14 単位		56 単位以上
	選択必修科目	日本文芸研究特講	24 単位以上 32 単位以下		
	選択科目		規定せず		
	自由科目		42 単位以上		
卒業所要単位合計 132 単位以上					

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 卒論非選択型を選択した学生は、2 年次より文学コース・言語コースのどちらかを選択し、所属してください。
3. 「日本文芸学概論 A/B」「日本言語学概論 A/B」は必修科目ではなく、選択科目として履修することになります。

文学部 卒業要件 (SS I)

英文学科

2017 年度以降入学者

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)	4 単位以上	
	4 群 (外国語)	2 単位以上 ※注 2	
	5 群 (保健体育)		
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	卒業論文	規定せず	56 単位以上
	選択必修 A	24 単位以上	
	選択必修 B	12 単位以上	
	選択必修 C	8 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

備考

1. I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。

文学部 卒業要件 (SS I)

英文学科

2016 年度入学者

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1 群 (人文分野)			
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)			
	4 群 (外国語)			4 単位以上
	5 群 (保健体育)			2 単位以上
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	卒業論文	規定せず	56 単位以上	
	選択必修 A	24 単位以上		
	選択必修 B	12 単位以上		
	選択必修 C	8 単位以上		
	選択科目	規定せず		
	自由科目			
卒業所要単位合計 132 単位以上				

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。

文学部 卒業要件 (SS I)

英文学科

2015 年度以前入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)	4 単位以上	
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	8 単位	56 単位以上
	選択必修 A	24 単位以上	
	選択必修 B	12 単位以上	
	選択必修 C	8 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。

文学部 卒業要件 (SS I)

英文学科

2015年度以前入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1群 (人文分野)		
	2群 (社会分野)		
	3群 (自然科学)	4 単位以上	
	4群 (外国語)	2 単位以上	
	5群 (保健体育)		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	選択必修 A	24 単位以上	56 単位以上
	選択必修 B	12 単位以上	
	選択必修 C	8 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
史学科

2017 年度以降入学者

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)	4 単位以上	
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2	
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	選択必修科目 (概説系) ※ 1	16 単位以上	56 単位以上
	選択必修科目 (分野別共通系)	2 単位以上	
	選択必修科目 (史料・外書講読・実習系) ※ 2	22 単位以上	
	選択必修科目 (専攻系・特講系) ※ 2		
	選択科目 (演習系・卒業論文)	規定せず	
	選択科目		
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

備考

1. I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、不足する単位は、履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. ※ 1 の選択必修科目 (概説系) は、日本史概説・東洋史概説・西洋史概説からそれぞれ 4 単位修得し、残る 4 単位については、任意の概説から修得します。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合、選択した演習が所属する専攻の概説を 8 単位、それ以外の 2 専攻の概説を各 4 単位以上、修得しなければなりません。
3. 日本史・東洋史・西洋史の専攻には所属しません。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合には、2 年次より日本史・東洋史・西洋史の専攻に所属することになります。選択科目 (演習系・卒業論文) を選択する際には、演習所属のための所定の手続きにしたがって、演習指導教員の了解を得る必要があります。
4. ※ 2 の選択必修科目については、日本史・東洋史・西洋史のいずれの分野からでも選択することができます。また、専攻系・特講系科目は各々 4 単位まで継続履修が可能となります。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合、選択した演習が所属する専攻の科目を 10 単位以上、それ以外の 2 専攻の科目を各 4 単位以上、修得しなければなりません。

2016 年度入学者

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)	4 単位以上	
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	選択必修科目 (概説系) ※ 1	16 単位以上	56 単位以上
	選択必修科目 (分野別共通系)	2 単位以上	
	選択必修科目 (史料・外書講読・実習系) ※ 2	22 単位以上	
	選択必修科目 (専攻系・特講系) ※ 2		
	選択科目 (演習系・卒業論文)	規定せず	
	選択科目		
自由科目			
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、不足する単位は、履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
- ※ 1 の選択必修科目 (概説系) は、日本史概説・東洋史概説・西洋史概説からそれぞれ 4 単位修得し、残る 4 単位については、任意の概説から修得します。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合、選択した演習が所属する専攻の概説を 8 単位、それ以外の 2 専攻の概説を各 4 単位以上、修得しなければなりません。
- 日本史・東洋史・西洋史の専攻には所属しません。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合には、2 年次より日本史・東洋史・西洋史の専攻に所属することになります。選択科目 (演習系・卒業論文) を選択する際には、演習所属のための所定の手続きにしたがって、演習指導教員の了解を得る必要があります。
- ※ 2 の選択必修科目については、日本史・東洋史・西洋史のいずれの分野からでも選択することができます。また、専攻系・特講系科目は各々 4 単位まで継続履修が可能となります。ただし、選択科目 (演習系・卒業論文) を選択した場合、選択した演習が所属する専攻の科目を 10 単位以上、それ以外の 2 専攻の科目を各 4 単位以上、修得しなければなりません。

文学部 卒業要件 (SS I)

史学科

2015年度以前入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)			4 単位以上
	5群 (保健体育)			2 単位以上
SS I科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	必修科目	8 単位	56 単位以上	
	選択必修科目 (概説系) ※1	16 単位以上		
	選択必修科目 (分野別共通系)	2 単位以上		
	選択必修科目 (史料・外書講読・実習系)	4 単位以上		
	選択必修科目 (演習系)	8 単位		
	選択必修科目 (専攻系・特講系) ※2	18 単位以上		
	選択科目	規定せず		
	自由科目			
卒業所要単位合計 132 単位以上				

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、不足する単位は、専門教育科目 (選択科目・自由科目を含みます) から履修することが望ましい。
2. 2年次より日本史・東洋史・西洋史のコースへ所属します。
3. ※1 の選択必修科目 (概説系) は、所属専攻の概説を 8 単位、所属専攻以外の概説を各 4 単位以上修得しなければなりません。
4. ※2 の選択必修科目 (専攻系・特講系) は、所属する専攻の科目を 10 単位以上、所属専攻以外の 2 専攻を各 4 単位以上、修得しなければなりません。

文学部 卒業要件 (SS I)

史学科

2015 年度以前入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		また単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	選択必修科目 (概説系) ※ 1	16 単位以上	56 単位以上
	選択必修科目 (分野別共通系)	2 単位以上	
	選択必修科目 (史料・外書講読・実習系) ※ 2	22 単位以上	
	選択必修科目 (専攻系・特講系) ※ 2		
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. ※ 1 の日本史概説・東洋史概説・西洋史概説からそれぞれ 4 単位修得し、残る 4 単位については、任意の概説から修得します。
3. 日本史・東洋史・西洋史のコースには所属しません。※ 2 の選択必修科目については、日本史・東洋史・西洋史のいずれの分野からでも選択することができます。また、専攻系・特講系科目は各々 4 単位まで継続履修可能となります。

地理学科

2017 年度以降入学者（卒論選択型）

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0 群（導入）	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1 群（人文分野）		
	2 群（社会分野）		
	3 群（自然科学）		
	4 群（外国語）		
	5 群（保健体育）	2 単位以上 ※注 2	
S S I 科 目	S S I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	S S I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	必修科目	18 単位	56 単位以上
	選択必修科目	24 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習（2 単位）が必修です（スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください）。

備考

- 卒論選択型あるいは卒論非選択型のコース選択は 4 年次進級時に行います。
- I L A C 科目（24 単位以上）、S S I 科目（44 単位以上）および専門科目（56 単位以上）の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位数分は履修が認められている科目（自由科目を含みます）から修得してください。
- 専門科目の必修科目には以下の科目が含まれます。
  - ・地理学概論（1） ・地理学概論（2） ・地理実習（1） ・地理実習（2）
  - ・現地研究 ・卒業論文
- 卒論を選択する場合は、かならず選択必修科目である演習（ゼミ）を履修してください。
- 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
- 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室（ボアソナード・タワー12 階）で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
地理学科

2017 年度以降入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		単位規定	
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)	4 単位以上	
	5 群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2	
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専 門 科 目	必修科目	規定せず (但し、卒業論文は履修できません)	56 単位以上
	選択必修科目	規定せず	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

備考

1. 卒論選択型あるいは卒論非選択型のコース選択は 4 年次進級時に行います。
2. I L A C 科目 (24 単位以上)、S S I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
3. 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
4. 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室 (ボアソナード・タワー12 階) で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
地理学科

2016 年度入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)	4 単位以上	
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	18 単位	56 単位以上
	選択必修科目	24 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

- 卒論選択型あるいは卒論非選択型のコース選択は4年次進級時に行います。
- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
- 専門科目の必修科目には以下の科目が含まれます。
  - ・地理学概論 (1) ・地理学概論 (2) ・地理実習 (1) ・地理実習 (2)
  - ・現地研究 ・卒業論文
- 卒論を選択する場合は、かならず選択必修科目である演習 (ゼミ) を履修してください。
- 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
- 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室 (ボアソナード・タワー12 階) で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
地理学科

2016 年度入学者 (卒論非選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)	4 単位以上	
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	規定せず (但し、卒業論文は履修できません)	56 単位以上
	選択必修科目	規定せず	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

1. 卒論選択型あるいは卒論非選択型のコース選択は 4 年次進級時に行います。
2. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
3. 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
4. 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室 (ボアソナード・タワー12 階) で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件 (SS I)

地理学科

2015 年度以前入学者 (卒論選択型)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1 群 (人文分野)		
	2 群 (社会分野)		
	3 群 (自然科学)		
	4 群 (外国語)		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門科目	必修科目	18 単位	56 単位以上
	選択必修科目	24 単位以上	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132 単位以上			

備考

1. 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
3. 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室 (ボアソナード・タワー12 階) で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件（SS I）

地理学科

2015年度以前入学者（卒論非選択型）

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0群（導入）	14単位以上	24単位以上
	1群（人文分野）		
	2群（社会分野）		
	3群（自然科学）	4単位以上	
	4群（外国語）	2単位以上	
	5群（保健体育）		
SS I科目	SS I基礎科目	14単位	44単位以上
	SS I専門科目	30単位以上	
専門科目	必修科目	規定せず (但し、卒業論文は履修できません)	56単位以上
	選択必修科目	規定せず	
	選択科目	規定せず	
	自由科目		
卒業所要単位合計 132単位以上			

備考

- 市ヶ谷基礎科目（24単位以上）、SS I科目（44単位以上）および専門科目（56単位以上）の最小必要単位数を合算すると124単位になります。ただし、卒業所要単位は132単位以上必要なため、残りの8単位分は履修が認められている科目（自由科目を含みます）から修得してください。
- 所定の科目を履修することによって、教職の免許の取得が可能です。
- 測量士補の資格取得希望者は、受講科目のアドバイス、および注意する点がありますので、早めに地理学科事務室（ボアソナード・タワー12階）で指導を受けるようにしてください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
心理学科

2017 年度以降入学者

区分・系列		単位規定		
I L A C 科 目	0 群 (導入)	14 単位以上 ※注 1	24 単位以上	
	1 群 (人文分野)			
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)			
	4 群 (外国語)	4 単位以上		
	5 群 (保健体育)	2 単位以上 ※注 2		
S S I 科 目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専 門 科 目	卒業論文	規定せず	56 単位以上	
	学科基礎科目			
	展開科目			演習 I
				演習 II
				研究法
				認知系科目群・ 発達系科目群
自由科目				
卒業所要単位合計 132 単位以上				

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

備考

1. I L A C 科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
2. SS I 学生で卒業論文の履修をしようとする場合、他の SS I 以外の学生と同様に 2 年次秋学期に行われる「研究法 I / II 事前調査」に回答、提出し、3 年次からのゼミ配属手続を行ってください。

文学部 卒業要件 (SS I)  
心理学科

2016 年度入学者

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1 群 (人文分野)			
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)			
	4 群 (外国語)			4 単位以上
	5 群 (保健体育)	2 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	卒業論文	規定せず	56 単位以上	
	学科基礎科目			
	展開科目			演習 I
				演習 II
				研究法
				認知系科目群・ 発達系科目群
自由科目				
卒業所要単位合計 132 単位以上				

備考

- 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。
- SS I 学生で卒業論文の履修をしようとする場合、他の SS I 以外の学生と同様に 2 年次秋学期に行われる「研究法 I / II 事前調査」に回答、提出し、3 年次からのゼミ配属手続を行ってください。

文学部 卒業要件 (SS I)

心理学科

2015 年度以前入学者

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上	
	1 群 (人文分野)			
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)	4 単位以上		
	4 群 (外国語)			
	5 群 (保健体育)	2 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門科目	必修科目	規定せず	56 単位以上	
	学科基礎科目			
	展開科目			演習 I
				演習 II
				研究法
				認知系科目群・ 発達系科目群
自由科目				
卒業所要単位合計 132 単位以上				

備考

市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は履修が認められている科目 (自由科目を含みます) から修得してください。

## 2016年度以降入学者

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに、卒業所要単位のうち20単位以上を修得しなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに、卒業所要単位のうち36単位以上を修得しなければならない。
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに、卒業所要単位のうち84単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎科目※4群（外国語科目）及び基礎科目※5群（保健体育科目）の卒業要件を満たしているものとする。
- 2 哲学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の要件を全て満たさなければならない。
- (1) 次に示す①から⑤のうち、4組以上を修得すること。
- ① 「哲学概論1」「哲学概論2」
  - ② 「論理学概論1」「論理学概論2」
  - ③ 「倫理学概論1」「倫理学概論2」
  - ④ 「西洋哲学史Ⅰ-1」「西洋哲学史Ⅰ-2」
  - ⑤ 「西洋哲学史Ⅱ-1」「西洋哲学史Ⅱ-2」
- (2) 「基礎演習1」「基礎演習2」の2科目のうち、1科目以上修得すること。
- 3 日本文学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の14単位を全て修得しなければならない。
- ① 「大学での国語力」 2単位
  - ② 「日本文芸学概論A」 2単位
  - ③ 「日本文芸学概論B」 2単位
  - ④ 「日本語学概論A」 2単位
  - ⑤ 「日本語学概論B」 2単位
  - ⑥ 「ゼミナールA」 2単位
  - ⑦ 「ゼミナールB」 2単位
- 4 史学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、選択必修科目（演習系）のうち、4単位以上修得しなければならない。
- 第4条 前条における不足単位数がある場合は、次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。ただし、文学部設置の専門教育科目は再試験を行わない。
- (1) 基礎科目※と専門教育科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く。）
- 第5条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。ただし、法政大学学則第49条第4項に定める場合は除く。
- 第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。
- ※2017年度以降入学者は、ILAC科目という名称で履修します。

注 進級再試験については『文学部 履修の手引き』の「【文学部項目】授業・試験・成績について—9.試験—再試験について（3年次のみ）」を熟読してください。

## 2014年度・2015年度入学者

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに、卒業所要単位のうち20単位以上を修得しなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに、卒業所要単位のうち36単位以上を修得しなければならない。
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに、卒業所要単位のうち84単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎科目4群（外国語科目）及び基礎科目5群（保健体育科目）の卒業要件を満たしているものとする。
- 2 哲学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の要件を全て満たさなければならない。
- (1) 「哲学概論」「論理学概論」「倫理学概論」「西洋哲学史Ⅰ」「西洋哲学史Ⅱ」の5科目のうち、4科目以上修得すること。
- (2) 「基礎演習1」「基礎演習2」の2科目のうち、1科目以上修得すること。
- 3 日本文学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の14単位を全て修得しなければならない。
- |              |     |
|--------------|-----|
| ① 「大学での国語力」  | 2単位 |
| ② 「日本文芸学概論A」 | 2単位 |
| ③ 「日本文芸学概論B」 | 2単位 |
| ④ 「日本言語学概論A」 | 2単位 |
| ⑤ 「日本言語学概論B」 | 2単位 |
| ⑥ 「ゼミナールA」   | 2単位 |
| ⑦ 「ゼミナールB」   | 2単位 |
- 4 史学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、選択必修科目（演習系）のうち、4単位以上修得しなければならない。
- 第4条 前条における不足単位数がある場合は、次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。ただし、文学部設置の専門教育科目は再試験を行わない。
- (1) 基礎科目と専門教育科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く。）
- 第5条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。ただし、法政大学学則第49条第4項に定める場合は除く。
- 第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

注 進級再試験については『文学部 履修の手引き』の「【文学部項目】授業・試験・成績について—9.試験—再試験について（3年次のみ）」を熟読してください。

## 2012年度・2013年度入学者

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに、卒業所要単位のうち20単位以上を修得しなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに、卒業所要単位のうち36単位以上を修得しなければならない。
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに、卒業所要単位のうち84単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎科目4群（外国語科目）及び基礎科目5群（保健体育科目）の卒業要件を満たしているものとする。
- 2 哲学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の要件を全て満たさなければならない。
- (1) 「哲学概論」「論理学概論」「倫理学概論」「西洋哲学史Ⅰ」「西洋哲学史Ⅱ」の5科目のうち、4科目以上修得すること。
- (2) 「基礎演習1」「基礎演習2」の2科目のうち、1科目以上修得すること。
- 3 日本文学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、次の14単位を全て修得しなければならない。
- ① 「大学での国語力」 2単位
- ② 「日本文芸学概論A」 2単位
- ③ 「日本文芸学概論B」 2単位
- ④ 「日本言語学概論A」 2単位
- ⑤ 「日本言語学概論B」 2単位
- ⑥ 「日本文芸研究ゼミナール」 4単位
- 4 史学科に所属する者（SSI所属学生は除く）は、第1項に規定する要件を満たしたうえで、選択必修科目（演習系）のうち、4単位以上修得しなければならない。
- 第4条 前条における不足単位数がある場合は、次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。
- ただし、文学部設置の専門教育科目は再試験を行わない。
- (1) 基礎科目と専門教育科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く。）
- 第5条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。ただし、法政大学学則第49条第4項に定める場合は除く。
- 第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

注 進級再試験については『文学部 履修の手引き』の「【文学部項目】授業・試験・成績について—9.試験—再試験について（3年次のみ）」を熟読してください。

【2015年度以前入学生】卒業所要単位

区分・系列		単位規定	
基礎教育科目	入門ゼミ	4 単位	
外国語科目（英語）		8 単位	
保健体育科目	スポーツ総合	2 単位	2 単位以上
	スポーツ種目	自由選択	
総合教育科目		14 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
専門教育科目	基本科目	52 単位以上	
	選択科目		
	自由科目		
卒業所要単位合計 124 単位以上			

進級に関する規程（経済学部）

- (1) 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
- (2) 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに50単位以上修得していなければならない。※
- (3) 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
  - ① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ4単位）
  - ② 外国語科目の卒業所要単位（＝英語8単位）
  - ③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合2単位）
  - ④ 総合教育科目＋SS I 基礎科目＋SS I 専門科目＋専門教育科目 $\geq$ 74単位
- (4) 単位不足で第3年次（第4年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第3年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第4年次には4単位以上修得しなければならない。

（注1）本規程は、SS I 所属経済学科生および現代ビジネス学科生に適用する。

（注2）進級に関する再試験は実施しない。

※(2)は2012年度以降入学生より適用

【2016年度以降入学生】卒業所要単位

区分・系列		単位規定	
基礎教育科目	入門ゼミ	4 単位	
外国語科目	英語	6 単位	6 単位以上
	選択科目	自由選択	
保健体育科目	スポーツ総合	2 単位	2 単位以上
	スポーツ種目	自由選択	
総合教育科目		14 単位以上	
S S I 科 目	S S I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	S S I 専門科目	30 単位以上	
専門教育科目		54 単位以上	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

進級に関する規程（経済学部）

- (1) 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
- (2) 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに50単位以上修得していなければならない。
- (3) 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
  - ① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ4単位）
  - ② 外国語科目の卒業所要単位（＝英語6単位）
  - ③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合2単位）
  - ④ 総合教育科目＋S S I 基礎科目＋S S I 専門科目＋専門教育科目 $\geq$ 76単位
- (4) 単位不足で第3年次（第4年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第3年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第4年次には4単位以上修得しなければならない。

（注1）本規程は、S S I 所属経済学科生および現代ビジネス学科生に適用する。

（注2）進級に関する再試験は実施しない。

**2013年度以前入学対象**

社会学部を卒業し、学士の学位を得るための卒業所要単位数（卒業に必要な単位数）は、138単位であり、在学年限内に以下のとおり、科目群・区分の条件を満たさなければならない（下記の単位には、教職・資格関係科目は含まない）。

科目群・区分		卒業所要単位数			
学部 共通 基礎 科目	基礎演習	選択			34 単位以上
	視野形成科目	B群から選択必修	4 単位以上		
	社会調査	選択			
	情報教育基礎	選択			
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修	2 単位	
		スポーツ総合2	選択		
	外国語	Basic English1・2	必修	4 単位	
諸外国語初級 A・B		必修	4 単位		
学科 入門 科目	「〇〇学への招待」(所属学科)	選択必修		14 単位以上	
	「〇〇学入門 A・B」(所属学科)	4 単位以上			
	コース入門科目 (所属学科)	選択必修	10 単位以上		
	「〇〇学への招待」(他学科)				
	「〇〇学入門 A・B」(他学科)				
	コース入門科目 (他学科)				
コース 専門 科目	①環境政策コース [EPC] ②企業と社会コース [BSC] ③コミュニティデザインコース [CDC] ④人間・社会コース [HSC] ⑤メディア社会コース [MSC] ⑥メディア文化コース [MCC] ⑦国際社会コース [ISC] ※	【主専攻】 主専攻のコース：18 単位以上 【副専攻】※ コースを副専攻に選択した場合 ：14 単位以上	32 単位以上	138 単位 以上	
学部 共通 専門 科目	社会科学基礎理論 [BT]	選択必修	8 単位以上	38 単位以上	
	①政策リサーチプログラム [PLP]				
	②公務員プログラム [PSP]				
	③社会学総合プログラム [GSP]				
	④社会調査プログラム [SRP]				
	⑤情報教育プログラム [ICP]				
	⑥メディアリサーチプログラム [MLP]				
	⑦Advanced English Program [AEP]				
⑧諸外国語中級プログラム					
諸外国語選択科目	選択				
演習	選択				
自由選択科目 (他学部公開科目含む) : 科目群に関わらず履修できる科目			20 単位以上		

※主専攻コースのほかに、それ以外のコースまたはプログラムから副専攻を1つ以上修得することが卒業要件となる。自分が選択した副専攻でなくても、14単位以上単位を修得しているコース・プログラム（主専攻コース以外）があれば、副専攻の卒業要件を満たすことになる（下記※の場合を除く）。

※国際社会コースを主専攻として選択した場合は、Advanced English Program か諸外国語中級プログラムのいずれか一つを副専攻としなければならない。

※SSI基礎科目（14単位）は、学部共通基礎科目もしくは学科入門科目に充当される。

※社会学部で開講のSSI専門科目については、それぞれ学部共通基礎科目、コース専門科目、学部共通専門科目に充当し、社会学部開講以外のSSI専門科目は、自由選択科目とする。

## 2013年度以前入学者対象

※4年次の卒業要件は以下のとおりである。

(1) 通算在学年数が3.0年で第4年次へ進級した者

(1～3年次までの間に留年を経験したことがない者)

第4年次においては8単位以上を修得しなければならない。なお、その8単位は演習3(卒業論文)で修得するか、最低4単位以上を通年または秋学期科目で修得しなければならない(教職・資格科目、「諸外国語中級7・8」の単位はこれに含めない)。

※なお、通算在学年数が3.0年で4年次に進級した時点で年間休学した場合(=通算在学年数は3.0年のまま)は学年末に「休学による留年」となるが、休学期間は在学年数に含まれないため、休学終了後の4年次における卒業要件は上記(1)の規定を適用する。

(2) 通算在学年数が3.5年以上の第4年次

①前年度終了時点で卒業所要単位をすべて満たしている場合

前年度終了時点で卒業所要単位をすべて満たしている場合は、第4年次の最終在学期においては2単位以上を修得しなければならない(教職・資格科目、「諸外国語中級7・8」の単位はこれに含めない)。

②前年度終了時点で卒業所要単位を満たしていない場合

前年度終了時点で卒業所要単位を満たしていない場合は、第4年次の最終在学期においては卒業所要単位を満たさなければならない。この場合、最終在学期における修得単位数の条件は設けないこととする。

※卒業要件一覧表の「卒業所要単位数」を満たしている場合であっても、通算在学年数に応じた「4年次における卒業要件」を満たさない限り、卒業することはできない。

具体的適用例など詳細は社会学部履修要綱・時間割表を参照すること。

## 2013年度以前入学者対象

### 進級に関する規程（社会学部）

「学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は別に定める規程により進級することはできない。」（学則第19条）

社会学部において進級するためには、年次ごとに下記の進級要件を満たさなければならない。

1単位でも不足したり、間違いがあると、進級できないので注意すること。

なお、下記の単位に教職・資格に関する科目は含まれない。

#### 【1年次から2年次への進級要件】

1年次で通算して1年以上在籍し、1年次終了までに、**30単位以上**を修得しなければならない。

#### 【2年次から3年次への進級要件】

2年次で通算して1年以上在籍し、以下に示す要件を全て満たさなければならない。

(1) 2年次終了までに、**60単位以上**を修得しなければならない。

(2) 学科入門科目より、**14単位以上**を修得しなければならない。

ただし、①自分が所属する学科の「〇〇学への招待」、「〇〇学入門A・B」より4単位以上、②自分が所属する学科の「〇〇学への招待」、「〇〇学入門A・B」、「コース入門科目」をあわせて合計10単位以上を修得しなければならない。

#### 【3年次から4年次への進級要件】

3年次で通算して1年以上在籍し、以下に示す要件を全て満たさなければならない。

(1) 3年次終了までに、**98単位以上**を修得しなければならない。

(2) 「Basic English 1-I・II」「Basic English 2-I・II」および「必修外国語として登録した諸外国語初級A・B」について、各々4単位、**合計8単位**を修得しなければならない。

(3) 「スポーツ総合1-I・II」（合計2単位）を修得しなければならない。

(4) 社会科学基礎理論から**4単位以上**を修得しなければならない。

2014年度～2017年度入学者対象

卒業要件 (SSI※全学科共通)

社会学部を卒業し、学士(社会学)の学位を得るための卒業所要単位数(卒業に必要な単位数)は124単位であり、かつ在学年限内に下記の「卒業要件一覧表」の科目群・区分の条件をすべて満たさなければならない(下記の単位には教職・資格に関する科目は含まれない)。

【卒業要件一覧表】

科目群・区分		卒業所要単位				
共通基礎科目	基礎演習	選択				
	視野形成科目	B群から選択必修 4単位以上				
	社会調査	選択				
	情報教育基礎	選択				
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修 2単位			
		スポーツ総合2	選択			
	外国語	Basic English1・2	必修 4単位			
諸外国語初級A・B		必修 4単位				
入門科目	社会政策科学科	「社会政策科学への招待」 「社会政策科学入門A・B」	選択必修 4単位以上			
		コース入門科目(学科指定)	選択必修 8単位以上			
	社会学科	「社会学への招待」 「社会学入門A・B」	選択必修 4単位以上			
		コース入門科目(学科指定)	選択必修 8単位以上			
	メディア社会学科	「メディア社会学への招待」 「メディア社会学入門A・B」	選択必修 4単位以上			
		コース入門科目(学科指定)	選択必修 8単位以上			
専門科目	社会科学基礎理論[BT]		選択必修 8単位以上			
	コース専門科目	①環境政策コース[EPC] ②企業と社会コース[BSC] ③コミュニティ・デザインコース[CDC] ④人間・社会コース[HSC] ⑤メディア社会コース[MSC]※3 ⑥メディア文化コース[MCC]※3 ⑦国際社会コース[ISC]※2	【主専攻】 主専攻のコース:22単位以上 【副専攻】※1 コースを副専攻に 選択した場合:10単位以上			
		プログラム専門科目	①政策リテラシープログラム[PLP] ②公務員プログラム[PSP] ③社会学総合プログラム[GSP] ④社会調査プログラム[SRP] ⑤情報デザインプログラム[IDP] ⑥メディア制作プログラム[MPP] ⑦Advanced English Program[AEP] ⑧諸外国語中級プログラム	【副専攻】※1 プログラムを副専攻に 選択した場合:10単位以上		
			諸外国語選択科目		選択	
			演習		選択	
自由選択科目(他学部公開科目含む):科目群に関わらず履修できる科目			20単位以上			
			62単位以上			
			124単位以上			

※1 主専攻コースのほか、それ以外のコースまたはプログラムから副専攻を一つ以上修得することが卒業要件となる。自分が選択した副専攻でなくとも、10単位以上単位を修得しているコース・プログラム(主専攻コース以外)があれば、副専攻の卒業要件を満たすことになる(下記※2※3の場合を除く)。

※2 国際社会コースを主専攻として選択した場合は、Advanced English Programか諸外国語中級プログラムのいずれか一つを副専攻としなければならない。

※3 メディア社会コースを主専攻として選択した場合は、メディア文化コースを副専攻にすることはできない。同様に、メディア文化コースを主専攻とした場合は、メディア社会コースを副専攻にすることはできない。

## 2014年度～2017年度入学者対象

### 進級に関する規程

「学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は別に定める規程により進級することはできない。」(学則第19条)

社会学部において進級するためには、年次ごとに下記の進級要件を満たさなければならない。1単位でも不足したり、間違いがあると、進級できないので注意すること。

なお、下記の単位に教職・資格に関する科目は含まれない。

#### 【1年次から2年次への進級要件】

1年次で通算して1年以上在籍し、1年次終了までに、**24単位以上**を修得しなければならない。

#### 【2年次から3年次への進級要件】

2年次で通算して1年以上在籍し、自分が所属する学科の「〇〇学への招待」、「〇〇学入門A・B」より**4単位以上**と、自分が所属する学科の「コース入門科目」より**8単位以上**を修得しなければならない。

※2年次終了までに27単位以上修得していない場合、3年次から4年次への進級はできない。

#### 【3年次から4年次への進級要件】

3年次で通算して1年以上在籍し、以下に示す要件をすべて満たさなければならない。

- (1)3年次終了までに、**76単位以上**を修得しなければならない。
- (2)「Basic English 1-I・II」「Basic English 2-I・II」および「必修外国語として登録した諸外国語初級A・B」について、各々4単位、**合計8単位**を修得しなければならない。
- (3)「スポーツ総合1-I・II」(**合計2単位**)を修得しなければならない。

社会政策科学科 卒業要件 (SSI)

2018年度以降入学者対象

区分・科目群		卒業所要単位						
総合科目	基礎演習	選択				30単位以上	124単位以上	
	視野形成科目	B群から選択必修 4単位以上						
	情報教育基礎	選択						
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修		2単位			
		スポーツ総合2	選択					
	外国語	Basic English 1・2	必修		4単位			
諸外国語初級A・B		必修		4単位				
専門科目	入門科目	選択必修 6単位以上				74単位以上		
	学科共通科目	基礎科目	選択必修 12単位以上					
		展開科目	選択必修 8単位以上					
	コース専門科目	企業と社会コース	選択必修 (1つのコースを 選択)	A群	2単位以上			18単位 以上
		サステナビリティコース		B群				
		グローバル市民社会コース						
演習	選択							
外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム	選択						
	諸外国語選択科目							
自由選択科目								

<注意事項>

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない(3年次への進級要件)。
- ◆各コースに1年次から履修できるコース専門科目(A群科目)が2つずつ設定されている。各コースで扱う問題領域の概略を知ることができるので、ぜひ1年次にさまざまなコースのA群科目を履修してほしい。ただし、卒業には、選択したコースから、A群科目2単位を含めて合計18単位の修得が必要である。1年次に修得したA群科目のコースと異なるコースを選択した場合は、2年次以降に、選択したコースのA群科目2単位を修得しなければならないことに注意しよう。
- ◆社会学部SSI生に関する「SSI基礎科目」「SSI専門科目」の単位充当先等については、社会学部履修要綱で必ず確認すること。

社会学科 卒業要件 (SSI)  
※「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者

2018年度以降入学者対象

区分・科目群			卒業所要単位	
総合科目	基礎演習		選択	
	視野形成科目		B群から選択必修 4単位以上	
	情報教育基礎		選択	
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修 2単位	
		スポーツ総合2	選択	
	外国語	Basic English 1・2	必修 4単位	
諸外国語初級A・B		必修 4単位		
専門科目	学科専門科目	入門科目		選択必修 6単位以上
		学科共通科目	基礎科目	A群 選択必修 6単位以上 B群 選択必修 12単位以上
			展開科目	選択必修 12単位以上
	コース専門科目	人間・社会コース	選択必修 (1つのコースを選択) 18単位以上	
		地域・社会コース		
		文化・社会コース		
		国際・社会コース	選択	
演習		選択		
外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム		選択	
	諸外国語選択科目			
自由選択科目				

124単位以上

<注意事項>

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない(3年次への進級要件)。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位12単位のうち、6単位はA群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。  
「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の14単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは「社会学部履修要綱」で確認すること。
- ◆社会学部SSI生に関する「SSI基礎科目」「SSI専門科目」の単位充当先等については、社会学部履修要綱で必ず確認すること。

社会学科 卒業要件 (SSI)  
 ※「国際・社会」コース選択者

2018年度以降入学者対象

区分・科目群			卒業所要単位		
総合科目	基礎演習		選択		
	視野形成科目		B群から選択必修 4単位以上		
	情報教育基礎		選択		
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修 2単位		
		スポーツ総合2	選択		
	外国語	Basic English 1・2	必修 4単位		
諸外国語初級A・B		必修 4単位			
専門科目	入門科目		選択必修 6単位以上		
	学科共通科目	基礎科目	A群	選択必修 6単位以上	
			B群	選択必修 12単位以上	
	展開科目		選択		
	コース専門科目	国際・社会コース		選択必修 18単位以上	
		人間・社会コース		選択	
		地域・社会コース			
文化・社会コース					
演習		選択			
外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム		選択必修 (左記プログラムのうちいずれか1つを選択) 12単位※		
	諸外国語選択科目		選択		
自由選択科目					

30単位以上

62単位以上

124単位以上

12単位以上

※「国際・社会」コース選択者は、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれか1つを選択し、12 単位修得すること。

<注意事項>

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない(3年次への進級要件)。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位12 単位のうち、6単位はA 群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12 単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の14 単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは「社会学部履修要綱」で確認すること。
- ◆社会学部SSI生に関する「SSI基礎科目」「SSI専門科目」の単位充当先等については、社会学部履修要綱で必ず確認すること。

メディア社会学科 卒業要件 (SSI)

2018年度以降入学者対象

区分・科目群			卒業所要単位	
総合科目	基礎演習		選択	
	視野形成科目		B群から選択必修 4単位以上	
	情報教育基礎		選択	
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修 2単位	
		スポーツ総合2	選択	
	外国語	Basic English 1・2	必修 4単位	
諸外国語初級A・B		必修 4単位		
専門科目	学術科目	入門科目		選択必修 6単位以上
		学科共通科目	基礎科目	A群
	B群			選択必修 12単位以上
	コース専門科目	展開科目		選択
		メディア表現コース メディア分析コース メディア設計コース	選択必修 (1つのコースを選択) 18単位以上	
			演習	
	外国語教育プログラム		Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム	
諸外国語選択科目				
自由選択科目				

<注意事項>

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない(3年次への進級要件)。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位12単位のうち、4単位はA群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆コース選択について  
実習的な性格を持った「実践」科目の履修機会を保障するため、メディア社会学科カリキュラムに設置されたコースには収容上限(各コースメディア社会学科1年次在籍者の40%)が設けられている。上限を超えたコースでは、1年次GPAによる選抜を実施する。1年次秋学期に社会学部事務課へ提出する「コース選択希望登録票」によって、希望コースを登録する。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、「入門科目」等でコース選択のためのガイダンスを行うので、授業での案内や掲示に十分注意すること。なお、メディア社会学科では、原則としてコース変更を認めていない。
- ◆コース専門科目のモジュールについて  
選択したコースの専門科目のうち「理論」「技法」科目を2年次以降に履修し、3年次以降には選択したコースの「実践」科目を履修する。卒業のためには、選択したコースの専門科目から18単位(9科目)以上の修得が必要となるので注意すること。
- ◆「実践」科目  
コース専門科目の「実践」科目は、少人数による教育を前提としているので、履修登録に先立ち、クラスサイズを適正化するための調整を実施することがある。調整の実施時期は、2年次の成績発表から授業開始時までの間に設定し、掲示などにより告知する。具体的な調整方法についても、掲示などで告知するので十分に注意すること。
- ◆社会学部SSI生に関する「SSI基礎科目」「SSI専門科目」の単位充当先等については、社会学部履修要綱で必ず確認すること。

## 2018年度以降入学者対象

### 進級に関する規程

進級時期は学年度始め(4月)に限られている。進級するためには、各年次で通算して1年以上在学し、下記に述べる所定の単位数を充たさなければならない。

「学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は、別に定める規程により進級することができない。」(学則第19条)

なお、下記に述べる単位に教職・資格に関する科目は含まれない。

#### 【1年次から2年次への進級要件】

1年次で通算して1年以上在籍し、1年次終了までに、**24単位以上**を修得しなければならない。

#### 【2年次から3年次への進級要件】

2年次で通算して1年以上在籍し、所属する学科の入門科目(4科目8単位)から**6単位以上**を修得しなければならない。

※2年次終了までに36単位以上を修得していない場合、3年次に履修登録上限があるため3年次から4年次への進級ができなくなるので十分注意すること。

#### 【3年次から4年次への進級要件】

3年次で通算して1年以上在籍し、以下に示す要件をすべて満たさなければならない。

- (1) 3年次終了までに、**76単位以上**を修得しなければならない。
- (2) 「Basic English 1-I・II」「Basic English 2-I・II」および「必修外国語として登録した諸外国語初級A・B」について、各々4単位、**合計8単位**を修得しなければならない。
- (3) 「スポーツ総合1-I・II」(**合計2単位**)を修得しなければならない。

2017年度以降入学者 経営学部 卒業要件 (SSI)

区分・系列		単位規定			系列ごと単位規定と 下記要件を 同時に満たすこと
		経営学科	経営戦略学科	市場経営学科	
I L A C 科 目	0群	14 単位以上 (※注 1)			24 単位以上
	1群				
	2群				
	3群				
	4群				
	5群	2 単位以上 (※注 3)			
S S I 科 目	SSI 基礎科目	14 単位			44 単位以上
	SSI 専門科目	30 単位以上			
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目 A群	8 単位以上			56 単位以上
	専門基礎科目 B群	12 単位以上			
	経営学科専門科目	16 単位以上	選択	選択	
	経営戦略学科専門科目	選択	16 単位以上	選択	
	市場経営学科専門科目	選択	選択	16 単位以上	
	外国語経営学科科目	選択 (ただし、最高 16 単位まで)			
	キャリアプログラム科目 (※注 4)	選択			
	特殊講義				
	演習 (※注 5)				
情報関係科目					
連 環 科 目	法律関係科目	4 単位以上 (ただし、最高 8 単位まで)			
	総合科目				
	公開科目				
	交換留学生受け入れプログラム				
	グローバル・オープン科目				
	グローバル教育センター設置科目				
I L A C 科目、S S I 科目、専門教育科目・連環科目より自由に履修 ※注 6					8 単位以上
卒業所要単位合計 132 単位以上					

3 年次修了までに卒業所要単位を修得していても、4 年次に 8 単位以上 (教職・資格科目は除く) を修得しなければ卒業することはできません (※注 7 参照)

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 I L A C 科目 4 群 (外国語科目) は選択した外国語の修得単位数が合計で 4 単位となるよう、英語は English1~2 の I および II、諸外国語は 1~2 の I および II で履修してください。  
ただし、教職課程の履修を希望する者は英語科目を 2 単位以上修得する必要があります。対象科目については教職課程履修要綱で確認してください。

※注 3 I L A C 科目 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

※注 4 キャリアプログラム科目の SA 認定科目は、3~4 ヶ月 SA の場合 16 単位以下です。

※注 5 演習の単位は、入門演習 I / II (1 年次) が各 2 単位、一部の演習を除き演習 1/2 (2 年次)、演習 3/4 (3 年次)、演習 5/6 (4 年次) は各 3 単位以下です。

※注 6 I L A C 科目 (24 単位以上)、S S I 科目 (44 単位以上) および専門教育科目・連環科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

※注 7 留学、休学、または留級などで 4 年次に複数年在籍した場合、4 年次であったときに修得した単位が年度をまたいでも合計 8 単位以上あれば、「4 年次で 8 単位以上」の卒業要件を満たします。

区分・系列		単位規定			系列ごと単位規定と 下記要件を 同時に満たすこと
		経営学科	経営戦略学科	市場経営学科	
市ヶ谷基礎科目	0群	14 単位以上			24 単位以上
	1群				
	2群				
	3群				
	4群	4 単位以上 (※注 1 参照)			
5群	2 単位以上				
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位			44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上			
専門教育科目	専門基礎科目 A 群	8 単位以上			56 単位以上
	専門基礎科目 B 群	12 単位以上			
	経営学科専門科目	16 単位以上	選択	選択	
	経営戦略学科専門科目	選択	16 単位以上	選択	
	市場経営学科専門科目	選択	選択	16 単位以上	
	外国語経営学科目	選択 (ただし、最高 16 単位まで)			
	キャリアプログラム科目 (※注 2)	選択			
	特殊講義				
	演習 (※注 3)				
情報関係科目					
連環科目	法律関係科目	4 単位以上 (ただし、最高 8 単位まで)			
	総合科目				
	公開科目				
	交換留学生受け入れプログラム				
	グローバル・オープン科目				
	グローバル教育センター設置科目				
市ヶ谷基礎科目、SS I 科目、専門教育科目・連環科目より自由に履修 ※注 4				8 単位以上	
卒業所要単位合計 132 単位以上					

3 年次修了までに卒業所要単位を修得していても、4 年次に 8 単位以上 (教職・資格科目は除く) を修得しなければ卒業することはできません (※注 5 参照)

- ※注 1 市ヶ谷基礎科目 4 群 (外国語科目) は選択した外国語の修得単位数が合計で 4 単位となるよう、英語は English1~2 の I および II、諸外国語は 1~2 の I および II で履修してください。  
ただし、教職課程の履修を希望する者は英語科目を 2 単位以上修得する必要があります。対象科目については教職課程履修要綱で確認してください。
- ※注 2 キャリアプログラム科目の SA 認定科目は、3~4 ヶ月 SA の場合 16 単位以下です。
- ※注 3 演習の単位は、2016 年度以降入学者は入門演習 I / II (1 年次) が各 2 単位、一部の演習を除き演習 1/2 (2 年次)、演習 3/4 (3 年次)、演習 5/6 (4 年次) は各 3 単位以下です。2015 年度以前入学者は入門演習 I・II (1 年次) が 4 単位、一部演習を除き演習 1・2 (2 年次)、演習 3・4 (3 年次)、演習 5・6 (4 年次) は各 6 単位以下です。なお、2014 年度以前入学者は演習 1・2 (2 年次) は 4 単位以下です。
- ※注 4 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門教育科目・連環科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 132 単位以上必要なので、残りの 8 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。
- ※注 5 留学、休学、または留級などで 4 年次に複数年在籍した場合、4 年次であったときに修得した単位が年度をまたいでも合計 8 単位以上あれば、「4 年次で 8 単位以上」の卒業要件を満たします。

## 進級に関する規程（経営学部）

### 2012 年度以降入学者

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、基礎科目※注1，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず20単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は，第2年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

(1) 基礎科目※注1，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず48単位以上。

(2) 基礎科目※注1，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず，2年次に8単位以上。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は，第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

(1) 基礎科目※注1のうち4群（外国語科目）及び5群（保健体育科目）の卒業所要単位

(2) 前号の単位を含め，基礎科目※注1，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず90単位以上。

(3) 基礎科目※注1，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず，3年次に8単位以上。

第4条 前条における不足単位数がある場合は，次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。

(※下記注2を参照)

(1) 基礎科目※注1と専門教育科目，連環科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く）。

第5条 第4年次においては，8単位以上を修得しなければならない。また，第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

第6条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

(注1) 2017年度以降入学生は、「ILAC科目」として履修します。

(注2) 第4条の再試験の対象となる具体的な科目は、経営学部履修の手引きを参照してください。

### 2011 年度までの入学者

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は，基礎科目，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず8単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は，基礎科目，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず，2年次に8単位以上を修得しなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は，第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

(1) 基礎科目のうち4群（外国語科目）及び5群（保健体育科目）の卒業所要単位。

(2) 前号の単位を含め，基礎科目，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず84単位以上。

(3) 基礎科目，SSI科目，専門教育科目，連環科目を問わず，3年次に8単位以上。

第4条 前条における不足単位数がある場合は，次により第3年次の当該年度末に再試験を受けることができる。

(※下記注を参照)

(1) 基礎科目と専門教育科目，連環科目をあわせて2科目まで（実験・実習・実技・演習科目を除く）。

第5条 第4年次においては，8単位以上を修得しなければならない。また，第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

第6条 進級は学年初め（4月1日付）をもって行う。

(注) 第4条の再試験の対象となる具体的な科目は、経営学部履修の手引きを参照してください。

国際文化学部 卒業・進級要件 (SS I)

**2017年度以降入学者** (学生証番号の頭2桁が「17」もしくは「18」の方)

区分・系列		単位規定		
I L A C 科 目	0群 (導入)	4単位以上 (「情報リテラシーⅠ」2単位及び 「情報リテラシーⅡ」2単位を含むこと)	0群～3群および5群 16単位以上	
	1群 (人文分野)	選択 ※1		
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	5群 (保健体育)	2単位以上 ※2		
	4群 (外国語)	8単位以上 ※3	8単位以上	
S S I 科 目	SS I基礎科目	14単位	44単位以上	
	SS I専門科目	30単位以上		
専 門 教 育 科 目	入門科目	4単位以上 (「国際文化情報学入門」4単位を含むこと)	56単位以上	
	基幹科目			
	情報科目			
	言語科目			
	メディアコミュニケーション科目			
	専 攻 科 目			スタディ・アブロード科目群
				インターンシップ科目群
				情報文化コース科目群
				表象文化コース科目群
				言語文化コース科目群
国際社会コース科目群				
演習				
卒業研究				
自由科目	0～18単位 (18単位まで卒業所要単位として算入)			
卒業所要単位合計 126単位以上				

※1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※2 5群は、スポーツ総合演習 (2単位) が必修です (スポーツ総合演習Sは選択科目ですので、ご注意ください)。

※3 4群外国語科目の区分から、選択した言語で8単位以上修得してください。

※注1) I L A C科目 (24単位以上)、SS I科目 (44単位以上) および専門教育科目 (56単位以上) の最小必要単位数を合算すると124単位になります。ただし、卒業所要単位は126単位以上必要なので、残りの2単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

※注2) 自由科目は18単位を超えても履修可能ですが、卒業所要単位として算入されるのは18単位までです。

**2015 年度～2016 年度入学者** (学生証番号の頭 2 桁が「15」もしくは「16」の方)

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	4 単位以上 (「情報リテラシー I」2 単位及び (「情報リテラシー II」2 単位を含むこと)	0 群～3 群および 5 群 16 単位以上	
	1 群 (人文分野)	選択		
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)			
	5 群 (保健体育)	2 単位以上		
4 群 (外国語)	8 単位以上	8 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門教育科目	入門科目	4 単位以上 (「国際文化情報学入門」4 単位を含むこと)	56 単位以上	
	基幹科目			
	情報科目			
	言語科目			
	メディアコミュニケーション科目			
	専攻科目			スタディ・アブロード科目群
				インターンシップ科目群
				情報文化コース科目群
				表象文化コース科目群
				言語文化コース科目群
国際社会コース科目群				
演習				
卒業研究				
自由科目	0～18 単位 (18 単位まで卒業所要単位として算入)			
卒業所要単位合計 126 単位以上				

※注 1) 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門教育科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 126 単位以上必要なので、残りの 2 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

※注 2) 自由科目は 18 単位を超えても履修可能ですが、卒業所要単位として算入されるのは 18 単位までです。

国際文化学部 卒業・進級要件 (SS I)

**2012 年度～2014 年度入学者** (学生証番号の頭 2 桁が「12」～「14」の方)

区分・系列		単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)	4 単位以上 (「情報リテラシー I」2 単位及び 「情報リテラシー II」2 単位を含むこと)	0 群～3 群および 5 群 16 単位以上	
	1 群 (人文分野)	選択		
	2 群 (社会分野)			
	3 群 (自然科学)			
	5 群 (保健体育)	2 単位以上		
	4 群 (外国語)	8 単位以上	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目	30 単位以上		
専門教育科目	入門科目	4 単位以上 (「国際文化情報学入門」4 単位を含むこと)	56 単位以上	
	基幹科目			
	情報科目			
	言語科目			
	メディアコミュニケーション科目			
	専攻科目			スタディ・アブロード科目群
				インターンシップ科目群
				情報文化コース科目群
				表象文化コース科目群
				言語文化コース科目群
国際社会コース科目群				
演習				
卒業研究				
自由科目	0～18 単位			
卒業所要単位合計 126 単位以上				

※注) 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SS I 科目 (44 単位以上) および専門教育科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になります。ただし、卒業所要単位は 126 単位以上必要なので、残りの 2 単位分は各科目群より自由に履修し、単位を修得してください。

## 進級に関する規程（国際文化学部）

### **2012年度以降入学者**

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに16単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに46単位以上を修得しなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

（1）基礎科目※のうち4群及び5群の卒業所要単位を含めて86単位以上。

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行なう。

※2017年度以降入学者は、ILAC科目という名称で履修します。

**2017 年度以降入学者** (学生証番号の頭 2 桁が「17」の方)

区分・系列			単位規定			
I L A C 科 目	0 群 (導入)		14 単位以上 ※注 1		24 単位以上	
	1 群 (人文分野)					
	2 群 (社会分野)					
	3 群 (自然科学)					
	4 群 (外国語)					
	5 群 (保健体育)		4 単位以上			
			2 単位以上 ※注 2			
S S I 科 目	S S I 基礎科目		14 単位		44 単位以上	
	S S I 専門科目		30 単位以上			
リ テ ラ シ ー 科 目	フレッシュ マン科目	人間環境学への招待	必修 2 単位		6 単 位 以 上	
		基礎演習	必修 2 単位			
	スキルアップ 科目	情報処理	選択必修 2 単位以上			
		アクティブ語学 テーマ別英語				
専 門 科 目  展 開 科 目	法律・政治関連科目群		コース共通科目か ら 8 単位以上かつ、 コースコア科目か ら 12 単位以上 ※注 3	基幹・政策科目ごと および科目群ごと の履修制限はあり ません	56 単 位 以 上	
	経済・経営関連科目群					
	社会・地域関連科目群					
	人文科学関連科目群					
	自然科学関連科目群					
	環境総合科目			修得上限なし		
	「人間環境セミナー」		選択必修 6 単位以上	修得上限 8 単位		
	「フィールドスタディ」			修得上限 6 単位		
	「キャリアチャレンジ」					
	「研究会」		選択 (修得上限 20 単位)			
	「卒業論文」	「研究会修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)		
		「コース修了論文」				
	「人間環境特論」		選択 (修得上限なし)			
	「インターンシップ」		選択 (修得上限 4 単位)			
	「スタディ・アブロード」		選択 (修得上限 16 単位)			
「SCOPE 科目」		選択 (修得上限 12 単位)				
「自由科目」※注 4		選択 (修得上限 20 単位)				
卒業所要単位合計 130 単位以上						

※注 1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※注 2 5 群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目ですので、ご注意ください)。

※注 3 2 年次より下記 5 つのコースのうち、いずれか 1 つのコースに所属します。

「サステイナブル経済・経営」「ローカル・サステイナビリティ」「グローバル・サステイナビリティ」  
「人間文化」「環境サイエンス」

※注 4 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「市ヶ谷総合科目」、「E S O P 科目」、「E R P 科目」、  
「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」、「短期語学研修」、「グローバル・オープン科目」が該当  
します。

**2016 年度入学者** (学生証番号の頭2桁が「16」の方)

区分・系列			単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0 群 (導入)		14 単位以上	24 単位以上	
	1 群 (人文分野)				
	2 群 (社会分野)				
	3 群 (自然科学)				
	4 群 (外国語)				
	5 群 (保健体育)				
S S I 科目	S S I 基礎科目		14 単位	44 単位以上	
	S S I 専門科目		30 単位以上		
リテラシー科目	フレッシュマン科目	人間環境学への招待 基礎演習	必修 2 単位 必修 2 単位	6 単位以上	
	スキルアップ科目	情報処理 アクティブ語学 テーマ別英語	選択必修 2 単位以上		
専門科目 展開科目	法律・政治関連科目群		コース共通科目から8単位以上かつ、 コースコア科目から12単位以上 ※注1	基幹・政策科目ごと および科目群ごとの履修制限はありません	56 単位以上
	経済・経営関連科目群				
	社会・地域関連科目群				
	人文科学関連科目群				
	自然科学関連科目群				
	環境総合科目				
	「人間環境セミナー」		選択必修 6 単位以上	修得上限なし	
	「フィールドスタディ」			修得上限 8 単位	
	「キャリアチャレンジ」			修得上限 6 単位	
	「研究会」		選択 (修得上限 20 単位)		
	「卒業論文」	「研究会修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)	
		「コース修了論文」			
	「人間環境特論」		選択 (修得上限なし)		
	「インターンシップ」		選択 (修得上限 4 単位)		
	「スタディ・アブロード」		選択 (修得上限 16 単位)		
「SCOPE 科目」		選択 (修得上限 12 単位)			
「自由科目」※注2		選択 (修得上限 20 単位)			
卒業所要単位合計 130 単位以上					

※注1 2年次より下記5つのコースのうち、いずれか1つのコースに所属します。

「サステナブル経済・経営」「ローカル・サステナビリティ」「グローバル・サステナビリティ」  
「人間文化」「環境サイエンス」

※注2 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「市ヶ谷総合科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、  
「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」、「短期語学研修」、「グローバル・オープン科目」が該当  
します。

## 2014年度・2015年度入学者 (学生証番号の頭2桁が「14」・「15」の方)

区分・系列			単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)		14 単位以上	24 単位以上
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)			
5群 (保健体育)		2 単位以上		
SS I 科目	SS I 基礎科目		14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目		30 単位以上	
リテラシー科目	フレッシュマン科目	人間環境学への招待	必修 2 単位	6 単位以上
		基礎演習	必修 2 単位	
スキルアップ科目	スキルアップ科目	情報処理	選択必修 2 単位以上	62 単位以上
		アクティブ語学 テーマ別英語		
専門科目 展開科目	「人間環境セミナー」		選択必修 6 単位以上	修得上限なし
	「フィールドスタディ」			修得上限 8 単位
	「キャリアチャレンジ」			修得上限 6 単位
	法律・政治関連科目群		基幹・政策科目ごとおよび科目群ごとの履修制限はありません	56 単位以上
	経済・経営関連科目群			
	社会・地域関連科目群			
	人文科学関連科目群			
	自然科学関連科目群			
	環境総合科目			
	「研究会」			
	「研究会修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)	
	「コース修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)	
	「人間環境特論」		選択 (修得上限なし)	
	「インターンシップ」		選択 (修得上限 4 単位)	
	「スタディ・アブロード」		選択 (修得上限 16 単位)	
「SCOPE 科目」		選択 (修得上限 12 単位)		
「自由科目」※注 1		選択 (修得上限 20 単位)		
卒業所要単位合計 130 単位以上				

※注 1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「市ヶ谷総合科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」、「短期語学研修」、「グローバル・オープン科目」が該当します。

人間環境学部 卒業要件 (SS I)

**2012年度・2013年度入学者** (学生証番号の頭2桁が「12」・「13」の方)

区分・系列			単位規定		
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)		14 単位以上	24 単位以上	
	1群 (人文分野)				
	2群 (社会分野)				
	3群 (自然科学)				
	4群 (外国語)				
	5群 (保健体育)				
SS I 科目	SS I 基礎科目		14 単位	44 単位以上	
	SS I 専門科目		30 単位以上		
専門科目	リテラシー科目	フレッシュマン科目	人間環境学への招待	必修 2 単位	6 単位以上
			基礎演習	必修 2 単位	
		スキルアップ科目	情報処理	選択必修 2 単位以上	
		アクティブ語学 テーマ別英語			
	展開科目	法律・政治関連科目群		基幹・政策科目ごとおよび科目群ごとの履修制限はありません	56 単位以上
		経済・経営関連科目群			
		社会・地域関連科目群			
		人文科学関連科目群			
		自然科学関連科目群			
		環境総合科目			
		「研究会」		選択 (修得上限なし)	
		「研究会修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)	
		「コース修了論文」		選択 (修得上限 2 単位)	
		「人間環境特論」		選択 (修得上限なし)	
		「人間環境セミナー」		選択 (修得上限なし)	
		「フィールドスタディ」		選択 (修得上限 8 単位)	
		「キャリアチャレンジ」		選択 (修得上限 6 単位)	
		「インターンシップ」		選択 (修得上限 4 単位)	
		「スタディ・アブロード」		選択 (修得上限 16 単位)	
「SCOPE 科目」		選択 (修得上限 12 単位)			
「自由科目」※注 1		選択 (修得上限 20 単位)			
卒業所要単位合計 130 単位以上					

※注 1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「市ヶ谷総合科目」、「ERP科目」、「ESOP科目」、「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」、「短期語学研修」、「グローバル・オープン科目」が該当します。

## 進級に関する規定（人間環境学部）

### 2012年度以降入学者

**第1条** 第1年次より第2年次へ進級する者は、8単位以上を修得しなければならない。

**第2条** 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次に4単位以上を修得しなければならない。ただし、人間環境学への招待及び基礎演習は修得していなければならない。

**第3条** 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

- (1) 市ヶ谷基礎科目※のうち4群（必修）、5群及びスキルアップ科目の卒業所要単位
- (2) 前号の単位を含め81単位以上

**第4条** 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。

**第5条** 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

（注）4年次において卒業所要単位の不足を補うための「卒業再試験」は実施していません。

※2017年度以降入学者は、「ILAC科目」として履修します。

# 2018年度以降入学者

現代福祉学部 卒業要件 (SSI)

## 福祉コミュニティ学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目 (第一言語群)	8 単位以上	
SSI科目	SSI 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SSI 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	8 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	10 単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内), ②短期語学研修 (上限規定せず), ③国際インターンシップ,  
④国際ボランティア, ⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず), ⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

### ○進級に関する規程

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。ただし、SSI所属学生については、各項第2号及び第3号を修了要件としないものとする。

### 2 福祉コミュニティ学科の第3年次修了要件

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 (第一言語群) | 8 単位 |
| (2) 基礎演習 I・II             | 4 単位 |
| (3) 専門演習 IA・IB            | 4 単位 |
| (4) 専門基礎科目                | 6 単位 |
| (5) 専門基幹科目                | 8 単位 |

第4条 第4年次においては、4単位以上(※)を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4単位以上」に含まれません。

# 2018年度以降入学者

現代福祉学部 卒業要件 (SS I)

## 臨床心理学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上 * 「心理学統計法」「心理データ解析」は必修	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目 (第一言語群)	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	8 単位必修	50 単位以上
	専門基幹科目	16 単位以上 * 「臨床心理学概論」「心理的アセスメント」「心理学的支援法」「心理療法」は必修	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内)、②短期語学研修 (上限規定せず)、③国際インターンシップ、  
④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず)、⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

### ○進級に関する規程

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。ただし、SS I 所属学生については、各項第2号及び第3号を修了要件としないものとする。

### 3 臨床心理学科の第3年次修了要件

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 (第一言語群) | 8 単位  |
| (2) 基礎演習 I・II             | 4 単位  |
| (3) 専門演習 IA・IB            | 4 単位  |
| (4) 心理学統計法                | 2 単位  |
| (5) 心理データ解析               | 2 単位  |
| (6) 専門基礎科目                | 6 単位  |
| (7) 専門基幹科目                | 12 単位 |

第4条 第4年次においては、4単位以上(※)を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4単位以上」に含まれません。

# 2017 年度入学者

現代福祉学部 卒業要件 (SS I)

## 福祉コミュニティ学科

区分・系列		単位規定	
総合 教育 科目	学部共通科目	22 単位以上	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
S S I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部 専門 科目	専門基礎科目	8 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	10 単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内)、②短期語学研修 (上限規定せず)、③国際インターンシップ、  
④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず)、⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

### ○進級に関する規程

第 1 条 第 1 年次から第 2 年次へ進級する者は、第 1 年次修了までに 20 単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において 4 単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第 2 条 第 2 年次から第 3 年次へ進級する者は、第 2 年次修了までに 40 単位以上を修得していなければならない。

第 3 条 第 3 年次から第 4 年次へ進級する者は、第 3 年次修了までに第 2 項又は第 3 項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80 単位以上を修得していなければならない。ただし、SS I 所属学生については、各項第 2 号及び第 3 号を修了要件としないものとする。

### 2 福祉コミュニティ学科の第 3 年次修了要件

- (1) 言語コミュニケーション科目 8 単位
- (2) 基礎演習 I・II 4 単位
- (3) 専門演習 IA・IB 4 単位
- (4) 専門基礎科目 6 単位
- (5) 専門基幹科目 8 単位

第 4 条 第 4 年次においては、4 単位以上 (※) を修得しなければならない。また、第 3 年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4 単位以上」に含まれません。

# 2017 年度入学者

現代福祉学部 卒業要件 (SS I)

## 臨床心理学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上 *「心理データ解析 I・II」は必修	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	8 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	16 単位以上 *「発達心理学」「心理療法 I」「臨床心理学 I」「心理検査法 I」は必修	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内), ②短期語学研修 (上限規定せず), ③国際インターンシップ,  
④国際ボランティア, ⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず), ⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

### ○進級に関する規程

第 1 条 第 1 年次から第 2 年次へ進級する者は、第 1 年次修了までに 20 単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において 4 単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第 2 条 第 2 年次から第 3 年次へ進級する者は、第 2 年次修了までに 40 単位以上を修得していなければならない。

第 3 条 第 3 年次から第 4 年次へ進級する者は、第 3 年次修了までに第 2 項又は第 3 項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80 単位以上を修得していなければならない。ただし、SS I 所属学生については、各項第 2 号及び第 3 号を修了要件としないものとする。

### 3 臨床心理学科の第 3 年次修了要件

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8 単位  |
| (2) 基礎演習 I・II     | 4 単位  |
| (3) 専門演習 IA・IB    | 4 単位  |
| (4) 心理データ解析 I・II  | 4 単位  |
| (5) 専門基礎科目        | 6 単位  |
| (6) 専門基幹科目        | 12 単位 |

第 4 条 第 4 年次においては、4 単位以上 (※) を修得しなければならない。また、第 3 年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4 単位以上」に含まれません。

## 福祉コミュニティ学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上 *「スポーツ総合 (I・II)」は必修	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	8 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	10 単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計		124 単位以上	

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内), ②短期語学研修 (上限規定せず), ③国際インターンシップ,  
④国際ボランティア, ⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず), ⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

## ○進級に関する規程

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。

## 2 福祉コミュニティ学科の第3年次修了要件

- (1) 言語コミュニケーション科目 8 単位  
(2) スポーツ総合 2 単位  
(3) 基礎演習 4 単位  
(4) 専門基礎科目 6 単位  
(5) 専門基幹科目 8 単位

ただし、SS I 所属学生については、第3号を修了要件としないものとする。

第4条 第4年次においては、4単位以上(※)を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4単位以上」に含まれません。

## 臨床心理学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目	* 「スポーツ総合 (I・II)」 「心理データ解析 I・II」 は必修	
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	8 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	16 単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内)、②短期語学研修 (上限規定せず)、③国際インターンシップ、  
④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず)、⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

## ○進級に関する規程

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。

## 3 臨床心理学科の第3年次修了要件

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8 単位  |
| (2) スポーツ総合        | 2 単位  |
| (3) 基礎演習          | 4 単位  |
| (4) 専門演習 I        | 4 単位  |
| (5) 心理データ解析 I・II  | 4 単位  |
| (6) 専門基礎科目        | 6 単位  |
| (7) 専門基幹科目        | 12 単位 |

ただし、SS I 所属学生については、第3号及び第4号を修了要件としないものとする。

第4条 第4年次においては、4単位以上(※)を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

※なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4単位以上」に含まれません。

## 福祉コミュニティ学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上 *「スポーツ総合 (I・II)」は必修	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	10 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	12 単位以上 *「社会福祉原理」「地域計画論」は必修	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内)、②短期語学研修 (上限規定せず)、③国際インターンシップ、  
④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず)、⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

★ 卒業保留となった場合も上記の要件と合わせて、当該年度に 4 単位以上修得することが必要になります。なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4 単位以上」に含まれません。

(年間必要修得単位数)

第 1 条 進級あるいは卒業する場合は、当該年度に 4 単位以上修得しなければならない。第 3 年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同様とする。

(第 1 年次から第 2 年次への進級要件)

第 2 条 第 1 年次から第 2 年次へ進級する者は、第 1 年次修了までに 20 単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において 4 単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

(第 2 年次から第 3 年次への進級要件)

第 3 条 第 2 年次から第 3 年次へ進級する者は、第 2 年次修了までに 40 単位以上を修得していなければならない。

(第 3 年次から第 4 年次への進級要件)

第 4 条 第 3 年次から第 4 年次へ進級する者は、第 3 年次修了までに第 2 項または第 3 項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80 単位以上を修得していなければならない。ただし、SS I に所属する学生については、各項第 3 号及び第 4 号を修了要件としないものとする。

2 福祉コミュニティ学科の第 3 年次修了要件

- |                   |      |
|-------------------|------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8 単位 |
| (2) スポーツ総合        | 2 単位 |
| (3) 基礎演習          | 4 単位 |
| (4) 専門演習 I        | 4 単位 |
| (5) 専門基礎科目        | 8 単位 |
| (6) 専門基幹科目        | 8 単位 |

## 臨床心理学科

区分・系列		単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	22 単位以上	30 単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目	* 「スポーツ総合」「心理学」「心理データ解析 I・II」は必修	
	言語コミュニケーション科目	8 単位以上	
SS I 科目	SS I 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SS I 専門科目	30 単位以上	
学部専門科目	専門基礎科目	18 単位以上	50 単位以上
	専門基幹科目	12 単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目※	20 単位以内	
卒業所要単位合計 124 単位以上			

※「自由科目」にて認定する科目は以下のとおりです。

- ①他学部公開科目 (16 単位以内)、②短期語学研修 (上限規定せず)、③国際インターンシップ、  
④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目 (上限規定せず)、⑥成績優秀者他学部科目履修 (上限規定せず)

★ 卒業保留となった場合も上記の要件と合わせて、当該年度に 4 単位以上修得することが必要になります。なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位は、この「4 単位以上」に含まれません。

(年間必要修得単位数)

第 1 条 進級あるいは卒業する場合は、当該年度に 4 単位以上修得しなければならない。第 3 年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同様とする。

(第 1 年次から第 2 年次への進級要件)

第 2 条 第 1 年次から第 2 年次へ進級する者は、第 1 年次修了までに 20 単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において 4 単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

(第 2 年次から第 3 年次への進級要件)

第 3 条 第 2 年次から第 3 年次へ進級する者は、第 2 年次修了までに 40 単位以上を修得していなければならない。

(第 3 年次から第 4 年次への進級要件)

第 4 条 第 3 年次から第 4 年次へ進級する者は、第 3 年次修了までに第 2 項または第 3 項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80 単位以上を修得していなければならない。ただし、SS I に所属する学生については、各項第 3 号及び第 4 号を修了要件としないものとする。

### 3 臨床心理学科の第 3 年次修了要件

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| (1) 言語コミュニケーション科目           | 8 単位  |
| (2) スポーツ総合                  | 2 単位  |
| (3) 基礎演習                    | 4 単位  |
| (4) 専門演習 I                  | 4 単位  |
| (5) 心理学                     | 2 単位  |
| (6) 心理データ解析 I・II            | 4 単位  |
| (7) 専門基礎科目                  | 14 単位 |
| (ただし心理学基礎実験 I・II の 4 単位を含む) |       |
| (8) 専門基幹科目                  | 8 単位  |

キャリアデザイン学部 卒業要件 (SS I)

**2017年度以降入学者** (学生証番号の頭2桁が「17」以上の方)

区分・系列		単位規定		
ILAC 科目	0群 (導入)	14 単位以上 ※1	24 単位以上	
	1群 (人文分野)			
	2群 (社会分野)			
	3群 (自然科学)			
	4群 (外国語)			(英語) 4 単位以上
	5群 (保健体育)			2 単位以上 ※2
SSI 科目	SSI 基礎科目	14 単位	44 単位以上	
	SSI 専門科目	30 単位以上		
専門 科目	基幹科目	規定せず	56 単位以上	
	展開科目			
	関連科目			
	演習科目			
	自由科目 ※4			
卒業所要単位合計 132 単位以上 ※3				

※1 基盤科目、リベラルアーツ科目のいずれも履修可能です。

※2 5群は、スポーツ総合演習 (2 単位) が必修です (スポーツ総合演習 S は選択科目  
ですので、ご注意ください)。

※3 ILAC 科目 (24 単位以上)、SSI 科目 (44 単位以上)、専門科目 (56 単位以上) の最  
小必要単位数を合算すると 124 単位になりますが、卒業所要単位は 132 単位以上必  
要です。132-124=8 単位分は ILAC 科目、SSI 科目、専門科目から自由に履修し、  
単位修得してください。

※4 16 単位まで単位修得可能です。

**2012年度～2016年度入学者** (学生証番号の頭2桁が「12」～「16」の方)

区分・系列		単位規定	
市ヶ谷基礎科目	0群 (導入)	14 単位以上	24 単位以上
	1群 (人文分野)		
	2群 (社会分野)		
	3群 (自然科学)		
	4群 (外国語)		
	5群 (保健体育)	2 単位以上	
SSI科目	SSI 基礎科目	14 単位	44 単位以上
	SSI 専門科目	30 単位以上	
専門科目	基幹科目	規定せず	56 単位以上
	展開科目		
	関連科目		
	演習科目		
	自由科目 ※2		
卒業所要単位合計 132 単位以上 ※1			

- ※1 市ヶ谷基礎科目 (24 単位以上)、SSI 科目 (44 単位以上)、専門科目 (56 単位以上) の最小必要単位数を合算すると 124 単位になりますが、卒業所要単位は 132 単位以上必要です。132-124=8 単位分は市ヶ谷基礎科目、SSI 科目、専門科目から自由に履修し、単位修得してください。
- ※2 2012～2013 年度入学者は 8 単位まで、2014～2016 年度入学者は 16 単位まで単位修得可能です。

## 進級に関する規程（キャリアデザイン学部）

### 2017年度以降入学者

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに24単位以上修得していなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。ただし、SSI所属学生は第1号のみ適用する。

(1) 第2年次修了までに48単位以上

(2) 基幹科目の必修科目（キャリアデザイン学入門）（キャリア研究調査法入門）

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。

(1) 市ヶ谷基礎科目※のうち4群及び5群の卒業所要単位

(2) 前号の単位を含め88単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。ただし、法政大学学則第49条第4項に定める場合を除く。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※2017年度以降入学者は、ILAC科目という名称で履修します。

### 2012～2016年度入学者

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに24単位以上修得していなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。ただし、SSI所属学生は第1号のみ適用する。

(1) 第2年次修了までに48単位以上

(2) 基幹科目の必修科目（キャリアデザイン学入門）

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。

(1) 市ヶ谷基礎科目のうち4群及び5群の卒業所要単位

(2) 前号の単位を含め88単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。ただし、法政大学学則第49条第4項に定める場合を除く。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

**2011 年度以降入学者** (学生証番号の頭 2 桁が「11」以上の方)

【卒業所要単位】

		卒業所要単位数			
外国語科目		必修	4 単位 ※1	4 単位以上	合計 124 単位以上
基盤科目		必修	2 単位	合計 12 単位以上	
		選択必修, 選択	10 単位以上		
SSI 科目	基礎科目	必修	14 単位	合計 44 単位以上	
	専門科目	選択	30 単位以上		
専門科目		必修	31 単位	合計 64 単位以上	
		選択必修, 選択 特別科目	33 単位以上		

上記の表に記載された基準を満たさなかった場合、卒業が保留になります。

※1 英語 1～英語 4 の 4 科目 8 単位中、任意の 2 科目 4 単位

【進級要件】

3 年から 4 年	卒業所要単位数のうち、90 単位以上を修得していること
-----------	-----------------------------

## SSI科目一覧

### 2018年度入学者

SSI基礎科目 (14単位必修) ※修得しないと卒業できません

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				必修			
市ヶ谷・多摩	SSI	スポーツ指導論	浅井 玲子	2	1~4	必修科目	100-136
		アスリート育成指導法	山田 快	2	1~4	必修科目	101-137
		スポーツ医学Ⅰ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	101-138
		スポーツ医学Ⅱ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	102-139
		スポーツ心理学	荒井 弘和	2	1~4	必修科目	103-140
		トレーニング科学	中島亮一/泉 重樹	2	1~4	必修科目	104-141
		スポーツ経営論	岩村 聡/川田 尚弘	2	1~4	必修科目	105-141

SSI専門科目 (30単位以上)

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
市ヶ谷	SSI	スポーツ学入門	雨宮 怜	2	1~4		106
		生涯健康論	吉田 康伸	2	2~4		107
		トップアスリート論	吉田 康伸	2	2~4		107
		スポーツ方法論	笠井 淳	2	2~4		108
		スポーツ文化論	渡 正	2	1~4		109
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2~4		110
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	小菅 亨	各2	2~4		111-112
		スポーツメンタルトレーニング論	雨宮 怜	2	2~4		113
		身体の測定と評価	北林 保	2	1~4		114
		スポーツ生理学	森嶋 琢真	2	1~4		114
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2~4		115-116
		スポーツビジネス論Ⅰ・Ⅱ	岩村 聡	各2	2~4		117-118
		スポーツと法Ⅰ・Ⅱ	森 浩寿	各2	2~4		119-120
		アスリートのキャリアマネジメント	荒井 弘和/千葉 順	2	2~4		121
		スポーツメディア論	海老名徳雪	2	2~4		122
		スポーツ産業論	岩村 聡	2	2~4		123
		スポーツマーケティング論	吉岡那於子	2	2~4		124
		アスリートキャリア論	笠井 淳	2	2~4		130
		スポーツ振興論	鈴木 裕輔	2	2~4		131
		スポーツ情報戦略論	永尾 雄一	2	2~4		131
	トレーニング理論と実践	小平 豊海	2	2~4		132	
	スポーツ組織論	日比 千里	2	2~4		133	
	オリンピック・パラリンピックを考える	荒井 弘和/吉田 康伸	2	1~4		134	
	スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ			各1	2~4		135-136
	スポーツ実習(バレーボール)Ⅲ・Ⅳ			各1	3~4	体育会/バレーボール部所属学生のみ	
	法学部政治学科	マス・コミュニケーション論		4	1~4	* 法学部政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		コミュニティ論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
	法学部政治学科	比較福祉国家Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
		自治体論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4	* 法学部政治学科・国際政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
	国際政治学科	行政学 (※注1)		4	1~4		
	文学部心理学科	身体活動と健康 (2012年度以降入学者のみ)		2	2~4		
		スポーツ心理学特講		2	2~4		
		精神保健学Ⅰ・Ⅱ		各2	3~4	* 文学部心理学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
脳の科学			2	3~4			
発達心理学			2	3~4			
学習心理学			2	3~4			
経営学部	経営組織論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	人的資源管理Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	組織行動論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	人材育成論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4	* 経営学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ		各2	3~4			
	サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	非営利組織経営論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
国際文化学部	異文化と身体表現		2	1~4			
	他者イメージ論		2	1~4	* 国際文化学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	メディアと情報		2	1~4			
	メディアと社会		2	1~4			
人間環境学部	衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		各2	2~4	* 人間環境学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	環境健康論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4			
キャリアデザイン学部	教育社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4			
	若者の自立支援(旧:社会的弱者の自立支援)		2	1~4	* キャリアデザイン学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	外書講読A(発達・教育)(旧:開発教育) (※注2)		2	2~4			

各学部の講義概要を確認してください

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
多摩	SSI	スポーツ方法論	竹内 洋輔	2	2～4		142
		スポーツ文化論	吉田 毅	2	1～4		143
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2～4		144・145
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	春日井有輝	各2	2～4		145・146
		スポーツ生理学	田口 直樹	2	1～4		147
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2～4		148・149
		セルフケア論	越部 清美	2	1～4		150
		スポーツ振興論	竹内 洋輔	2	2～4		150
		スポーツ産業論	井上 尊寛	2	2～4		151
		スポーツ社会学	吉田 毅	2	2～4	社会学部のSSI生は履修できません	152
		アスリートキャリア論	成田 道彦	2	2～4		153
		スポーツメディア論	海老名徳雪	2	2～4		154
		トレーニング理論と実践	田口 直樹	2	2～4		155
		スポーツマーケティング論	杉本 龍勇	2	2～4		156
		スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ		各1	2～4		135・136
スポーツ実習(テニス)Ⅲ・Ⅳ		各1	3～4	体育会テニス部所属学生のみ			
キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位 選択	配当年次	備考	シラバス(P)
多摩	経済学部	人間とスポーツ(2015年度以前入学生)、スポーツ経済論(2016年度以降入学生)		2	3～4		
		経済政策論A・B		各2	3～4		
		公共経済論A・B		各2	3～4		
		環境政策論A・B		各2	3～4	*経済学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		環境経済論A・B		各2	2～4		
		社会政策論A・B		各2	3～4		
		現代社会と情報A・B		各2	3～4		
	社会学部	身体論		2	1～4		
		政治学理論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		日本経済論		2	2～4		
		憲法		2	2～4		
		民法(財産法)		2	2～4		
		ミクロ経済学		2	2～4		
		マクロ経済学		2	2～4		
		組織論		2	2～4		
		行政学		2	2～4		
		政策と制度		2	2～4		
		人的資源論		2	2～4		
		社会・イノベーション論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		中小企業論	S	2	2～4		
		地域産業論Ⅰ・Ⅱ	SI	各2	2～4		
		国際経営論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		経済政策論		2	2～4		
		エネルギー論		2	2～4		
		気候変動論		2	2～4		
		福祉社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		グローバル社会のローカリティ		2	2～4		
		市民運動論		2	2～4		
		地方自治論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		国際経済論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		社会学理論AⅠ・Ⅱ		各2	2～4	*社会学部のSSI生は社会学部履修要綱も併せて確認してください	
		理論社会学		2	2～4		
		社会学史Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		歴史社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		数理社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		統計調査法		2	2～4		
		発達・教育の理論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		家族社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		臨床社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		社会心理学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		エイジングの社会学		2	2～4		
		社会教育概論Ⅰ・Ⅱ(※注3)		各2	2～4		
		環境社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4		
		現代農業・農村の社会学		2	2～4		
		地域環境論		2	2～4		
文化社会学B		2	2～4				
表象文化論B		2	2～4				
文化人類学		2	2～4				
スポーツ文化論		2	2～4				
国際社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4				
国際関係論Ⅰ・Ⅱ		各2	2～4				

各学部の講義概要で確認してください

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
多摩	社会学部	国際社会と民族	S S I 時間 割 表 で 確 認 し て く だ さ い	2	2~4	*社会学部のSSI生は社会学部履修要綱も併せて確認してください	各 学 部 の 講 義 概 要 で 確 認 し て く だ さ い
		開発とジェンダー		2	2~4		
		地域研究(ヨーロッパ)		2	2~4		
		地域研究(アジア)		2	2~4		
		メディアの思想		2	2~4		
		社会問題とメディア		2	2~4		
		認知科学		2	2~4		
		知的財産権法		2	2~4		
		メディア法		2	2~4		
		公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		メディア文化論		2	2~4		
		広告・消費文化論		2	2~4		
		広告・PR論		2	2~4		
		情報科学とコミュニケーション		2	2~4		
		認知映像論		2	2~4		
		ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		消費者行動論		2	2~4		
		都市空間とデザインⅠ・Ⅱ		各2	2~4		
		メディアの歴史		2	2~4		
		マス・コミュニケーション論		2	2~4		
		メディアテクノロジーと社会		2	2~4		
		メディアテクノロジーと社会分析		2	2~4		
		デジタル情報環境論		2	2~4		
		デジタル情報環境分析		2	2~4		
	ソーシャルメディア論	2		2~4			
	ソーシャルメディア分析	2		2~4			
	現代福祉学部	企業と労働		2	1~4	*現代福祉学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		社会思想史		2	1~4		
		社会思想史Ⅱ(休講)		2	1~4		
		日本人の心理特性と文化		2	1~4		
		教育学		2	1~4		
		経営学		2	1~4		
		老年学		2	1~4		
		地域リハビリテーション		2	2~4		
		NPO論		2	2~4		
		地域ツーリズム		2	2~4		
コミュニティスポーツ		2	2~4				
地域経営論		2	2~4				
都市とコミュニティ	2	2~4					
多文化ソーシャルワーク	2	2~4					
コミュニティアート	2	2~4					
農山村とコミュニティ	2	2~4					
老いの文化と福祉	2	2~4					

<履修上の注意>

【法学部主権科目】

※注1 人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【キャリアデザイン学部主権科目】

※注2 2010年度以降に入学した人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【社会学部主権科目】

※注3 現代福祉学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【その他共通事項】

※年度により、休講の科目もあります。休講科目はSSI時間割表で確認してください。

※履修登録科目を決める際は、所属学部の履修の手引き・講義概要をよく確認してください。

※旧科目を修得済の場合、現在開講している科目を履修できない場合があります。詳しくは主催学部の講義概要で確認してください。

※多摩キャンパス所属のSSI生は同曜日に多摩キャンパス開講科目と市ヶ谷開講科目を履修することはできません。詳しくは所属学部の履修要綱等で確認してください。

# SSI科目一覧

## 2017年度入学者

SSI基礎科目 (14単位必修) ※修得しないと卒業できません

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				必修			
市ヶ谷・多摩	SSI	スポーツ指導論	浅井 玲子	2	1~4	必修科目	100-136
		アスリート育成指導法	山田 快	2	1~4	必修科目	101-137
		スポーツ医学Ⅰ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	101-138
		スポーツ医学Ⅱ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	102-139
		スポーツ心理学	荒井 弘和	2	1~4	必修科目	103-140
		トレーニング科学	中島 亮一/泉 重樹	2	1~4	必修科目	104-141
		スポーツ経営論	岩村 聡/川田 尚弘	2	1~4	必修科目	105-141

SSI専門科目 (30単位以上)

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
市ヶ谷	SSI	スポーツ学入門	雨宮 怜	2	1~4		106
		生涯健康論	吉田 康伸	2	2~4		107
		トップアスリート論	吉田 康伸	2	2~4		107
		スポーツ方法論	笠井 淳	2	2~4		108
		スポーツ文化論	渡 正	2	1~4		109
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2~4		110
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	小菅 亨	各2	2~4		111-112
		スポーツメンタルトレーニング論	雨宮 怜	2	2~4		113
		身体の測定と評価	北林 保	2	1~4		114
		スポーツ生理学	森嶋 琢真	2	1~4		114
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2~4		115-116
		スポーツビジネス論Ⅰ・Ⅱ	岩村 聡	各2	2~4		117-118
		スポーツと法Ⅰ・Ⅱ	森 浩寿	各2	2~4		119-120
		アスリートのキャリアマネジメント	荒井 弘和/千葉 順	2	2~4		121
		スポーツメディア論	海老名 徳雪	2	2~4		122
		スポーツ産業論	岩村 聡	2	2~4		123
		スポーツマーケティング論	吉岡 那子	2	2~4		124
		アスリートキャリア論	笠井 淳	2	2~4		130
		スポーツ振興論	鈴木 裕輔	2	2~4		131
		スポーツ情報戦略論	永尾 雄一	2	2~4		131
	トレーニング理論と実践	小平 豊海	2	2~4		132	
	スポーツ組織論	日比 千里	2	2~4		133	
	オリンピック・パラリンピックを考える	荒井 弘和/吉田 康伸	2	1~4		134	
	スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ			各1	2~4		135-136
	スポーツ実習(バレーボール)Ⅲ・Ⅳ			各1	3~4	体育会/バレーボール部所属学生のみ	
	法学部政治学科	マス・コミュニケーション論		4	1~4	* 法学部政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		コミュニティ論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
	法学部政治学科	比較福祉国家Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
	自治体論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4	* 法学部政治学科・国際政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
国際政治学科	行政学 (※注1)		4	1~4			
文学部心理学科	身体活動と健康 (2012年度以降入学者のみ)		2	2~4			
	スポーツ心理学特講		2	2~4			
	精神保健学Ⅰ・Ⅱ		各2	3~4	* 文学部心理学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	脳の科学		2	3~4			
	発達心理学		2	3~4			
経営学部	学習心理学		2	3~4			
	経営組織論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	人的資源管理Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	組織行動論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	人材育成論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4	* 経営学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ		各2	3~4			
	サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
国際文化学部	非営利組織経営論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4			
	異文化と身体表現		2	1~4			
	他者イメージ論		2	1~4	* 国際文化学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	メディアと情報		2	1~4			
人間環境学部	メディアと社会		2	1~4			
	衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		各2	2~4	* 人間環境学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	環境健康論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4			
キャリアデザイン学部	教育社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4			
	若者の自立支援(旧:社会的弱者の自立支援)		2	1~4	* キャリアデザイン学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	外書講読A(発達・教育)(旧:開発教育) (※注2)		2	2~4			

各学部の講義概要を確認してください

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
多摩	SSI	スポーツ方法論	竹内 洋輔	2	2~4		142
		スポーツ文化論	吉田 毅	2	1~4		143
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2~4		144・145
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	春日井有輝	各2	2~4		145・146
		スポーツ生理学	田口 直樹	2	1~4		147
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2~4		148・149
		セルフケア論	越部 清美	2	1~4		150
		スポーツ振興論	竹内 洋輔	2	2~4		150
		スポーツ産業論	井上 尊寛	2	2~4		151
		スポーツ社会学	吉田 毅	2	2~4	社会学部のSSI生は履修できません	152
		アスリートキャリア論	成田 道彦	2	2~4		153
		スポーツメディア論	海老名徳雪	2	2~4		154
		トレーニング理論と実践	田口 直樹	2	2~4		155
		スポーツマーケティング論	杉本 龍勇	2	2~4		156
		スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ		各1	2~4		135・136
	スポーツ実習(テニス)Ⅲ・Ⅳ		各1	3~4	体育会テニス部所属学生のみ		
	経済学部	人間とスポーツ(2015年度以前入学生)、スポーツ経済論(2016年度以降入学生)		2	3~4		
		経済政策論A・B		各2	3~4		
		公共経済論A・B		各2	3~4		
		環境政策論A・B		各2	3~4		
		環境経済論A・B		各2	2~4		
		社会政策論A・B		各2	3~4		
		現代社会と情報A・B		各2	3~4		
	社会学部	身体論		2	1~4		
		スポーツ社会学		2	2~4		
		発達・教育の理論Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		社会教育概論Ⅰ・Ⅱ (※注3)		各2	2~4		
		社会心理学Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		広告・消費文化論		2	2~4		
		広告・PR論		2	2~4		
		メディア文化論Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		メディア社会論Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		マス・コミュニケーション論		2	2~4		
		環境社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
		地域社会学		2	2~4		
		コミュニティ形成論		2	2~4		
		日本経済論		2	2~4		
		国際経営論Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4		
	福祉社会学Ⅰ・Ⅱ		各2	2~4			
	現代福祉学部	企業と労働		2	1~4		
		社会思想史		2	1~4		
		社会思想史Ⅱ(休講)		2	1~4		
		日本人の心理特性と文化		2	1~4		
		教育学		2	1~4		
		経営学		2	1~4		
老年学			2	1~4			
地域リハビリテーション			2	2~4			
NPO論			2	2~4			
地域ツーリズム			2	2~4			
コミュニティスポーツ			2	2~4			
地域経営論			2	2~4			
都市とコミュニティ			2	2~4			
多文化ソーシャルワーク			2	2~4			
コミュニティアート			2	2~4			
農山村とコミュニティ		2	2~4				
老いの文化と福祉		2	2~4				

<履修上の注意>

**【法学部主催科目】**

※注1 人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

**【キャリアデザイン学部主催科目】**

※注2 2010年度以降に入学した人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

**【社会学部主催科目】**

※注3 現代福祉学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

**【その他共通事項】**

※年度により、休講の科目もあります。休講科目はSSI時間割表で確認してください。

※履修登録科目を決める際は、所属学部の履修の手引き・講義概要をよく確認してください。

※旧科目を修得済の場合、現在開講している科目を履修できない場合があります。詳しくは主催学部の講義概要で確認してください。

※多摩キャンパス所属のSSI生は同曜日に多摩キャンパス開講科目と市ヶ谷開講科目を履修することはできません。詳しくは所属学部の履修要綱等で確認してください。

各学部の講義概要で確認してください

# SSI科目一覧

## 2016年度以前入学者

SSI基礎科目 (14単位必修) ※修得しないと卒業できません

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				必修			
市ヶ谷・多摩	SSI	スポーツ指導論	浅井 玲子	2	1~4	必修科目	100-136
		アスリート育成指導法	山田 快	2	1~4	必修科目	101-137
		スポーツ医学Ⅰ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	101-138
		スポーツ医学Ⅱ	伊藤マモル/瀬戸宏明	2	1~4	必修科目	102-139
		スポーツ心理学	荒井 弘和	2	1~4	必修科目	103-140
		トレーニング科学	中島 亮一/泉 重樹	2	1~4	必修科目	104-141
		スポーツ経営論	岩村 聡/川田 尚弘	2	1~4	必修科目	105-141

SSI専門科目 (30単位以上)

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)
				選択			
市ヶ谷	SSI	スポーツ学入門	雨宮 怜	2	1~4		106
		生涯健康論	吉田 康伸	2	2~4		107
		トップアスリート論	吉田 康伸	2	2~4		107
		スポーツ方法論 (旧:スポーツ方法論Ⅰ) (※注1)	笠井 淳	2	2~4		108
		スポーツ文化論	渡 正	2	1~4		109
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2~4		110
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	小菅 亨	各2	2~4		111-112
		スポーツメンタルトレーニング論	雨宮 怜	2	2~4		113
		身体の測定と評価	北林 保	2	1~4		114
		スポーツ生理学	森嶋 琢真	2	1~4		114
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2~4		115-116
		スポーツビジネス論Ⅰ・Ⅱ	岩村 聡	各2	2~4		117-118
		スポーツと法Ⅰ・Ⅱ	森 浩寿	各2	2~4		119-120
		アスリートのキャリアマネジメント	荒井 弘和/千葉 順	2	2~4		121
		スポーツメディア論	海老名 徳雪	2	2~4		122
		スポーツ産業論 (旧:スポーツ産業論Ⅰ) (※注2)	岩村 聡	2	2~4		123
		スポーツマーケティング論	吉岡 那於子	2	2~4		124
		アスリートキャリア論	笠井 淳	2	2~4		130
		スポーツ振興論 (旧:スポーツ振興論Ⅰ) (※注1)	鈴木 裕輔	2	2~4		131
		スポーツ情報戦略論	小尾 雄一	2	2~4		131
	トレーニング理論と実践	小平 豊海	2	2~4		132	
	スポーツ組織論 (旧:スポーツ組織論Ⅰ) (※注1)	日比 千里	2	2~4		133	
	身体運動学演習(2018年度休講)	鈴木 良則	2	2~4			
	オリンピック・パラリンピックを考える	荒井 弘和/吉田 康伸	2	1~4		134	
	スポーツ実習(バレーボール)Ⅰ~Ⅳ	吉田 康伸	各1	1~4	体育会バレーボール部所属学生のみ	125~127	
	スポーツ実習(アメリカンフットボール)Ⅰ~Ⅳ	友岡 和彦	各1	1~4	体育会アメリカンフットボール部所属学生のみ	128-129	
	法学部政治学科	マス・コミュニケーション論		4	1~4	* 法学部政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
	法学部政治学科	比較福祉国家Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4	* 法学部政治学科・国際政治学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
	国際政治学科	自治体論Ⅰ・Ⅱ		各2	1~4		
		行政学 (※注3)		4	1~4		
		身体活動と健康 (2012年度以降入学者のみ)		2	2~4		
	文学部心理学科	スポーツ心理学特講		2	2~4	* 文学部心理学科のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		精神保健学Ⅰ・Ⅱ	S S I 時間 割 表 で 確 認 し て く だ さ い	各2	3~4		
		脳の科学		2	3~4		
		発達心理学		2	3~4		
	学習心理学	2		3~4			
	経営学部	経営組織論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4	* 経営学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		人的資源管理Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
		組織行動論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
		人材育成論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
		戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
		マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ		各2	3~4		
		サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
		非営利組織経営論Ⅰ/Ⅱ		各2	3~4		
	国際文化学部	異文化と身体表現		2	1~4	* 国際文化学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		他者イメージ論		2	1~4		
		メディアと情報		2	1~4		
		メディアと社会		2	1~4		
	人間環境学部	衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		各2	2~4	* 人間環境学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
環境健康論Ⅰ・Ⅱ			各2	1~4			
教育社会学Ⅰ・Ⅱ			各2	2~4			
キャリアデザイン学部	若者の自立支援(旧:社会的弱者の自立支援)		2	1~4	* キャリアデザイン学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	外書講読A(発達・教育)(旧:開発教育) (※注4)		2	2~4			

キャンパス	主催	科目名	担当教員	単位	配当年次	備考	シラバス(P)	
				選択				
多摩	SSI	スポーツ方法論 (旧:スポーツ方法論Ⅰ) (※注1)	竹内 洋輔	2	2~4		142	
		スポーツ文化論	吉田 毅	2	1~4		143	
		スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	杉山 明美	各2	2~4		144・145	
		コンディショニング科学Ⅰ・Ⅱ	春日井有輝	各2	2~4		145・146	
		スポーツ生理学	田口 直樹	2	1~4		147	
		リーダーシップ論Ⅰ・Ⅱ	浅井 玲子	各2	2~4		148・149	
		セルフケア論	越部 清美	2	1~4		150	
		スポーツ振興論 (旧:スポーツ振興論Ⅰ) (※注1)	竹内 洋輔	2	2~4		150	
		スポーツ産業論 (旧:スポーツ産業論Ⅰ) (※注2)	井上 尊寛	2	2~4		151	
		スポーツ社会学	吉田 毅	2	2~4	社会学部のSSI生は履修できません	152	
		アスリートキャリア論	成田 道彦	2	2~4		153	
		スポーツメディア論	海老名徳雪	2	2~4		154	
		トレーニング理論と実践	田口 直樹	2	2~4		155	
		スポーツマーケティング論	杉本 龍勇	2	2~4		156	
		スポーツ実習(テニス)Ⅰ~Ⅳ(旧:専修実習(テニス)Ⅰ~Ⅳ)	植村 直己	各1	1~4	体育会テニス部所属学生のみ	157~160	
		スポーツ実習(サッカー)Ⅰ~Ⅳ(旧:専修実習(サッカー)Ⅰ~Ⅳ)	長山 一也	各1	1~4	体育会サッカー部所属学生のみ	161~164	
		スポーツ実習(バドミントン)Ⅰ~Ⅳ	升 佑二郎	各1	1~4	体育会バドミントン部所属男子学生のみ	165・166	
		スポーツ実習(水泳)Ⅰ~Ⅳ	八塚 明憲	各1	1~4	体育会水泳部所属学生のみ	167・168	
		スポーツ実習(陸上競技)Ⅰ~Ⅳ	苅部 俊二	各1	1~4	体育会陸上競技部所属学生のみ	169・170	
	スポーツ実習(ラグビー)Ⅰ~Ⅳ	苑田 右二	各1	1~4	体育会ラグビー部所属学生のみ	171~173		
	経済学部	人間とスポーツ(2015年度以前入学生)、スポーツ経済論(2016年度以降入学生)			2	3~4	*経済学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません	
		経済政策論A・B(2015年度以前入学生は2年次より履修可)			各2	3~4		
		公共経済論A・B(2015年度以前入学生は2年次より履修可)			各2	3~4		
		環境政策論A・B			各2	3~4		
		環境経済論A・B			各2	2~4		
		社会政策論A・B			各2	3~4		
		現代社会と情報A・B			各2	3~4		
	社会学部	身体論			2	1~4	*社会学部のSSI生は社会学部履修要綱も併せて確認して下さい	各学部の講義概要で確認して下さい
		スポーツ社会学			2	2~4		
発達・教育の理論Ⅰ・Ⅱ				各2	2~4			
社会教育概論Ⅰ・Ⅱ (※注5)				各2	2~4			
社会心理学Ⅰ・Ⅱ				各2	2~4			
広告・消費文化論				2	2~4			
広告・PR論			S	2	2~4			
メディア文化論Ⅰ・Ⅱ				各2	2~4			
メディア社会論Ⅰ・Ⅱ				各2	2~4			
マス・コミュニケーション論				2	2~4			
環境社会学Ⅰ・Ⅱ				各2	2~4			
地域社会学				2	2~4			
コミュニティ形成論				2	2~4			
日本経済論				2	2~4			
国際経営論Ⅰ・Ⅱ			各2	2~4				
福祉社会学Ⅰ・Ⅱ			各2	2~4				
現代福祉学部	企業と労働(旧:職業の世界) (※注6)			2	1~4	*現代福祉学部のSSI生はSSI専門科目として履修できません		
	社会思想史(旧:社会思想史Ⅰ) (※注6)			2	1~4			
	社会思想史Ⅱ(休講)			2	1~4			
	日本人の心理特性と文化			2	1~4			
	教育学			2	1~4			
	経営学			2	1~4			
	老年学			2	1~4			
	地域リハビリテーション			2	2~4			
	NPO論(旧:非営利組織の運営) (※注6)			2	2~4			
	地域ツーリズム			2	2~4			
	コミュニティスポーツ(旧:コミュニティスポーツⅡ) (※注6)			2	2~4			
	地域経営論(旧:地域経営) (※注6)			2	2~4			
	都市とコミュニティ(旧:都市と環境) (※注6)			2	2~4			
	多文化ソーシャルワーク			2	2~4			
	コミュニティアート			2	2~4			
農山村とコミュニティ			2	2~4				
老いの文化と福祉(旧:高齢社会とコミュニティ) (※注6)			2	2~4				

<履修上の注意>

【SSI主催科目】

※注1 2014年度以前入学者は旧名称科目での履修となります。

※注2 2015年度以前入学者は旧名称科目での履修となります。

【法学部主催科目】

※注3 人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【キャリアデザイン学部主催科目】

※注4 2010年度以降に入学した人間環境学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【社会学部主催科目】

※注5 現代福祉学部のSSI生は、SSI科目として履修できません。

【現代福祉学部主催科目】

※注6 旧名称の科目を修得済みの者は新名称の科目を履修できません。

【その他共通事項】

※年度により、休講の科目もあります。休講科目はSSI時間割表で確認してください。

※履修登録科目を決める際は、所属学部の履修の手引き・講義概要をよく確認してください。

※旧科目を修得済の場合、現在開講している科目を履修できない場合があります。詳しくは主催学部の講義概要で確認してください。

※多摩キャンパス所属のSSI生は同曜日に多摩キャンパス開講科目と市ヶ谷開講科目を履修することはできません。詳しくは所属学部の履修要綱等で確認してください。

※スポーツ実習(各競技)Ⅰ~Ⅳは、2018年度をもって閉講します。

*HOSEI*

*UNIVERSITY*

2018 年度履修要綱・講義概要

講義概要(シラバス)

SSI 基礎科目と SSI 専門科目 (SSI 主催科目) を紹介

## スポーツ指導論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導に関わる知識や考察を深め、自分自身の「理想の指導者像」の獲得を目指す。

「どのような指導者が求められているのか」「どのような指導者でありたいか」について共に学び、考える中で自分なりの指導者像を描くための礎となることが本講義のテーマである。

## 【到達目標】

- ・スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける
- ・多様なニーズに対応するスポーツ指導や育成についての知識を身につける
- ・指導者という視点を通して選手としての自己理解を深め、自分自身の指導スタイルについての考察を深める
- ・理想の指導者像の獲得への足場をつくる

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ指導者に関する知識やコーチングに興味ある学生や、体育教員・日本体育協会公認スポーツ指導者「指導員」等の取得を希望する者を対象とし、「生涯スポーツ社会」を担う体育指導者の為の授業内容とします。

日本体育協会「公認スポーツ指導者養成テキスト」共通科目Ⅰ～Ⅲのテキストをベースに、パワーポイントや配布資料を使用して授業を進行します。

毎授業内で、テーマに沿った課題を設定し、リアクションペーパーの提出を求めます。

授業内容によってグループによる話し合いや課題解決などが行われることがあります。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 1. スポーツ指導者とは	①スポーツの意義と価値②公認スポーツ指導者とは③望ましい公認スポーツ指導者とは④安全で、正しく、楽しいスポーツの場を確保するに⑤あなたが理想とするスポーツ指導者とは？⑥スポーツの価値を伝える指導者⑦スポーツライフの構築とスポーツ指導者⑧スポーツ指導者として求められる心構え⑨ジュニア対象指導者の重要性
第2回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 2. スポーツ指導者の倫理	①倫理的問題が生じやすい構造的要因②表面化しにくい倫理的問題への対応③倫理に反する行為や言動④倫理に反する行為がもたらす影響
第3回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 3. 指導者の心構え・視點	①主体はプレイヤーである②スポーツの面白みとは③コミュニケーションの基本は個性と自主性の尊重④コミュニケーションスキルとしての「コーチング」⑤コーチングの基本的な理論⑥スポーツ指導者のコミュニケーションスキル⑦上手なアドバイスの仕方、誉め方しかり方⑧指導者の役割は「環境」を作ること
第4回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ・特別講演】 4. 世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割	外部講師を招聘し（予定）、指導現場の実際の体験を踏まえて「世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割」について考察する
第5回	【指導計画と安全管理】 1. 指導計画の立て方	①スポーツ指導計画の重要性②スポーツ指導計画立案の原則③指導計画立案の準備④指導計画の種類⑤指導計画の実施、変更、検証
第6回	【指導計画と安全管理】 対象者に応じた指導	性差・発達段階に応じた指導
第7回	【指導計画と安全管理】 2. スポーツ計画と安全管理	①スポーツにおける安全確保の知識②施設・用具の点検③スポーツ活動における安全確保のための具体的行動④スポーツにおける保険制度
第8回	【スポーツと法】 1. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任	①危機管理体制の整備（リスクマネジメント）②スポーツに事故における法的責任③スポーツ事故判例
第9回	【スポーツと法】 2. スポーツと人権	①スポーツ倫理と基本的人権
第10回	【指導者の役割Ⅱ】 プレイヤーと指導者の望ましい関係	①望ましいプレイヤー像とは②自ら考え工夫する環境とは
第11回	【指導者の役割Ⅱ】 プレイヤーと指導者の望ましい関係	③コーチングスキル「観察」&「承認」 ④その他のコーチングスキル

第12回	【指導者の役割Ⅱ】 ミーティングの方法	①ミーティングとは②なぜミーティングをするのか③ミーティング実施のポイント④指導者としてのモラル
第13回	【指導者の役割Ⅱ】 世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割	①世界における競技スポーツの競争環境②世界の舞台を目指すバスウェイ③世界を目指した育成における指導者の役割
第14回	授業内試験	習熟度確認のための試験を実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布される資料は次回授業や試験時に使用する可能性があるため、出席できなかった際にも授業内容を確認し、課題については各自取り組むこと。授業内で扱った内容について、自身の活動に持ち帰り考察を深め授業に臨むこと。

授業内容に関連するスポーツ指導に関する時事事象について、情報収集を行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

「公認スポーツ指導者養成テキスト」共通科目Ⅰ～Ⅲ 編集発行 公益財団法人 日本体育協会

## 【参考書】

随時必要に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

- ① 配分
  - i 授業内評価 50点
  - ii 試験 50点
- ② 評価基準
  - i 授業内評価 授業内での取り組みについても評価対象とします。各回授業のテーマにしたがって提出するリアクションペーパーの内容や、グループワークへの参加姿勢などをもとに評価を行います。
  - ii 試験 授業内容の習熟度、理解度を知るための試験を実施します。

## 【学生の意見等からの気づき】

資料やまとめの授業があったことが学習の助けになったという意見を受けて、本年度も適宜まとめやふり返りをしながら進行する予定であります。

また、授業内でのグループワークや課題解決によって、各回のテーマについての考察が深まったという意見が多くあったことを参考に、本年度も授業内にこのような活動を取り入れる予定であります。

## 【その他の重要事項】

・各回の授業順序、特別講師は講師の特別の事情等により変更する場合もあります。その際には事前にお知らせします。

・忌引き、競技における試合の為の欠席等については、所定の用紙に必要事項を記入したものを担当教員に提出し指示を受けてください。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートを指導し、育成する上で修得しておくべき基礎知識を学び、その理解を深める。

## 【到達目標】

アスリートをはじめ、スポーツに関与する（する・見る・支える・作る・調べる）多様な者を指導し、育成する上で、欠くことのできない基礎知識および実践手法について理解を深め、それらをスポーツの現場で活かせるようになる。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、公益財団法人日本スポーツ協会（旧日本体育協会）が公認するスポーツ指導者資格を取得する際、受講が必要となる講義・試験の免除を受けるための必須科目（授業）に位置づけられている。それに伴い、同協会が指定する「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内容に準じ、授業を進めていく。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スポーツの概念と歴史	本授業の概要を解説し、単位認定の基準や受講に当たっての心得などを伝達する。 スポーツが人間や社会にとって、どのような意味を持つのかについて学ぶ。
第2回	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツとは何かについて学ぶ。
第3回	体力とは	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第4回	トレーニングの進め方	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第5回	トレーニングの種類	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第6回	社会の中のスポーツ	現代社会におけるスポーツの特徴について学ぶ。
第7回	我が国のスポーツプロモーション①	諸外国のスポーツプロモーション（スポーツの普及・促進や発展）について学ぶ。
第8回	我が国のスポーツプロモーション②	我が国のスポーツプロモーション（スポーツの普及・促進や発展）について学ぶ。
第9回	トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～	トップアスリートの育成に関わり、コーチが求められる役割や持つべき視点について学ぶ。
第10回	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価	トップアスリートの育成・強化に求められる取り組みとその評価方法について学ぶ。
第11回	競技力向上のためのチームマネジメント①	チームマネジメントとは何かについて学ぶ。
第12回	競技力向上のためのチームマネジメント②	アスリート個人やチームの競技力向上に当たり、チームがどうあるべきなのかについて学ぶ。
第13回	競技力向上のための情報とその活用	アスリートの競技力向上に当たり、活用すべき情報と持つべきグローバルな視点について学ぶ。
第14回	総括	本授業で学習した内容を総括し、課題レポートを作成する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビや雑誌、インターネットなど、多様な情報媒体から得られるスポーツの動向に鋭敏になり、積極的に目を向けるよう心がけること。また、各回の授業で学習した内容を復習するとともに、次回の受講に向け、心身の状態を十分に整え、毎回の授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、公益財団法人日本体育協会編

## 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（70%）を要目として、そこに学期末のレポート課題（30%）を加味し、総合的に評価する。なお、欠席および遅刻は厳重に取り扱うため、心して受講すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

各自が専門とする競技の実践場面や将来指導者を目指す者に、できる限り有益な知識や情報を提供できるよう努める。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防、治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

運動やスポーツは多くの人たちの人生を豊かにするための重要なツールといえる。運動やスポーツは指摘レベルであれば身体にプラス効果となるが、過度な運動や運動不足は害をもたらす。このような視点から、医学と運動学の双方向に応用するための基礎知識を学習することで、知的アスリートを目指すための知識と態度を養う。

## 【到達目標】

1. 基本的な解剖学用語を使用できる
2. 骨、骨格筋、神経の代表的な名称を述べることができる
3. 臓器や血管などの代表的な名称を述べるができる
4. 健康づくりにおける運動の効果を挙げる
5. アスリートの健康管理（コンディショニング）の重要性を説明できる
6. スポーツバイオメカニクスに関する基礎的用語（主に機能解剖的な用語）を使用できる
7. スポーツ中に多い内科的疾患（特に突然死、熱中症、貧血）の原因と対処法を説明できる
8. 心理的ストレスの対処法について述べるができる
9. 心肺蘇生法の重要性を説明できる
10. 心肺蘇生法の適切な手順を解説できる
11. 止血の適切な手順を解説ができる
12. スポーツ外傷と障害を分類できる
13. RICE 処置の意義を説明できる
14. RICE 処置の適切な手順を解説できる
15. 競技に関連した食材の選択方法について説明できる
16. セルフコンディショニングの技能を挙げる
17. ストレッチングの留意点を述べるができる
18. アイシングの手順を正しく理解している
19. 運動中の水分補給の重要性を述べるができる
20. 疲労と筋肉痛の違いを説明できる

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ医学Ⅰでは、スポーツ医学を学ぶために必要な基礎的知識を身につけた上で、スポーツ医学の意義、ならびにスポーツ競技の現場でみられる疾患や怪我の処置などの基礎的内容を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方とルール、スポーツ医学の意義など
2	スポーツ医学のための基礎知識	①骨、骨格筋、神経の代表的な名称、健康づくりにおける運動の効果など ②習熟度確認試験
3	運動生理生化学総論	①運動生理と生化学の専門用語の解説など ②習熟度確認試験
4	スポーツ医学の基礎知識確認テスト	第1回～第3回で学習した基礎知識の習得度確認試験
5	健康づくりとスポーツ	①医学的健康管理、加齢、健康の定義、生活習慣病など ②習熟度確認試験
6	アスリートの栄養摂取と食生活	①競技に必要な栄養摂取の基礎理論 ②習熟度確認試験
7	競技パフォーマンスを維持するための水分摂取	①水分摂取の重要性ならびに熱中症の原因と対処法など ②習熟度確認試験
8	1) スポーツによる精神障害と対策 2) 前半の総括	①スポーツがもたらす心理的効果、動機づけ、緊張やストレスなど ②授業内試験（中間試験）を実施する
9	スポーツ中にみられる内科的な急性障害	①突然死、心肺蘇生法、AEDの使用法、諸注意など ②習熟度確認試験

10	スポーツ中にみられる 内科的な慢性障害	①運動性貧血、感染症、月経などを 例とした総論 ②習熟度確認試験
11	スポーツ中にみられる 怪我や痛みⅠ	①スポーツ外傷の総論 ②習熟度確認試験
12	スポーツ中にみられる 怪我や痛みⅡ	①スポーツ障害の総論 ②習熟度確認試験
13	救急処置と怪我や痛み の予防	①止血法、湿潤法、RICE 処置など ②習熟度確認試験
14	総括	授業内試験（期末試験）を実施する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業資料を授業支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき学習を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要な資料は授業支援システムでダウンロードできる。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル（監修）『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』増補改訂版、日本文芸社
  2. 小島康昭、他（著）『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
  3. 伊藤マモル（監修）『痛めない！ゆるまない！ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  4. 武藤芳照（著）『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社
- ※ 講義で使用するスライド画像資料（市ヶ谷地区と多摩地区の配布資料は講義担当者が異なるため注意）は、「授業支援システム」からダウンロードできる。

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業内試験の結果を総合的に評価する…（ ）内の％は評価配分
  - 1) 習熟度確認試験を 10 回実施する（20％）  
…前回または当日の授業で扱ったテーマの要点に関する習熟度を評価する。
  - 2) 中間試験を実施する（30％）  
…当日は前半に通常講義を行い、後半 40 分を試験に当てる。  
出題範囲は授業中に扱った本科目の基礎となる解剖学用語や専門用語に関してであり、その習熟度を計測する。  
※中間試験の正答率が 70％以下だった者には、再テストに相当するレポート提出を促すが強制はしない。このレポートの詳細については授業中に説明する。
  - 3) 期末試験を実施する（30％）  
…出題範囲は第 1 回以降の全てであり、特に到達目標に書かれた項目全てに対する到達度を測定する。
2. リアクションペーパーを評価する（20％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

使用するスライドは、「文字の大きさ」、「空きスペース」などを調整し、より見やすくする。

#### 【その他の重要事項】

スポーツ医学Ⅰの単位を取得した者は、秋学期に開講する「スポーツ医学Ⅱ」を受講できる。

HSS104LB

## スポーツ医学Ⅱ

伊藤 マモル

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学Ⅱはスポーツ医学Ⅰの単位取得者を対象に授業を行う。

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防、治療、リハビリテーション、コンディショニングなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

運動やスポーツは多くの人たちの人生を豊かにするための重要なツールといえる。運動やスポーツは指摘レベルであれば身体にプラス効果となるが、過度な運動や運動不足は害をもたらす。このような視点から、医学と運動学の双方向に応用するための基礎知識を学習することで、スポーツ傷害の予防とコンディショニングを連携できる知的アスリートとしての態度と知識を養う。

#### 【到達目標】

1. 測定評価の意義を解説できる
2. アスリートの健康管理に携わる専門的職種を列挙できる
3. スポーツにおける栄養の意義を解説できる
4. サプリメントを利用する場合の注意点を列挙できる
5. ドーピングの意義を説明できる
7. リハビリテーションとコンディショニングの違いを説明できる
8. アスリートに有効な良質な睡眠の取り方を解説できる
9. 不良な姿勢と対処法の知識がある
10. 超音波とマイクロカレントの効果の違いを解説できる
11. 温冷交代浴の効果の説明できる
12. 成長期や女性アスリートに多くみられる障害や病的現象を説明できる
13. スポーツ選手として認識しておくべき内科的疾患（特に感染症）の原因を解説できる
14. スポーツ選手として認識しておくべき内科的疾患（特に感染症）の予防対策を述べることができる
15. スポーツ活動中に発症する可能性が高い整形外科的疾患の原因を解説できる
16. スポーツ活動中に発症する可能性が高い整形外科的疾患の予防対策を述べることができる
17. 高地や寒冷地、水中などでの特殊環境下のスポーツ傷害について説明できる

#### 【授業の進め方と方法】

スポーツ医学Ⅱはスポーツ医学Ⅰで習得した内容を基礎に授業を進める。

本科目では、スポーツ競技のパフォーマンスを安定的かつ長期的に維持するために極めて重要であるアスリートの「健康管理（コンディショニング）」に主眼をおいた内容に具体的事例を含めて学習する。

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学Ⅰに関する基礎知識の復習
2	スポーツ医学のための基礎知識	①解剖生理学用語、スポーツバイオメカニクス、運動器の仕組みと働きに関する基礎的用語など ②習熟度確認試験
3	栄養と運動生理学	①呼吸循環器系の働きとエネルギー供給システム ②習熟度確認試験
4	スポーツバイオメカニクス総論	①スポーツ傷害のメカニズムの理解を深めるバイオメカニクスの知識 ②習熟度確認試験
5	アスリートの健康管理	①スポーツ選手に必要なメディカルチェックなど ②習熟度確認試験
6	アスリートに多い整形外科的疾患の原因と対処	①スポーツ傷害各論 ②習熟度確認試験

7	1) ドーピングとスポーツ医学 2) 前半の総括	①ドーピングに対するモラルとその意義、および最新の動向 ②授業内試験（中間試験）を実施する
8	女性アスリートにみられる病的現象	①性差による身体的特徴と、女性アスリートに多くみられる病的な現象 ②習熟度確認試験
9	成長期のアスリートにみられる障害	①こどもの身体的特徴と、成長期のアスリートに多くみられる障害について ②習熟度確認試験
10	リハビリテーションとコンディショニング	①リハビリテーションの意義と実際、自宅で行えるリハビリテーション・トレーニングなど ②習熟度確認試験
11	アスリートにみられる感染症	①風邪、インフルエンザおよび競技者にみられる感染症の実際と予防 ②習熟度確認試験
12	アスリートにみられる慢性障害	①オーバートレーニングのメカニズムと予防 ②習熟度確認試験
13	特殊環境下とスポーツ医学	①高地や寒冷地、水中などで行われる特殊環境下のスポーツ傷害総論 ②習熟度確認試験
14	総括	授業内試験（期末試験）を実施する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義日までに授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要な資料は授業支援システムでダウンロードできる。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル（監修）『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』増補改訂版、日本文芸社
  2. 小島康昭、他（著）『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
  3. 伊藤マモル（監修）『痛めない！ゆるまない！ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  4. 武藤芳照（著）『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社
- ※ 講義で使用するスライド画像資料（市ヶ谷地区と多摩地区の配布資料は講義担当者によって異なるため注意）は、「授業支援システム」からダウンロードできる。

#### 【成績評価の方法と基準】

1. スポーツ医学Ⅰの単位取得者を対象に評価を行う
2. 授業内試験の結果を総合的に評価する…（ ）内の％は評価配分
  - 1) 習熟度確認試験を10回実施する（20％）  
…前回または当日の授業で扱ったテーマの要点に関する習熟度を評価する。
  - 2) 中間試験を実施する（30％）  
…当日は前半に通常講義を行い、後半40分を試験に当てる。  
出題範囲は授業中に扱った本科目の基礎となる解剖学用語や専門用語に関してであり、その習熟度を計測する。  
※中間試験の正答率が70％以下だった者には、再テストに相当するレポート提出を促すが強制はしない。このレポートの詳細については授業中に説明する。
  - 3) 期末試験を実施する（30％）  
…出題範囲は第1回以降の全てであり、特に到達目標に書かれた項目全てに対する到達度を測定する。
3. リアクションペーパーを評価する（20％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

使用するスライドは、「文字の大きさ」、「空きスペース」などを調整し、より見やすくする。

#### 【その他の重要事項】

スポーツ医学Ⅱはスポーツ医学Ⅰで扱った基礎的内容を元に授業を行うため、スポーツ医学Ⅰの単位を取得してから受講すること。

HSS105LB

## スポーツ心理学

荒井 弘和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツと心との関係を学ぶ

#### 【到達目標】

発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、情報源把握力、信頼関係構築力）」と「状況判断・行動力（主に、自己変革力、環境変革力）」の育成に貢献することを目指します。

#### 【授業の進め方と方法】

この授業では、スポーツ心理学の実践的なテーマを学習します。運動・スポーツは、私たちの心と深い関わりをもっています。運動・スポーツと心との関係を学ぶことは、効果的に運動・スポーツ指導を実践する上で欠かせません。この講義では、公認スポーツ指導者養成のための共通科目として、発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて、具体的かつ実践的に学び、実践できるようになることを目指します。

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ジュニア期のスポーツ 発育発達過程の身体的特徴、心理的特徴	この授業で扱う全体像を理解し、説明できるようになる。子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-①
2	ジュニア期のスポーツ 発育発達期に多いケガや病気	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-②
3	ジュニア期のスポーツ 発育発達期のプログラム	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-③
4	スポーツの心理Ⅰ スポーツと心	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-①
5	スポーツの心理Ⅰ スポーツにおける動機づけ	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-②
6	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（1）	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
7	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（2）	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
8	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
9	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
10	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（3）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
11	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（4）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
12	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（5）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
13	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②
14	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

## 【テキスト（教科書）】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（公）日本体育協会

## 【参考書】

日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応した期末のレポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

「ご自身の体験談や、例になる話などを引っ張ってきてくれるため、知識がない自分でも、もっと知りたい！ おもしろい！ と思える」「毎回配られるプリントが非常に役に立った！ 授業の初めにコメントや回答を載せていてみんなの考えがよくわかりおもしろかった！」という意見がありました。この科目は、1 年次から履修可能な必修科目なので、平易に情報提供できるように努めます。また、授業内レポートを課して、翌週にそのフィードバックを行う授業を展開します。

## 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

## 【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。グループでのワークや、ペアでのワークを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。

HSS106LB

## トレーニング科学

中島 亮一

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートにおけるパフォーマンス向上と傷害予防を目的としたトレーニング理論と実践方法を学ぶ。

## 【到達目標】

身体の構造と機能を学習し、運動・トレーニングに対する身体の応答を理解する。また、自身のトレーニングに実践応用できる知識を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

身体の基本的な構造と機能と、運動およびトレーニングによる身体応答を解説していく。次にレジスタンストレーニング、持久系トレーニング、スピード・アジリティ系トレーニング、プライオメトリックトレーニングの方法を解説し、ピリオダイゼーション（トレーニング計画）についても講義する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目標や授業の進め方、諸注意などを説明し、「トレーニング科学」について概説する。
2	身体の構造と機能①	神経-筋系を中心に身体の構造と機能を解説する。
3	身体の構造と機能②	心臓血管系・呼吸器系を中心に身体の構造と機能を解説する。
4	身体の構造と機能③	エネルギー供給機構を中心に身体の構造と機能を解説する。
5	トレーニングのバイオメカニクス	トレーニングにおけるバイオメカニクスについて解説する。
6	トレーニング科学概論	トレーニングの原理、原則、生体の適応等について解説する。
7	ウエイトトレーニングのプログラムデザイン	ウエイトトレーニングの変数、負荷、プログラム作成等、基本的な知識を解説する。
8	有酸素性持久力トレーニングのプログラムデザイン	主要な持久系トレーニングの変数、負荷、プログラム作成等、基本的な知識を解説する。
9	プライオメトリックトレーニングのプログラムデザイン	主要なプライオメトリックトレーニングの変数、負荷、プログラム作成等、基本的な知識を解説する。
10	スピード・アジリティ系トレーニングのプログラムデザイン	主要なスピード・アジリティ系の方法について解説する。
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの効果と必要性を解説する。加えてストレッチングについても解説する。
12	測定と評価	トレーニングの評価方法（測定）について、具体的な方法を解説する。
13	長期的トレーニング計画の立案	主にピリオダイゼーションについて、期分けの方法や、競技特性の違いを明らかにしながら解説する。
14	スキルの獲得	運動スキルの獲得に関わる要因や獲得過程について解説する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス記載の内容を事前に調べて予習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

## 【参考書】

- 公認スポーツ指導者テキスト共通科目Ⅲ
- ストレングストレーニング&コンディショニング第3版
- トレーニング指導者テキスト理論編：改訂版（JATI）

## 【成績評価の方法と基準】

各授業の内容に沿ってレポートを実施し、その合計点数を 40%、期末試験を 60%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】  
担当初年度につき記載なし。

HSS107LB

## スポーツ経営論

岩村 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

### 【到達目標】

地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえでマネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともに、スポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

### 【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解するとともに、スポーツ事業の計画の方法や組織のあり方を理解する。また、総合型地域スポーツクラブの構造や地域に対する役割を理解すると同時にその多様性に応じた指導方法も学ぶ。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
2	地域スポーツクラブの機能と役割（1）	我が国のスポーツ振興
3	地域スポーツクラブの機能と役割（2）	スポーツ行政の仕組みとねらい
4	地域スポーツクラブの機能と役割（3）	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」
5	対象に合わせたスポーツ指導（1）	地域スポーツクラブの必要性
6	対象に合わせたスポーツ指導（2）	地域スポーツクラブの立ち上げと運営
7	スポーツ組織の運営（1）	地域におけるスポーツ経営
8	スポーツ組織の運営（2）	総合型地域スポーツクラブの育成と運営
9	スポーツ組織のマネジメント（1）	スポーツ組織のマネジメント
10	スポーツ組織のマネジメント（2）	スポーツ事業のマーケティング
11	スポーツ組織のマネジメント（3）	スポーツ事業のプロモーション
12	対象に合わせたスポーツ指導（3）	中高年者とスポーツ、障がい者とスポーツ
13	対象に合わせたスポーツ指導（4）	女性とスポーツ
14	まとめ	本講義のまとめをおこなう

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書を読んでいることが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

レジュメを使用する。

### 【参考書】

- (1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ：(公)日本体育協会
- (2) アスレティックトレーナー教本：(公)日本体育協会
- (3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
- (4) クラブづくりの4つのドア：文部科学省

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度等）30%、小テスト30%、期末試験40%より評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業環境を適切に保つよう努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

## スポーツ学入門

雨宮 怜

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、SSIにおいてスポーツ科学を学ぶための導入科目として位置づけられる。そのため、国内外における最新のスポーツ科学の動向を概観することにより、当該分野に関連する基礎的な知識の習得を目指すことになる。

## 【到達目標】

1. スポーツ科学がパフォーマンスの向上に資する効果について理解を深める。
2. スポーツと心身の健康の関係について理解を深める。
3. スポーツの文化的側面について理解を深める。
4. スポーツの教育的効果について理解を深める。

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、「スポーツ」「パフォーマンス」「心身」「健康」「文化」「指導」「教育」をキーワードとし、最新のトピックスを踏まえた講義、実習および事例検討を通じてスポーツ科学分野における広範な知識や情報を習得する。授業で習得した知識や情報を、自らが取り組むスポーツシーンにおいてどのように活かしていくのかを考えることが重要となる。そのため各授業では、習得した知識や情報の活用方法についてまとめたリアクションペーパーに取り組むことになる。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	体育とスポーツの歴史	体育の意義およびスポーツの歴史的変遷について学ぶ
3	少子高齢化とスポーツ	少子高齢化社会におけるスポーツ役割について学ぶ
4	身体のメンテナンス	運動・スポーツを行う際に必要な身体の調査方法について学ぶ
5	身体のトレーニング	より効果的な運動パフォーマンスを発揮するための身体のトレーニング法について学ぶ
6	心のトレーニングの理論	より効果的な運動パフォーマンスを発揮するための心のトレーニング法について学ぶ
7	心のトレーニングと心理的スキルの測定	運動パフォーマンスに重要な心理的スキルの理解および、自身の心理的スキルの把握を行う
8	運動への動機づけ	運動および競技スポーツへの動機づけ（モチベーション）について学ぶ
9	運動とマナー	運動・スポーツ実践時に必要な社会的マナーについて学ぶ
10	運動時のコミュニケーション	運動・スポーツ実践を通じたコミュニケーションの促進効果について学ぶ
11	スポーツ障害	スポーツ実践時に起こるスポーツ障害およびその防止法について学ぶ
12	スポーツ産業	アスリートのキャリア形成やタレント発掘、またスポーツを通じた社会的活動および政策について学ぶ
13	スポーツ指導	スポーツ指導の在り方について、事例を通じた理解を行う
14	総括	授業のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、新聞、Web等から発信される様々なスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

## 【テキスト（教科書）】

パワーポイント、関連資料、映像等を適宜使用する。

## 【参考書】

パワーポイント、関連資料、映像等を適宜使用する。

## 【成績評価の方法と基準】

下記の基準に基づき総合的に評価する。

1. 毎回の授業時に取り組むリアクションペーパー：50%
2. 授業への参画状況：50% ⇒ 欠席3回までを評価対象とする。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関するパワーポイントだけではなく、補足資料を提供することで、より深い理解や情報の収集力の獲得を目指します。

## 【その他の重要事項】

1. 講義内容の理解度を確認するため、各授業においてリアクションペーパーを課す。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化した現代社会の中で我々の身体はストレスによって様々な障害が引き起こされている。特にかつての成人病が現在では生活習慣病となり、子供達においてもこの病気にかかることが多くなってきている。

そこで当講義では健康を維持するために必要な食事や運動、あるいは喫煙が体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたらよいかを考えていく。

## 【到達目標】

- ①日常生活改善に役立てられるよう講義の内容を理解する。
- ②各回で取り上げたテーマについて、各自が該当する問題点や解決方法を理解する。
- ③競技力向上に繋がられるよう体調管理の重要性を知る。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、日常生活の中で、健康を維持増進するために必要な諸問題を取り上げ、資料配布や板書、ビデオ等を用いて説明し、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。その中で質問が出た場合は、次回授業の冒頭で回答する。なお、必要に応じてビデオ等を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業の概要を説明し、各自に受講志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、飲酒について	飲酒における害及び正しい飲み方等を取り上げる。
第3回	喫煙について（喫煙の害と禁煙法等）	喫煙における害や禁煙法等について取り上げる。
第4回	肥満の成因について（1）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
第5回	肥満の成因について（2）	ビデオ教材を用いて、肥満になりやすい生活習慣について確認する。
第6回	栄養学（1）（日常の食事の取り方）	栄養学の基本知識を説明し、日常の食事の取り方について取り上げる。
第7回	栄養学（2）（ごはん食について）	ごはん食の特徴について取り上げる。
第8回	栄養学（3）（目的別栄養摂取）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
第9回	睡眠について	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
第10回	ウエイトトレーニングについて	トレーニングの原則を取り上げ、基本的な方法を説明する。
第11回	熱中症について	熱中症について、各症状別対処法や正しい水分補給等を説明する。
第12回	ストレスについて	ストレスの概論について説明し、各自のストレス状態について簡単なチェックをする。
第13回	流行の健康法について、講義総括	流行の健康法をいくつか取り上げ、授業の総括を行う。
第14回	筆記試験	授業で取り上げたテーマについて筆記試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマについて、各自が該当する問題点や解決方法を確認し、次回取り上げるテーマについての自分なりのイメージを持って授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、筆記試験（40%）により総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

日常生活改善のための知識は概ね理解出来ているようなので、さらに栄養学等の取り上げる問題によっては、スポーツ選手としての競技力向上に繋げる意識を高めてもらうことを目指す。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のトップアスリートに注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法等を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴について考察する。

## 【到達目標】

- ①日頃から取り組んでいる競技と併せ、他競技のルールや歴史等についても理解を深め、視野を広げる。
- ②各アスリートの経歴を調べる中で、練習に取り組む姿勢や日常生活の過ごし方等、彼らが優れたパフォーマンスを発揮するために努力している点について探り、理解する。
- ③各自が理想のアスリート像を確立させ、競技生活や競技力向上に役立てる。

## 【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進め、スポーツ界で活躍する（した）一流選手を取り上げ、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法等の特徴についてまとめ、ディスカッションしていく。

各自が関心のある選手について調査し、個人あるいはグループごとに資料を作成して、その内容を発表してもらう予定である。なお、必要に応じてビデオ等を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講者決定	授業概要について説明し、受講者の確認をする。
第2回	トップアスリートとは（意識、練習法等）	トップアスリート特有の考え方やトレーニング方法について説明する。
第3回	トップアスリートの紹介（1）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートの紹介をする。
第4回	トップアスリートの紹介（2）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートを紹介する。
第5回	トップアスリートの紹介（3）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートを紹介する。
第6回	各競技のアスリート発表（1）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第7回	各競技のアスリート発表（2）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第8回	各競技のアスリート発表（3）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第9回	各競技のアスリート発表（4）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第10回	各競技のアスリート発表（5）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第11回	各競技のアスリート発表（6）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第12回	各競技のアスリート発表（7）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第13回	授業総括	授業で取り上げたトップアスリートについて再度確認をし、総括を行う。
第14回	レポート作成、提出	授業内でレポートを作成し提出する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回取り上げる競技やトップアスリートの特徴等を再度確認、復習し、自身の発表でアスリートに関するより詳しい内容を述べられるよう、資料の作成に努めること。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、グループ発表（20%）及びレポート（20%）により総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げたアスリート及び競技について、詳しく解説、補足することを目指す。

## スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

笠井 淳

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィジカルトレーニングの理論について、講義及び実践を通し、理解を深める

## 【到達目標】

- ・トレーニングの理論について、理解を深める
- ・競技者としての活動に役立てるまで、理解を深める
- ・指導者としての活動に役立てるまで、理解を深める

## 【授業の進め方と方法】

スポーツトレーニングにはテクニカルな面とフィジカルな面がある。この授業では後者のフィジカルトレーニングを取り上げ、トレーニング理論のより高い理解とその実践を内容とする。将来、指導をする際および競技パフォーマンス向上のために役立ててもらいたい。講義中心であるが、テーマによってはディスカッションも取り入れる。また実技も行なう。毎授業、リアクションペーパーの提出を義務付ける。

招聘指導者講義を予定している。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する
2	「POMS」法、心理テストの実施及び解説	心理テストを実施し、その評価について説明する
3	体力とは	体力について説明する
4	フィットネスの基礎及び発育発達とトレーニング	フィットネス及び発育発達とトレーニングについて説明する
5	トレーニングの理論	トレーニング理論の3原理5原則について説明する
6	トレーニング計画	「トレーニング計画の重要性」について説明する
7	筋力トレーニングの理論及び方法	筋力トレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
8	パワートレーニングの理論及び方法	パワーの理論及びトレーニング方法について説明する
9	パワートレーニングの実践	パワートレーニングの方法を実践する（外部講師）
10	スピードトレーニングの理論及び方法	スピードトレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
11	持久力トレーニングの理論及び方法	持久力の理論及びトレーニング方法について説明する
12	PDCA サイクル	PDCA 理論について説明する
13	ディスカッション	トレーニングについてのディスカッションを行う
14	まとめ	レポート課題 授業内容をまとめる レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週のテーマについて準備すること  
各自の毎日のトレーニングについて日誌をつける等トレーニング管理を行うこと  
しっかりとした健康管理を行なうこと

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

- 2) 課題・レポート・発表 40%

この配分とし総合評価する。

長期遠征や合宿等で欠席が多くなる受講者は個別に対応・評価する

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のニーズにできるだけ沿った内容を準備する。

## 【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論 I」となります。

## 渡 正

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツは、政治・経済・社会と密接に関連して生起する現象である。本授業では、こうしたスポーツ自体を文化的現象としてとらえ、その特質を考察するとともに、近代社会や日本社会の文化的特質がどのようにスポーツに影響を与えているのかを考察する。学生は、この授業を通して、日本社会と日本のスポーツの文化的特徴を理解し、スポーツと日本社会の現代的課題を探究する。また自らの実践するスポーツの歴史的経緯と文化的特質を学ぶことから、その将来像について考察する。

## 【到達目標】

現代社会におけるスポーツの文化的特質と近・現代社会の特徴を理解し、スポーツと社会・文化の関連について検討することができるようになることが求められる。

1：社会・文化的現象としてスポーツを考え、現在のスポーツの特徴や歴史的経緯を理解し説明することができる。

2：現代社会におけるスポーツについて考察し、その課題について説明できる。

3：自らの実践するスポーツやスポーツライフについて考察し、自らのスポーツ実践について反省的に捉え返すことができる。

## 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進めるが、授業中に課題を課し、その内容について受講生同士でのディスカッションを行いスポーツ文化についての各自の理解を深める。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/ スポーツとは何か	授業の概要と基礎的知識について説明する。文化概念やスポーツ文化概念を構成する諸要素について理解する。
第2回	スポーツの概念とその 成立	近代スポーツの概念とその成立過程について理解する。スポーツがいかなる文化的特質を持っていたのかを理解する。
第3回	近代オリンピックの誕生とその時代	代オリンピックがどのようにして誕生したのか、その時代の文化的・社会的背景について把握する。またオリンピックの影響について検討する。
第4回	スポーツと/のグロー バリゼーション	スポーツがイギリスのローカル文化であることを超え、国際化・グローバル化するプロセスとそれによるスポーツの文化的変質を検討する。
第5回	スポーツとメディア	現代におけるメディアとスポーツの相互依存的な関係性を把握する。また、日本におけるスポーツとメディアの関係性を考える。
第6回	スポーツとナショナ リズム	スポーツが生む熱狂はどのような社会的効果をもつだろうか。特に、「国」を代表すること、「○○人」であることはいかなることか、というナショナリズム・ナショナルアイデンティティの観点から考える。
第7回	スポーツと政治	スポーツは決して純粋無垢な現象ではなく、これまでさまざまに政治的利用されてきた。一方スポーツは人種差別などのさまざまな社会的な問題を発露させてもきた。こうしたスポーツと政治について考える。

第8回	スポーツとジェンダー ①	スポーツにおいてジェンダーやセクシュアリティはどのように扱われてきただろうか。「性」のあり様とスポーツの関連を考える。
第9回	スポーツとジェンダー ②	メディアにおけるスポーツ報道の特質から、スポーツと「男性性（男らしさ）」「女性性（女らしさ）」のあり様について考える。
第10回	パラリンピックと日本	パラリンピックとはなんだろうか。パラリンピックの開催は日本社会にどのような影響を与えてきたのか。日本社会はパラリンピックや障害者スポーツをどのように捉えてきたのかを考える。
第11回	スポーツと障害者	障害者スポーツとはいったいどのような営みなのか。障害者スポーツという現象それ自体を考えるとともに、そこからスポーツそれ自体の未来も考える。
第12回	日本のスポーツ文化と 社会	スポーツマンガを取り上げ、日本社会や日本文化とスポーツの関係を検討する。
第13回	体育とスポーツ	体育とスポーツの相違点は何か。日本の学校教育とスポーツ文化の関係性、特に部活動とスポーツのあり方を考える。
第14回	スポーツをめぐる社会 問題	スポーツはその内部に、体罰や暴力、ドーピング、賭けなどの問題を抱えている。一方でこれらは現代社会が抱える問題でもある。こうした現代社会におけるスポーツの諸問題を検討し今後のスポーツ文化を考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に提示された資料がある場合、それを熟読し内容をふまえた上で授業に望む必要がある。授業は事前学習を前提として行われ、学生同士のディスカッションを積極的に行う。授業では授業内容の理解度を確保するための小テスト／ミニレポートを課す。そのため学生は、準備学習や復習の時間をとることが求められる。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず適宜資料を配布する。また、授業に関する参考資料を配布し、テキストとして使用する場合がある。

## 【参考書】

1) よくわかるスポーツ文化論、ミネルヴァ書房。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中のディスカッションに関するミニレポートから社会・文化的現象としてスポーツを考え、現在のスポーツの特徴や歴史的経緯を理解し説明することができるかを判断する（30%）

授業中での小テストとリアクションペーパーから現代社会におけるスポーツについて考察し、その課題について説明できるかを判断する（30%）

期末レポートから自らの実践するスポーツやスポーツライフについて考察し、自らのスポーツ実践について反省的に捉え返すことができるかを判断する（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

一方向的な授業にならないよう、ワークシートやディスカッションの資料を用意することによって、学生の積極的な授業参加を促すよう改善する。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生自らが指定された課題や問題を探索しディスカッションすることもあるため、インターネットに接続可能な情報機器を持参することが望ましい。

## スポーツ栄養学Ⅰ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養医学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、そのコンディショニング方法を学ぶ。

## 【到達目標】

・身体の仕組みやケガの成り立ち、栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。  
・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。  
・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第2回目	栄養管理の重要性	新しい栄養学の必要性について学ぶ。
第3回目	パフォーマンスと栄養	パフォーマンスと栄養の関係について学ぶ。
第4回目	アスリートの食事	アスリートが必要としているバランスのとれた食事について学ぶ。
第5回目	消化と吸収	身体の消化と吸収のしくみとパフォーマンスの関係について学ぶ。
第6回目	エネルギー代謝	身体の中でエネルギーを作り出すシステムについて学ぶ。
第7回目	スポーツと栄養素（たんぱく質）	たんぱく質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響を学ぶ。
第8回目	スポーツと栄養素（糖質）	糖質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第9回目	スポーツと栄養素（脂質）	脂質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第10回目	スポーツと栄養素（ビタミン①）	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第11回目	スポーツと栄養素（ビタミン②）	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第12回目	スポーツと栄養素（ミネラル①）	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第13回目	スポーツと栄養素（ミネラル②）	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第14回目	試験	春学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を生かしコンディショニングを行う。

## 【テキスト（教科書）】

資料は毎時配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・欠席者が資料を希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。  
・集中力が持続できるような授業構成を行う。

## 【その他の重要事項】

併せてスポーツ栄養学Ⅱも受講することが望ましい。

## スポーツ栄養学Ⅱ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養医学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、そのコンディショニング方法を学ぶ。

## 【到達目標】

・身体の仕組みや症状の成り立ち、各栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。  
・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。  
・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第2回目	コンディションと栄養	コンディションと栄養の関係について学ぶ。
第3回目	アスリートの食事	アスリートが理想とするメニューの作り方や選び方、また、タイミング別の栄養摂取の方法を学ぶ。
第4回目	鉄欠乏と栄養対策Ⅰ	鉄欠乏の症状と競技への影響について学ぶ。また、貧血診断の問題点について学ぶ。
第5回目	鉄欠乏と栄養対策Ⅱ	鉄欠乏の正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第6回目	風邪と栄養対策	風邪を引くメカニズムについて学ぶ。また、正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第7回目	低血糖と栄養対策	低血糖が起こるメカニズムと競技への影響について学ぶ。また、正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第8回目	スタミナと栄養対策	精神的スタミナと肉体的スタミナの両方を取り上げ、そのメカニズムと正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第9回目	ケガと栄養対策Ⅰ	ケガが起こるメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第10回目	ケガと栄養対策Ⅱ	ケガが起こるメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第11回目	増量と栄養対策	増量のメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第12回目	減量と栄養対策	減量のメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第13回目	サプリメントと栄養対策	サプリメントの考え方や使い方を学ぶ（種目別、時差など）。
第14回目	試験	秋学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を生かしコンディショニングを行う

## 【テキスト（教科書）】

資料は毎時配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断す

## 【学生の意見等からの気づき】

・欠席者が資料を希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。  
・集中力が持続できるような授業構成を行う。

## 【その他の重要事項】

スポーツ栄養学Ⅰから受講することが望ましい。

## コンディショニング科学 I

小菅 亨

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

昨今、インターネットの普及により様々な情報が入手することができる一方で、その情報を正しく選択する力量が求められている。それはアスリートも例外ではなく、多岐にわたるコンディショニング方法から自身に合った方法を見出さなければならない。

そのような状況の中でアスリートやスポーツ指導者の立場から自分に適したコンディショニング方法を選択・実施できるよう、コンディショニングの基礎を知識として身に付け、今後知的アスリートとして活動できよう土台作りを行う。

## 【到達目標】

1. コンディショニングの概念を述べることができる。
2. 自身のコンディショニングの把握と管理するための方法を列挙できる。
3. フィットネスチェックの種類と意義を列挙できる。
4. フィットネスチェックをもとに自身のコンディショニングを管理できる知識を得ている。
5. 試合でのパフォーマンスを向上させるためのトレーニング方法を理解・選択できる。
6. ピリオタイゼーションモデルを理解し、目標にあわせて作成することができる。
7. スポーツマッサージの留意点を述べるができる。
8. ストレッチの留意点を述べることができる。
9. セルフコンディショニングの種類を列挙できる。

## 【授業の進め方と方法】

コンディショニング科学 I では、自身でコンディショニングを実践するための基礎を学習するとともに、セルフコンディショニングとして実践することが望ましい技能についての理解を深めるための講義と数回の体験実習を行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要・授業のルール・受講者の決定
2	コンディショニングの概念	受講者が経験したコンディショニングについて再考する。
3	コンディショニング概念 II	コンディショニングに関係のある専門家とその特徴
4	コンディショニングの把握	スポーツ外傷とスペシャルテスト、身体組成について
5	コンディショニングの把握 II	競技関連体力の測定と評価
6	コンディショニングとトレーニング I	代謝系トレーニング、筋力トレーニングの理論と方法
7	コンディショニングとトレーニング II	サーキットトレーニング、アジリティトレーニング、コーディネーショントレーニングの理論と方法
8	前半の総括	授業内試験 (中間テスト) を実施する (詳細は授業中に説明する)
9	コンディショニングとトレーニング実技	トレーニングルームにて各種トレーニングを行う
10	コンディショニングとピリオタイゼーション	超回復、休養、運動生理学、トレーニング計画について
11	コンディショニングとマッサージ	マッサージの効果・留意点、セルフマッサージについて
12	コンディショニングとストレッチ	ストレッチの効果・留意点、セルフストレッチについて
13	総括	コンディショニング科学 I の要点を振り返るとともに、期末試験に関する傾向と対策を教示する
14	期末試験	授業内試験を実施する (詳細は授業中に説明する)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義日までに授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、必要な資料は授業支援システムでダウンロードできる。

## 【参考書】

1. 財団法人日本体育協会『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ⑥ 予防とコンディショニング』文光堂
2. Thomas R. Baechle, Roger W. Earle 編『NSCA 決定版 ストレングス トレーニング&コンディショニング 第3版』ブクハウスエイチディ社
3. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
4. 伊藤マモル『パートナーストレッチング・健康づくり編』ベースボールマガジン社
5. 伊藤マモル『パートナーストレッチング・スポーツ編』ベースボールマガジン社
6. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書

7. 伊藤マモル (監修)『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
8. 伊藤マモル (監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

## 【成績評価の方法と基準】

1. 以下に示した三段階の評価から総合的な判定を行う。授業への積極性が極めて低い者についてはレポート提出を促す。レポートの詳細、提出期限は授業中に説明する。

【レポート課題】間違えた問題の正解を調べ、その背景にある理論や意義をまとめる。レポートの評価は 1～3 点の 3 段階で行い、2 点以上は合格とし 60 点として評価する。

【評価】レポート評価が 1 点および未提出者は、第 1 回テストの粗点をそのまま評価する。

【その他】期末テストでは、追試の実施または追試代替りレポートを課す場合がある。

授業への積極性が極めて低い場合は総合評価から減点する。なお、小テストおよび各試験の評価配分は ( ) 内に % で示した。

第一段階 (30 %) : 授業中に実施する小テスト 11 回の平均点を算出する。第二段階 (30 %) : 前半の講義の習熟度を判定するために、第 7 回講義で授業内試験 (中間テスト) を実施する。粗点 (100 点) の 30 % に換算した点数が総合評価に反映される。

※第一段階 (小テスト) および第二段階 (中間テスト) の試験における評価基準

解答の評価は以下の 1) ~ 7) の観点で行う。

- 1) 設問の趣旨に沿った正確な解答ができています。
- 2) 解答の論旨や展開が明確である。
- 3) 根拠や理由を踏まえた客観性のある解答である。
- 4) 本科目で学習した専門用語を適切に使用できている。
- 5) 漢字や言葉の使い方に誤りがない。
- 6) 適切な段落分けをするなどの工夫が解答文に見られる。
- 7) 解答のための文字数に過不足がない。

第二段階 (40 %) : 第 14 回講義で到達目標に書かれた 9 項目全ての到達度を測定するための授業内試験 (期末テスト) を実施する。粗点 (100 点) の 40 % に換算した点数が総合評価に反映される。

2. 第二段階で行った授業内試験の結果が 60 点以下だった者には、再テストに相当するレポートを行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックすることができません。

## コンディショニング科学Ⅱ

小菅 亨

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨今、インターネットの普及により様々な情報が入手することができる一方で、その情報を正しく選択する力量が求められている。それはアスリートも例外ではなく、多岐にわたるコンディショニング方法から自身に合った方法を見出さなければならない。

本授業はコンディショニングⅠの授業で身に着けた知識の具体例を紹介し、自分のコンディショニングに応用できる範囲を広げる。

## 【到達目標】

1. コンディショニングの意義を説明できる。
2. 応急処置やアイシングの手順を正しく理解している。
3. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義を説明し、必要なものを選択できる。
4. テーピングの意義と正しい使用方法を列挙できる。
5. アスリートがコンディショニングに必要な基礎栄養学を理解している。
6. 水分補給の重要性を述べるができる。
7. アスリートが利用するサプリメントに関して理解し、その有用性と危険性を列挙できる。
8. 超音波やマイクロカレントの効果を列挙できる。

## 【授業の進め方と方法】

コンディショニング科学Ⅱでは、コンディショニングに関する応用的な理論や専門的方法に関する知識と理解を深めるための講義と数回の体験実習を行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要・授業のルール・受講者の決定
2	コンディショニングと応急処置	応急処置・アイシングの意義、生理学的効果、手技や方法について
3	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップの目的と効果、クーリングダウンの目的と効果
4	コンディショニングと栄養Ⅰ	三大栄養素、微量栄養素、推奨摂取量、水分補給、運動周囲の摂取方法
5	コンディショニングと栄養Ⅱ	サプリメントの種類と有用性、ドーピングの危険性、カーボローディングについて
6	コンディショニングと減量・増量	階級別スポーツのコンディショニング、増量減量の注意点、摂食障害について
7	前半の総括	授業内試験（中間試験）を実施する（詳細は授業中に説明する）
8	競技特性とコンディショニング	自身の競技や他の競技に関するコンディショニングを再考する
9	メンタルコンディショニング	内発的モチベーション、外発的モチベーション、リラクゼーションテクニックについて
10	コンディショニングとテーピング	テーピングの目的と効果、注意点、基礎的な巻き方について
11	コンディショニングと物理療法	物理療法の活用、超音波治療器、中周波・低周波治療器の意義と効果、方法と諸注意
12	コンディショニングの現状	様々な最新のコンディショニング方法をグループでディスカッションする
13	総括	コンディショニング科学Ⅱの要点を振り返るとともに、期末試験に関する傾向と対策を教示する
14	期末試験	授業内試験を実施する（詳細は授業中に説明する）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義日までに授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要な資料は授業支援システムでダウンロードできる。

## 【参考書】

1. 財団法人日本体育協会「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥ 予防とコンディショニング」文光堂
2. Thomas R. Baechle, Roger W. Earle 編『NSCA 決定版 ストレングス トレーニング&コンディショニング 第3版』ブックハウスエイチディ社
3. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
4. 伊藤マモル『パートナーストレッチング・健康づくり編』ベースボールマガジン社
5. 伊藤マモル『パートナーストレッチング・スポーツ編』ベースボールマガジン社
6. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
7. 伊藤マモル（監修）『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社

8. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

## 【成績評価の方法と基準】

1. 以下に示した三段階の評価から総合的な判定を行う。授業への積極性が極めて低い者についてはレポート提出を促す。レポートの詳細、提出期限は授業中に説明する。

【レポート課題】間違えた問題の正解を調べ、その背景にある理論や意義をまとめる。レポートの評価は1～3点の3段階で行い、2点以上は合格とし60点として評価する。

【評価】レポート評価が1点および未提出者は、第1回テストの粗点をそのまま評価する。

【その他】期末テストでは、追試の実施または追試代替レポートを課す場合がある。

授業への積極性が極めて低い場合は総合評価から減点する。なお、小テストおよび各試験の評価配分は（ ）内に%で示した。

第一段階（30%）：授業中に実施する小テスト11回の平均点を算出する。

第二段階（30%）：前半の講義の習熟度を判定するために、第7回講義で授業内試験（中間テスト）を実施する。粗点（100点）の30%に換算した点数が総合評価に反映される。

※第一段階（小テスト）および第二段階（中間テスト）の試験における評価基準

解答の評価は以下の1)～7)の観点で行う。

- 1) 設問の趣旨に沿った正確な解答ができています。
- 2) 解答の論旨や展開が明確である。
- 3) 根拠や理由を踏まえた客観性のある解答である。
- 4) 本科目で学習した専門用語を適切に使用できている。
- 5) 漢字や言葉の使い方に誤りが無い。
- 6) 適切な段落分けをするなどの工夫が解答文に見られる。
- 7) 解答のための文字数が過不足がない。

第三段階（40%）：第14回講義で到達目標に書かれた9項目全ての到達度を測定するための授業内試験（期末テスト）を実施する。粗点（100点）の40%に換算した点数が総合評価に反映される。

2. 第二段階で行った授業内試験の結果が60点以下だった者には、再テストに相当するレポートを行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックすることができません。

## スポーツメンタルトレーニング論

雨宮 怜

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨今のスポーツの高度化に伴い、アスリートの実力発揮やパフォーマンス向上には技術面、体力面にくわえ心理面の強化も必要条件となりつつある。本授業では、アスリートが抱える心理的諸問題の解決に寄与する最新のスポーツメンタルトレーニングの理論と方法について学ぶ。

## 【到達目標】

1. アスリートの実力発揮やパフォーマンス向上に資する心理技法の理論と方法を習得する。
2. チーム力の向上に寄与するグループワークの理論と方法を習得する。
3. アスリートやチームが遭遇する心理的現象について理解を深める。
4. 競技に対する姿勢について再考する態度を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

講義と体験的学習を通して、アスリートやスポーツチームが抱える心理的諸問題の解決に寄与するスポーツメンタルトレーニングの理論と技法を学ぶ。授業で習得した心理技法や知見を、自らが取り組むスポーツシーンにおいてどのように活かしていくのかを考えることが重要となる。そのため各授業では、習得した心理技法や知見の活用方法についてまとめたリアクションペーパーに取り組むことになる。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	メンタルトレーニングの歴史	メンタルトレーニングが開発された背景と国際的な扱い方の違いを学ぶ
3	スポーツ場面に必要な心理的能力の測定と理解	心理検査による心理的競技能力および心理的特性に関する理解を行う
4	スポーツ場面に必要な認知能力の測定と理解	認知検査によるスポーツ競技場面の認知能力の役割の理解を行う
5	行動変容技法	行動を変え、競技へのモチベーションを高める方法について学ぶ
6	リラクゼーション技法	緊張場面でリラックスして競技を行うための方法について学ぶ
7	セルフ・モニタリング技法	競技場面における自己客観視能力を獲得する方法について学ぶ
8	注意集中技法	競技場面における自己客観視能力を獲得する方法について学ぶ
9	思考法	楽観主義者と悲観主義者の役割と機能の差異について学び、それに影響されずに競技に取り組む方法について学ぶ
10	イメージトレーニング	イメージトレーニングに関する理解と実践方法を学ぶ
11	コミュニケーション	チーム内のコミュニケーションを促進する方法について学ぶ
12	チームビルディング	チームの連携力を高める方法について学ぶ
13	ゴールセッティング	目標に向かって競技を行うための方法について学ぶ
14	総括	授業のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましい。記録した内容が、本講義の理解を深める手がかりとなる。

## 【テキスト（教科書）】

・「アスリートの心理学」中澤 史（2016）日本文化出版

・「スポーツメンタルトレーニング論」スポーツ心理学会（2016）大修館書店

## 【参考書】

・パワーポイント、関連資料、映像等を適宜使用する。

## 【成績評価の方法と基準】

下記のいずれかの基準により評価する。

## 1. 通常評価

※毎回の授業時に取り組むリアクションペーパー（50%）、授業への参画状況（50%）により総合的に評価する。授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内で配布するレジメに加えて、実際のアスリートがインタビューなどで語っているメンタルトレーニングの実践についてシェアされることによって、メンタルトレーニングが「おまじない」から「身近なトレーニング」に近づくという意見があったことから、積極的にアスリートのインタビュー動画などを用いる。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業から出席を確認する。
2. 各授業においてリアクションペーパーを課す。
3. 先述の授業計画は変更される場合がある。

## 身体の測定と評価

北林 保

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基本的体力要因の測定と評価」、「形態・体組成の測定と評価」、さらには身体に関する様々な数値・データの取り扱い方、正しい統計解析手法の理解を大きな学習テーマとする。

### 【到達目標】

- 1) 基礎的な身体測定・評価論を理解する。
- 2) 身体の形態的・体力的要因の概略や基本的測定方法を理解する。
- 3) 正しい統計解析手法を理解する。

### 【授業の進め方と方法】

本授業においては、従来のエビデンスに基づく知識・情報に加え、スポーツの実践場面を対象とした最新の知見を取り入れる予定である。授業において提供された知識・情報は、単に記憶する・理解するだけでなく、個々人のスポーツ・運動実践場面における適用方法などについて考察することを最も重視する。それゆえ、共通の学習テーマの下での数回の授業が終了することに個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とする。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的	講義内容の解説
第2回	スポーツ科学・体力学・健康学	スポーツ・運動・健康・体力の概念の解説
第3回	体力の構成要素	体力の構成要素の解説
第4回	形態・体格測定方法	様々な形態・体格測定方法の解説
第5回	筋力測定方法とトレーニング方法	様々な筋力測定方法の解説とトレーニング方法の解説
第6回	測定の意義	尺度の説明、測定の意義を解説
第7回	測定値の理解	測定値の取り扱い方法の解説
第8回	統計的手法を用いたデータ解析①	データに応じた様々な統計的検定方法の解説
第9回	統計的手法を用いたデータ解析②	1 要因及び 2 要因を取り上げて比較する場合の解説
第10回	統計的手法を用いたデータ解析③	1 要因及び 2 要因を取り上げて比較する場合の解説
第11回	高齢者の身体評価を転倒問題から考える	実際のエビデンス（データ）に基づく転倒問題の解説
第12回	若年者の身体評価をダイエット問題から考える	実際のエビデンス（データ）に基づくダイエット問題の解説
第13回	自分の身体評価を実際のデータから考える	実際に各種身体・体力測定（データ）を行い、データ分析・診断を行う
第14回	テスト・まとめ	これまでの講義の復習と確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに記載されている授業内容や、授業で指示された内容について、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加すること。また、ミニレポートの作成に向け、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて、授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付する。

### 【参考書】

健康・スポーツ科学講義（監修：出村慎一、編集：佐藤進・山次俊介・春日晃章/杏林書院/2006）

### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業への参画状況：60%、2) 課題・ミニレポートの内容：20%、3) 最終レポート（テスト）：20%とする。  
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際のデータに基づいた解説を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業に必ず出席すること。

## スポーツ生理学

森嶋 琢真

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツや運動に対する身体の生理的応答および適応を学習することを大きなテーマとする。また、筋の形態や機能、エネルギー代謝の調節、ホルモン分泌、神経・呼吸循環調節など、様々な観点からスポーツ場面における生理的調節機序の基礎を学ぶことを目的とする。

### 【到達目標】

- ・スポーツ生理学の基礎的な用語を用いてスポーツ・運動時における身体の応答や適応について説明することができる。
- ・授業を通じて学んだ知識・情報を用いて、効果の高いスポーツトレーニングや運動を実践することができる。

### 【授業の進め方と方法】

本授業の目的を達成するためには、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となる。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、スポーツ生理学に関連した知識を学ぶことは授業目的の一つであるが、その知識をどのように自らの競技やトレーニングへ活かすかを考えることを重視する。したがって、毎回の授業の終了時に授業内容に関するクイズを実施すると共に、個人の考え・意見をまとめたミニレポートを提出し、これを評価の一部とする。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的、評価方法に関する解説	スポーツ生理学とは何か、授業の目標と課題の確認
第2回	運動時における骨格筋の働き	筋の形態と機能、筋収縮、筋線維タイプ
第3回	運動時におけるエネルギー供給機構	ATP、ATP-PC系、解糖系、有酸素系、無酸素性運動、有酸素性運動
第4回	運動時における呼吸調節	最大酸素摂取量、換気量、呼吸数、無酸素性作業閾値、動静脈酸素較差
第5回	運動時における循環調節	血圧、心拍数、心拍出量、1回拍出量、血流再配分
第6回	運動時における神経系の働き	運動単位、中枢神経、末梢神経、交感神経、副交感神経
第7回	運動時における内分泌系の働き	ホルモン、オートクライン、パラクライン、サイトカイン、マイオカイン、アディポサイトカイン
第8回	運動時における環境	暑熱・寒冷環境、高・低酸素環境、水中環境、発汗、水分摂取
第9回	スポーツと骨格筋の適応	持久性トレーニング、レジスタンストレーニング
第10回	スポーツと呼吸器の適応	酸素摂取量、呼吸交換比、換気量、呼吸筋
第11回	スポーツと循環器の適応	スポーツ心臓、毛細血管、血圧
第12回	スポーツと生体組織の損傷	筋肉痛、筋損傷、神経損傷
第13回	スポーツとリカバリー	睡眠、オーバートレーニング、スポーツ場面で用いられるリカバリー方法
第14回	総論および授業内試験	この授業のまとめと授業内試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システムを通じ、または授業中に資料を配付する。

## 【参考書】

運動生理学のニューエビデンス（宮村実晴、真興交易医 書出版部）  
新・スポーツ生理学（村岡功、市村出版）

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業内で実施されるクイズ、ミニレポート：50%
- 2) 授業内試験：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初開講の為、学生からの意見等はまだまだもらえていない。今年度の受講学生の意見を考慮し、来年度以降の授業改善に努めていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業には必ず出席すること。

HSS209LB

## リーダーシップ論 I

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、すぐれたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

### 【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのイメージを獲得する

### 【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、グループワーク形式の実習、自己分析などを通じて、「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

テーマに応じて、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは？
2	【リーダーシップの定義と学び方】 コームスの理論①	・優れたリーダーの共通点 ・リーダーシップと人間観
3	【リーダーシップの定義と学び方】 コームスの理論②	・自己概念とは ・ジョハリの窓
4	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する2つの仮説	・資質アプローチ ・行動アプローチ
5	【リーダーシップに関わる行動】 オハイオ州立大学の研究	・配慮と構造づくり ・リーダーシップと動機づけ
6	【リーダーシップに関わる行動】 リーダーシップと動機づけ	・動機づけとパフォーマンスの関係 ・動機づけを高めるリーダーシップとは
7	【特別講演】 リーダーシップのモデル①	・スポーツ指導におけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップと対象理解】 エリクソンの心理社会的発達論	・発達段階に関する理解 ・発達段階に応じたリーダーシップとは
9	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション①	・ことばの3つのレベル ・コンテンツとプロセス
10	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・チームとは何か ・集団規範 ・「場の理論」
12	【リーダーシップとチームビルディング】	・チームビルディング実習
13	まとめ	まとめ、リーダーシップ論IIへ向けての展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

### 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業内評価 50 %
- ・期末試験 50 %

## 【授業内評価】

毎授業、自身の意見や感想などをリアクションペーパーに記述、提出し、その内容を評価対象として重視します。

また、授業内で実施するグループワークとその振り返りについての成果も成績評価の対象とします。

## 【期末試験】

最終講義において論述形式の試験を実施します。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークや自己分析により気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるような活動を取り入れる予定です。

## 【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

HSS210LB

## リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考える「シェアードリーダーシップ」について、講義やグループワークなどの体験を通じて学びます。

リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

## 【到達目標】

- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める
- ・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する

## 【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。

授業内では、講義によってリーダーシップについての見識を深めるとともに、自分自身のスタイルを確認するための測定や、それぞれの体験を分かち合うためのグループワーク（発表を含む）を予定しています。また、さまざまなスポーツの時事事象に関する考察や、ゲスト講師による特別講義も予定しています。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことをリアクションペーパーに記入し、毎回提出をします。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究】 ジョン・P・コッターの理論	・リーダーシップとは ・組織が変わるためのリーダーの行動
3	【リーダーシップに関する研究】 マックス・ウェーバーの理論	・支配の類型 ・官僚制の特徴
4	【リーダーシップに関する研究】 PM リーダーシップ理論	・PM リーダーシップ理論とは ・P 行動と M 行動 ・グループワーク「課題解決と P/M 行動」
5	【リーダーシップに関する研究】 4 つのリーダーシップ	・4 つのリーダーシップスタイル ・実習「あなたのリーダーシップスタイルは？」
6	【リーダーシップとリーダー哲学】 価値観	・リーダー哲学とは ・リーダー哲学を支える価値観 ・グループワーク「価値観について」
7	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 (外部講師招聘予定)
8	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	・「聴く」スキル ・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」
9	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	コミュニケーションスタイルの評価・診断
10	【リーダーシップと関係性】 影響力	グループワーク「あなたの影響力とは」
11	【リーダーシップと関係性】 ジョハリの窓	・自己開示 ・フィードバック
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフボディション
13	まとめ	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	授業内試験	論述形式による試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

## 【テキスト（教科書）】

パワーポイント、関連資料等を適宜使用する。

## 【参考書】

特になし

必要に応じて紹介する

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内での活動における達成度や参加姿勢(20%)として、授業内で行うグループ課題への取り組みを重視します。リアクションペーパーによるミニレポート(30%)、最終講義での論述形式の試験(50%)によって総合的に成績評価を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学年や部の単位をこえたグループによる活動を通じて、より交流や自己理解が深まったという感想を毎年受けています。本年度も様々な履修生との交流を通じて学ぶことができる環境を整えるように努力します。

HSS211LB

## スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次/単位: 2~4年 / 2単位

開講セメスター: 春学期 | キャンパス: 市ヶ谷

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

#### 【到達目標】

受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び、今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるように構成する。

スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

#### 【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ(放送や、権利など)について、特に重点的な講義を行う。

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第 3 回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第 4 回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップ サッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第 10 回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第 13 回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。  
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。  
試合結果だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

#### 【テキスト(教科書)】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院  
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

#### 【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院  
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

#### 【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき記載なし

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、グループ活動の参加状況 30%、小テスト 20%、グループ発表 20%より評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき記載なし

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。  
授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。  
受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論1」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

## 【到達目標】

受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。  
現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。  
一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。  
また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの基本 スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④その他
第2回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第3回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第4回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第5回	課題の解説④ 発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第6回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第7回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、2から3グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第8回	グループ発表②	質疑とコメント
第9回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第10回	グループ発表③	質疑とコメント
第11回	グループ発表④	質疑とコメント
第12回	プレゼンテーションの総括優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第13回	スポーツビジネス理論に 何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第14回	職業としてスポーツを 選択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。  
受講登録人数にもよりますが、およそ、10人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。  
グループには必ず参加してもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院  
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

## 【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院  
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

## 【成績評価の方法と基準】

2 / 3 以上の出席を前提に、小レポート (20 %) 及び試験 (80 %) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等双方向の授業を目指す。

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツにおけるさまざまな法的問題について学習する。競技力の向上には直接的なつながりはないが、選手や指導者の活動環境を良くするためにも知っておくべきテーマを取り上げる。

## 【到達目標】

現代スポーツにおける各種法的問題の存在を理解し、個別の解決のあり方を論じることができる。

## 【授業の進め方と方法】

現代スポーツで発生している差別や人権問題、選手選考、ドーピングさらには紛争解決といったテーマに関して、何が問題なのか、どうあるべきか、などを検討する。

また、スポーツ活動中の事故をめぐる責任問題についても、指導者はどのような注意義務を負っているのか、具体的にどう事故防止策を講じたらいいのか、などについて取り上げる。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の進め方、注意事項、評価方法等について説明する
2	スポーツ法とスポーツ法学	国内外のスポーツ関連法規について、歴史的背景、特徴等について取り上げる
3	スポーツ行政とスポーツ振興	スポーツ振興法の制定や機能について取り上げる
4	スポーツ権論	スポーツ権の生成、考え方、国内における論争等について取り上げる
5	スポーツ団体の性格と機能	団体の法人格をはじめ、競技団体の機能、役割、権限等について取り上げる
6	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける平等に関して、特に男女差別や障害者のスポーツ参加等について取り上げる
7	スポーツ選手と国籍	スポーツにおける国籍の取り扱い、国内における外国人の扱いなどについて取り上げる
8	オリンピックをめぐる諸問題	オリンピック憲章の意義、機能などのほか、オリンピックを巡る権利問題などについて取り上げる
9	ドーピングの法律問題	アンチ・ドーピングの取り組み、法的問題について取り上げる
10	スポーツ事故をめぐる法的責任 (総論)	スポーツ活動中の事故をめぐる法的責任について一般的に取り上げる
11	スポーツ事故をめぐる民事責任・1	スポーツ活動中の事故をめぐる民事責任について取り上げる
12	スポーツ事故をめぐる民事責任・2	スポーツ活動中の事故をめぐる民事責任について取り上げる
13	スポーツ事故をめぐる民事責任・3	スポーツ活動中の事故をめぐる民事責任について取り上げる
14	スポーツ事故における補償	スポーツ活動中の事故をめぐる保険制度などの補償問題について取り上げる

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。

## 【テキスト (教科書)】

使用しない

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおけるさまざまな法的問題について学習する。競技力の向上には直接的なつながりはないが、選手や指導者の活動環境を良くするためにも知っておくべきテーマを取り上げる。

### 【到達目標】

現代スポーツにおける各種法的問題の存在を理解し、個別の解決のあり方を論じることができる。

### 【授業の進め方と方法】

プロスポーツの選手契約関連やスポーツビジネスにおける法的問題等について、事例を紹介しながら解説する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の進め方、注意事項、評価方法等について説明する
2	企業スポーツをめぐる法律問題・1	企業スポーツをめぐる法的問題について、特に選手の雇用形態について取り上げる
3	企業スポーツをめぐる法律問題・2	企業スポーツをめぐる法的問題について、特に選手の移籍について取り上げる
4	企業スポーツをめぐる法律問題・3	企業スポーツをめぐる法的問題について、特に選手に対するさまざまな補償について取り上げる
5	スポーツビジネスの法律問題・1	スポーツビジネスをめぐる法的問題について、特に契約について取り上げる
6	スポーツビジネスの法律問題・2	スポーツビジネスをめぐる法的問題について、特に知的財産権について取り上げる
7	スポーツビジネスの法律問題・3	スポーツビジネスをめぐる法的問題について、特にスポンサーシップをめぐる法的問題について取り上げる
8	スポーツビジネスの法律問題・4	スポーツビジネスをめぐる法的問題について、特に肖像権や放映権について取り上げる
9	プロスポーツをめぐる法律問題・1	プロスポーツ選手の契約をめぐる法的問題について、特に契約の性質について取り上げる
10	プロスポーツをめぐる法律問題・2	プロスポーツ選手の契約をめぐる法的問題について、特にプロ野球の野球協約の問題について取り上げる
11	プロスポーツをめぐる法律問題・3	プロスポーツ選手の契約をめぐる法的問題について、特にチームとの契約に関してプロ野球とJリーグを比較して取り上げる
12	プロスポーツをめぐる法律問題・4	プロスポーツ選手の契約をめぐる法的問題について、特に移籍に関してプロ野球とJリーグを比較して取り上げる
13	プロスポーツをめぐる法律問題・5	プロスポーツ選手の契約をめぐる法的問題について、他のプロスポーツについて取り上げる
14	スポーツ紛争の解決手段	スポーツ紛争の解決手段について、裁判と裁判外紛争解決、スポーツ専門の紛争解決実施機関などについて取り上げる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ

### 【テキスト（教科書）】

使用しない

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

2 / 3 以上の出席を前提条件とし、小レポート（20 %）及び試験（80 %）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

## アスリートのキャリアマネジメント

荒井 弘和、千葉 順

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートのキャリアについて考える

### 【到達目標】

アスリートのキャリアマネジメントについて学ぶことで、以下の3点に到達することを目指します。1) 自分自身のキャリアをマネジメントするために具体的な行動を起こせるようになること（これが最大の目標です）、2) 同級生や後輩にキャリアについて助言ができるようになること、3) 将来的に指導している選手にキャリアについての指導ができるようになること。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、行動力、説得力、共同行動力）」の育成に貢献することを目指します。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、職業指導（キャリアガイダンス）の一環として開講され、アスリートのキャリアマネジメントについて具体的かつ実践的に学ぶ授業です。さらに、受講生が自らのキャリアを具体的に考える機会を設定します。これらの学習を通じて、受講生が大学生アスリートとして自立することを目指し、将来的には、社会的・職業的に自立できるようになることを目指します。

この授業の受講生はほとんどは、SSI コースの学生であり、現役のアスリートです。卒業後は、プロフェッショナルの世界に進んだり、企業チームに所属したりして、競技を続ける人もいます。しかしどの選手にも、いつの日か現役を引退し、次のステップを歩み始める時がやってきます。その時に、勇気を持って、自分から、一歩前に踏み出せるように、準備をしておくことは重要だと考えます。

次のステップに向かう準備をすれば、スポーツに取り組んでいることは、回り道にはなりません。この授業を通じて、自分の競技人生はもちろんのこと、自分の人生の「これまで」と「これから」についても考えてみましょう。なお、同じキャリア関連の SSI 科目である「アスリートキャリア論」と合わせて受講することを勧めます。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：アスリートのキャリアマネジメントについて考える	この授業の概要を理解し、説明できるようになる。
2	自分のことを理解する：自己分析をする（1）	自己分析（死ぬまでにやりたい100のこと）を実施して、自己理解を促進し、自分のことを具体的に説明できるようになる。
3	自分のことを理解する：自己分析をする（2）	自己分析（ワークスタイルランプ）を実施して、自己理解を促進し、自分のことを具体的に説明できるようになる。
4	アスリートのキャリアを考える：ワークライフバランスを考える（1）	ワークライフバランスを理解して、説明できるようになる。
5	アスリートのキャリアを考える：ワークライフバランスを考える（2）	ワークライフバランスの観点から、「仕事」を理解して、説明できるようになる。
6	アスリートのキャリアを考える：ワークライフバランスを考える（3）	ワークライフバランスの観点から、「生活」を理解して、説明できるようになる。
7	アスリートのキャリアを考える：就職活動を科学する（1）	就職活動の全体的な流れとポイントを理解し、説明できるようになる。
8	アスリートのキャリアを考える：就職活動を科学する（2）	エントリーシートと筆記試験の概要を理解し、説明できるようになる。
9	アスリートのキャリアを考える：就職活動を科学する（3）	グループディスカッションと面接試験の概要を理解し、説明できるようになる。
10	アスリートのキャリアを考える：アスリートとしてのキャリアを考える	スポーツに関連するキャリアについて学び、今後のキャリアについて具体的に考えられるようになる。
11	アスリートのキャリアを考える：競技引退を考える	競技引退後のキャリアについて、具体的な計画を立てられるようになる。
12	キャリアを得るための戦略を立てる：キャリアを得るための資源を理解する	自らの社会的環境を認識し、キャリアマネジメントに活用できるようになる。
13	キャリアを得るための戦略を立てる：あなたのアクションプランを立てる	将来のキャリアについて、具体的な計画を立てられるようになる。

- 14 アスリートのキャリアを考える：法政大学スポーツ憲章を考える 法政大学の理念・目的と法政大学スポーツ憲章を理解し、法政大学の卒業生として、キャリアを構築できるようになる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に提示された、キャリアマネジメントに関する課題に取り組みます。また、講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

### 【参考書】

必要・希望に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応したレポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

「引退後のキャリアや就活について学ぶことが出来て良かった」という意見がありました。引き続き、受講生が活用できる情報を提供できるように努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

### 【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

この授業は、プレゼンテーションやグループワークを行う授業であることに注意してください。

## スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪開催決定からあつという間に5年。予想以上に多くの課題を抱えつつ、準備が進む。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が重要視される。傍らメディアの側の変貌は急速だ。「文字」「映像」を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、メディアの基礎を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

## 【到達目標】

新聞、放送の既存メディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。手段こそ違え取材の理念は共通である筈だ、その理念と扱う情報の選択を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨く。さらにメディアの表現の仕方を吟味することで自らの表現力を高めることが可能になる。

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ界の幅広い知識を得る目的で講義を主体とする。五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組も素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。講義では「今、スポーツは」という日常の動きを敏感に感じ取って貰い、随時ミニレポートとして報告を求める。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリウウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史①	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響力②	放送はいまやスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。
11	オリンピックとメディア	メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。その歴史を辿り、20年大会を考える。
12	受け手の反応	大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
13	ニューメディア①	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。
14	ニューメディア②	誰でもが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの業界とこれからのスポーツ界は。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

## 【テキスト（教科書）】

特に使いません。

## 【参考書】

「躍進するコンテンツ淘汰されるメディア」角川歴彦 毎日新聞出版  
「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社

## 【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見る授業後のミニレポート、期末のレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

## 【その他の重要事項】

20年五輪はスポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の産業にも大きく影響する。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

## スポーツ産業論/スポーツ産業論 I

岩村 聡

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、事例を基にすお一つサービス産業論における実務的内容について説明する。講義を通して、スポーツサービス産業の実際について理解することを目的とする。

## 【到達目標】

プロスポーツクラブやその他のスポーツサービス業の事例ととおして、顧客満足工場への取り組みや社会的責任行動への取り組みなどの実務的な内容について理解を深める。

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ産業の構造や構成要素の関係について解説し、プロスポーツクラブやその他のスポーツサービス業の事例を通してスポーツ産業実務的な世について説明する。スポーツ・マーケティングの基礎的な理論を習得し、自ら活用しようような課題に取り組む

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の意義と目的（生活の豊かさ とスポーツ産業）、スポーツ産業 の市場構造
2	スポーツ産業 (1)	自由時間の三つの機能を害 s 津 市、スポーツサービス産業の現状 について理解を深める
3	スポーツ産業 (2)	サービス財の特性について概説 し、スポーツサービス産業の特徴 について理解を深める
4	ファンサービス	J リーグクラブを事例都市、ス ポーツイベントのファンサービスの 実務的内容について学習する
5	地域貢献活動	J リーグクラブを事例都市、プロ スポーツクラブの地域貢献活動に ついて実務的内容について学習す る
6	顧客満足	テニススクールやスイミングス クールを事例都市、スポーツサー ビス産業の顧客満足について学習 する
7	顧客管理	間院生フィットネスクラブを事例 都市、スポーツサービス産業の顧 客管理について学習する
8	産業組織論	産業組織の基礎を概説し、スポ ーツ組織およびスポーツ企業のマ ネジメントについて学習する
9	リスクマネジメント	市民参加型のロードレースを事例 都市、観戦型スポーツイベントの リスクマネジメントの基礎的内容 を学習する
10	スポーツボランティア	市民参加型のマラソン大会を事例 とし、スポーツにおける簿蘭亭ア 活動の活用と課題について学習す る
11	ウィンタースポーツ産 業	ウィンタースポーツ s 難行を中心 に、リゾート産業の実務的内容に ついて学習する
12	スポーツツーリズム	スポーツ・ツーリズムに打江概説 し、滞在型スポーツサービス産業 の実務的内容について学習する
13	まとめ	本講義のまとめを行う
14	授業内レポート	授業内レポート

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書を読んでいることが望ましい

## 【テキスト（教科書）】

レジュメを使用する

## 【参考書】

松田義幸「スポーツ産業論」大修館書店  
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店  
八代勉、中村平編著「体育スポーツ経営学講義」大修館書店  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

## 【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、  
期末試験 40%より評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業環境を適切に保つよう努める。

## 【その他の重要事項】

<< 受講についての注意 >>

2015 年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ産業論 I」となり  
ます。

## スポーツマーケティング論

吉岡 那於子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツのビジネス化が進むなか、わが国スポーツ界には、スポーツによるマーケティング（marketing through sports）とスポーツのマーケティング（marketing of sports）の両者がみられるようになりました。本講義は、スポーツの望ましい発展を願う立場から、スポーツの文化性や公共性に配慮したスポーツマーケティングのあり方を概括します。

スポーツマーケティング分野における主要な理論・領域を体系的に扱いながら、プロスポーツ組織やスポーツ企業における様々なマーケティングの実践例について、その基礎となる理論とともに理解を深めることを目的とします。

## 【到達目標】

本講義の到達目標は、スポーツマーケティング分野の主要な理論とその理論に関連するビジネス現場の実践についての理解を深めること、さらにスポーツマーケティングの諸課題について考察し、議論する力を身につけることです。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。講義はテキストを用い、補助的にスライドや配付資料を活用します。

毎回、授業終了時に、（１）授業の内容をどの程度理解したか、（２）授業の内容をどのように発展させたか、などについて、リアクションペーパー等によりフィードバックを求めます。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／スポーツマーケティング	シラバスの記載内容について確認する。スポーツマーケティング概念をめぐる主な議論を学ぶ。
2	スポーツの文化とスポーツのビジネス化	スポーツのビジネス化の功罪を総括し、ビジネス化がスポーツ文化に及ぼす影響を学ぶ。
3	スポーツのビジネス化とスポーツの公共性	スポーツのビジネス化の功罪を総括し、ビジネス化がスポーツの公共性に及ぼす影響を学ぶ。
4	スポーツの社会的機能	スポーツが社会や地域に与える影響について、コミュニティ形成効果やスポーツ消費者の向社会的行動を中心に検討し、スポーツの社会的機能について理解を深める。
5	マーケティング化が進むスポーツ（１）	スポーツプロダクトの構造を理解し、費用対効果の高いプロダクトの提供の仕方、さらには付加価値の高いプロダクトの提供の仕方について学ぶ。
6	マーケティング化が進むスポーツ（２）	スポーツにおける価格形成のメカニズムを理解し、プロスポーツ組織やスポーツ企業が取るべき方策について学ぶ。
7	マーケティング化が進むスポーツ（３）	スポーツ団体におけるプロモーションの原理や実際を理解し、プロスポーツ組織やスポーツ企業が取るべき方策について学ぶ。
8	マーケティング化が進むスポーツ（４）	スポーツ消費者の行動モデルを理解し、プロスポーツ組織やスポーツ企業が取るべき方策について学ぶ。
9	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者行動を理解し、スポーツ参加における心理的要因およびスポーツ参加における社会的・環境的要因を学ぶ。

10	観戦型スポーツの消費者	スポーツ観戦における心理的連続モデルおよびスポーツ観戦者の観戦動機や社会的アイデンティティを学ぶ。
11	スポーツにおける権利ビジネス	スポーツにおける権利ビジネスについて、放映権、商品化権を中心に学び、権利ビジネスとスポーツの公共性の関係について学ぶ。
12	マーケティング化が進むスポーツ（５）	スポーツにおける顧客満足、ロイヤリティ、顧客価値について理解し、プロスポーツ組織やスポーツ企業が取るべき方策について学ぶ。
13	マーケティング化が進むスポーツ（６）	クチコミなどを活用するスポーツ団体の取り組みについて理解し、プロスポーツ組織やスポーツ企業が取るべき方策について学ぶ。
14	文化の担い手としてのスポーツ消費者	共有価値の創造の概念を理解し、スポーツ消費における主体形成は「スポーツの文化の担い手」を育むことにつながることを学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従いテキストの予習をするようにして下さい。

各授業で扱った、教科書や資料の内容を復習してきてください。

予習や復習に関連する宿題については授業内で指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞/吉田政幸編著、ミネルヴァ書房、2017年

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時に取り組むリアクションペーパー等を60%程度、期末試験を40%程度に配分することを原則に、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

## スポーツ実習（バレーボール）Ⅰ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。  
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

## 【到達目標】

バレーボール選手として必要な技術、フィジカル、メンタルを身につけることを目標とする。

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。まずバレーボールを実践する上での準備段階としてのウォーミングアップや体力測定を実習し、バレーボールに必要なトレーニングに取り組んだ上で、基本的なフォーメーション等を理解していく。同時にルールや各技術の方法等の理論も学習していく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	バレーボールの技術論（攻撃・守備）①	攻撃と守備の基本技術を理解し、実践する。
第2回	バレーボールの技術論（攻撃・守備）②、6・9人制のルール①	攻撃と守備の基本技術及びルールを理解し、実践する。
第3回	6・9人制のルール②	6・9人制のルールを理解しながら、実践する。
第4回	体力測定実習①	体力測定方法を理解し、測定を行う。
第5回	体力測定実習②、救急法実習①	体力測定方法及び救急法を理解し、各実習を行う。
第6回	救急法実習②、マッサージ実習①	救急法及びマッサージ方法を理解し、各実習を行う。
第7回	マッサージ実習②	マッサージ方法を理解し、実習を行う。
第8回	ウォーミングアップとクーリングダウン実習	ウォーミングアップとクーリングダウン実習を行う。
第9回	バレーボールに必要な体力トレーニング①	体力トレーニング実習を行う。
第10回	バレーボールに必要な体力トレーニング②	体力トレーニング実習を行う。
第11回	バレーボールに必要な体力トレーニング③	体力トレーニング実習を行う。
第12回	基本のフォーメーション（6・9人制）①	基本フォーメーションを理解し、実践する。
第13回	基本のフォーメーション（6・9人制）②	基本フォーメーションを理解し、実践する。
第14回	基本のフォーメーション（6・9人制）③	基本フォーメーションを理解し、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行う上でまずは各自がコンディションを整えて臨めるようにすること。同時に指導教本に記載されているルールやフォーメーションの基本等を理解しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編『バレーボール指導教本』  
日本バレーボール協会編『ソフトバレーハンドブック』

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%  
(2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の交流を深めるために試合形式等を行う。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（バレーボール）Ⅱ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（バレーボール）Ⅱ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。  
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

## 【到達目標】

より実践的な技術を身につけることを目標とする。

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進め、主に各技術の基本を習得し、総合的なスキルアップを目指す。同時に実習を通して指導法についても理解を深めていく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本バレーボールの現状と今後のバレーボールの展開①	日本バレーボールの現状を理解する。
第2回	日本バレーボールの現状と今後のバレーボールの展開②、バレーボール及びソフトバレーの初心者導入法①	バレーボール及びソフトバレーの初心者導入法① 日本バレーボール現状を理解し、初心者導入法を実施する。
第3回	バレーボール及びソフトバレーの初心者導入法②	初心者導入法を実施する。
第4回	基本技術実習（攻撃）①	攻撃の基本技術の習得をする。
第5回	基本技術実習（攻撃）②	攻撃の基本技術の習得をする。
第6回	基本技術実習（守備）①	守備の基本技術の習得をする。
第7回	基本技術実習（守備）②	守備の基本技術の習得をする。
第8回	練習における管理及び組織化①	練習における管理を理解し、実践する。
第9回	バレーボールの歴史①	バレーボールの歴史について学ぶ。
第10回	バレーボールの歴史②	バレーボールの歴史について学ぶ。
第11回	基本技術（攻撃・守備）の指導実習①	基本技術の指導実習を行う。
第12回	基本技術（攻撃・守備）の指導実習②	基本技術の指導実習を行う。
第13回	バレーボール及びソフトバレーの初心者指導実習①	初心者指導実習を行う。
第14回	バレーボール及びソフトバレーの初心者指導実習②、指導計画の立案法①②	指導計画の立案法①②、初心者指導実習及び指導計画立案を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行う上でまずは各自がコンディションを整えて臨めるようにすること。同時に指導教本に記載されているバレーボール界の現状や基本技術の要点等を理解しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編『バレーボール指導教本』  
日本バレーボール協会編『ソフトバレーハンドブック』

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%  
(2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の交流を深めるために試合形式等を行う。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。なお、受講上「スポーツ実習（バレーボール）Ⅰ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（バレーボール）Ⅲ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講semester：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。  
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

### 【到達目標】

バレーボール選手として必要な技術、フィジカル、メンタルを身につけることを目標とする。

### 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。まずバレーボールを実践する上での準備段階としてのウォーミングアップや体力測定を実習し、バレーボールに必要なトレーニングに取り組んだ上で、基本的なフォーメーション等を理解していく。同時にルールや各技術の方法等の理論も学習していく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 バレーボールの技術論 (攻撃・守備)①	主に攻撃と守備の基本技術の習得をする。
第2回	中・上級者指導法 バレーボールの技術論 (攻撃・守備)②、6・9 人制のルール①	基本的なルールを踏まえて、攻撃と守備の技術を習得する。
第3回	中・上級者指導法 6・9人制のルール②	6・9人制のそれぞれのルールを比較しながら、理解していく。
第4回	中・上級者指導法 体力測定実習①	体力測定の実施。
第5回	中・上級者指導法 体力測定実習② 救急法実習①	体力測定と救急法の実施。
第6回	中・上級者指導法 救急法実習② マッサージ実習①	救急法とマッサージの実施。
第7回	中・上級者指導法 マッサージ実習②	マッサージの実施。
第8回	中・上級者指導法 ウォーミングアップと クーリングダウン実習	ウォーミングアップとクーリングダウンの実施。
第9回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なト レーニング①	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第10回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なト レーニング②	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第11回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なト レーニング③	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第12回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9人制)①	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。
第13回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9人制)②	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。
第14回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9人制)③	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行う上でまずは各自がコンディションを整えて臨めるようにすること。  
同時に指導教本に記載されているルールやフォーメーションの基本等を理解しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編「バレーボール指導教本」  
日本バレーボール協会編「ソフトバレーハンドブック」

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
- (2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の交流を深めるために試合形式等を行う。

### 【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（バレーボール）Ⅰ」を修得していない場合は、履修できない。また、受講上「スポーツ実習（バレーボール）Ⅳ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（バレーボール）Ⅳ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講semester：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（バレーボール）Ⅱ」を修得していなければ、履修できない。なお、受講上「スポーツ実習（バレーボール）Ⅲ」から履修することが望ましい。

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。  
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

### 【到達目標】

より実践的な技術を身につけることを目標とする。

### 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進め、主に各技術の基本を習得し、総合的なスキルアップを目指す。

同時に実習を通して指導法についても理解を深めていく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 日本バレーボールの現状 と今後のバレーボールの 展開①	日本のバレーボールの現状を理解する。
第2回	中・上級者指導法 日本バレーボールの現状 と今後のバレーボールの 展開②、バレーボール及 びソフトバレーの初心者 導入法①	日本のバレーボールの現状を理解することと初心者導入法を実施する。
第3回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者導入法②	初心者導入法を実施する。
第4回	中・上級者指導法 基本技術実習（攻撃）①	攻撃の基本技術を習得する。
第5回	中・上級者指導法 基本技術実習（攻撃）②	攻撃の基本技術を習得する。
第6回	中・上級者指導法 基本技術実習（守備）①	守備の基本技術を習得する。
第7回	中・上級者指導法 基本技術実習（守備）②	守備の基本技術を習得する。
第8回	中・上級者指導法 練習における管理及び組 織化①	練習における管理及び組織化を理解する。
第9回	中・上級者指導法 練習における管理及び組 織化②、ボールコント ロール及び指導法①	練習における管理及び組織化を理解し、ボールコントロール及びその指導法を実施する。
第10回	中・上級者指導法 ボールコントロール及び指導法 ②	ボールコントロール及びその指導法を実施する。
第11回	中・上級者指導法 基本技術（攻撃・守備） の指導実習①	攻撃と守備の基本技術の指導法を実施する。
第12回	中・上級者指導法 基本技術（攻撃・守備） の指導実習②	攻撃と守備の基本技術の指導法を実施する。
第13回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者指導実習 ①	初心者指導を実習する。
第14回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者指導実習 ②、指導計画の立案法① ②	初心者指導を実習し、指導計画の立案を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行う上でまずは各自がコンディションを整えて臨めるようにすること。  
同時に指導教本に記載されているバレーボール界の現状や基本技術の要点等を理解しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編「バレーボール指導教本」  
日本バレーボール協会編「ソフトバレーハンドブック」

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
- (2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の交流を深めるために試合形式等を行う。

## スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅰ

友岡 和彦

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な機能解剖学、運動生理学、またアメリカンフットボールの特殊性を理解し、アメリカンフットボールのフィジカル強化のための戦略的アプローチを立案、実践できることを目指す。

## 【到達目標】

アメリカンフットボールに必要なフィジカル要素を理解し、指導者として、正しいトレーニング方法をアメリカンフットボールの練習に導入して、各年代、各時期で適切なトレーニング方法を提供することができる。

## 【授業の進め方と方法】

トレーニングを指導するうえでの原理原則を理解し、安全、かつ効果、効率的なトレーニング指導ができるように、様々な観点からトレーニングをとらえ多角的な知識を身に付けるようにする。そのため、講義では様々な映像を用い、また実技では、動作確認の手段として、ビデオカメラ撮影を行う。また、必要に応じて、ゲストスピーカーを招いて様々な角度から各テーマを取り上げる。

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：アメリカンフットボールにおけるフィジカルトレーニングの重要性	講義：米国におけるアメリカンフットボールのためのトレーニングの現状を学ぶ
第2回	米国のアメリカンフットボールチームのサポート体制	講義：米国におけるチーム編成の紹介と日本との違いについて学ぶ
第3回	運動生理学基礎①	講義：アメリカンフットボールのトレーニングにおいて、知っておくべき生理学についての説明。筋の収縮形態について学ぶ
第4回	運動生理学基礎②	講義：アメリカンフットボールのトレーニングにおいて、知っておくべき生理学について学ぶ
第5回	機能解剖学①	講義：トレーニングを行う前に知っておくべき筋活動の特色を学ぶ
第6回	機能解剖学②	講義、実技：動作の効率性について学ぶ
第7回	アメリカンフットボールの競技特性①	講義、実技：スキルポジションの競技特性について学ぶ
第8回	アメリカンフットボールの競技特性②	講義、実技：QB、キッカーの競技特性について学ぶ
第9回	アメリカンフットボールの競技特性③	講義、実技：ラインの競技特性について学ぶ
第10回	アメリカンフットボール選手のための身体評価方法・理論	講義：障害予防のための身体評価方法について学ぶ
第11回	アメリカンフットボール選手のための身体評価方法・実技	講義：障害予防のための身体評価方法の実践を行う。
第12回	安全管理①	講義、実技：正しい防具の選び方について学ぶ
第13回	安全管理②	講義、実技：施設管理についてについて学ぶ
第14回	ケーススタディ①	トレーニング、安全管理に対するグループ発表を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカンフットボールは、準備のスポーツといわれるくらい多くの準備により多くの向上が考えられます。指導者としても受講者としても、一般教養はもとより常に、知識、技術の習得に意欲を持ち、次の指導に役立つ準備をする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

## 【参考書】

ハイパフォーマンスの科学— トップアスリートをめざすトレーニングガイド—、ナッパ 発行、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身のトレーニングにも役立つような内容も盛り込んでいきたいと思えます。

## 【その他の重要事項】

本科目は、アメリカンフットボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅱ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅱ

友岡 和彦

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な機能解剖学、運動生理学、またアメリカンフットボールの特殊性を理解し、アメリカンフットボールのフィジカル強化のための戦略的アプローチを立案、実践できることを目指す。

## 【到達目標】

アメリカンフットボールに必要なフィジカル要素を理解し、指導者として、正しいトレーニング方法をアメリカンフットボールの練習に導入して、各年代、各時期で適切なトレーニング方法を提供することができる。

## 【授業の進め方と方法】

トレーニングを指導するうえでの原理原則を理解し、安全、かつ効果、効率的なトレーニング指導ができるように、様々な観点からトレーニングをとらえ多角的な知識を身に付けるようにする。そのため、講義では様々な映像を用い、また実技では、動作確認の手段として、ビデオカメラ撮影を行う。また、必要に応じて、ゲストスピーカーを招いて様々な角度から各テーマを取り上げる

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ストレングストレーニングの変遷	講義：世界におけるフィジカルトレーニングの歴史を学ぶ。
第2回	競技力向上のためのストレングストレーニング①	実技：競技特性（ライン）に基づいたトレーニング方法を学ぶ。
第3回	競技力向上のためのストレングストレーニング②	実技：競技特性（スキルポジション）に基づいたトレーニング方法を学ぶ。
第4回	競技力向上のためのストレングストレーニング③	実技：競技特性（QB、キッカー）に基づいたトレーニング方法を学ぶ。
第5回	オリムピックリフティング基礎	実技：クリーン、スナッチを実践する。
第6回	競技力向上のためのパワートレーニング	実技：競技特性に基づいた様々なパワートレーニングを実践する。
第7回	脳震盪	講義：アメリカンフットボールにおける脳震盪のメカニズムとその予防について学ぶ。
第8回	障害予防概論・実技：上肢	実技：上肢の障害予防ドリルについて学ぶ。
第9回	障害予防概論・実技：体幹部	実技：体幹部の障害予防ドリルについて学ぶ。
第10回	障害予防概論・実技：下肢	実技：下肢の障害予防ドリルの紹介
第11回	リカバリー①	講義：疲労とその原因について学ぶ。
第12回	リカバリー②	講義：疲労軽減に関して学ぶ。
第13回	栄養	講義：各時期に必要な栄養摂取とサプリメント補給について学ぶ。
第14回	ケーススタディ	課題に対するグループ発表を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカンフットボールは、準備のスポーツといわれる位多くの準備により多くの向上が考えられます。指導者としても受講者としても、一般教養はもとより常に、知識、技術の取得に意欲を持ち、次の指導に役立つ準備をする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

## 【参考書】

ハイパフォーマンスの科学— トップアスリートをめざすトレーニングガイド—、ナッパ 発行、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身のトレーニングにも役立つような内容も盛り込んでいきたいと思えます。

## 【その他の重要事項】

本科目は、アメリカンフットボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。なお、受講上「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅰ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅲ

友岡 和彦

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な機能解剖学、運動生理学、またアメリカンフットボールの特殊性を理解し、アメリカンフットボールのフィジカル強化のための戦略的アプローチを立案、実践できることを目指す。

## 【到達目標】

アメリカンフットボールに必要なフィジカル要素を理解し、指導者として、正しいトレーニング方法をアメリカンフットボールの練習に導入して、各年代、各時期で適切なトレーニング方法を提供できる。

## 【授業の進め方と方法】

トレーニングを指導するうえでの原理原則を理解し、安全、かつ効果、効率的なトレーニング指導ができるように、様々な観点からトレーニングをとらえ多角的な知識を身に付けるようにする。そのため、講義では様々な映像を用い、また実技では、動作確認の手段として、ビデオカメラ撮影を行う。また、必要に応じて、ゲストスピーカーを招いて様々な角度から各テーマを取り上げる。

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	アメリカンフットボールのフィジカル向上のための多角的な戦略	講義：アマチュアからプロレベルで行われているフィジカル強化のための体系的なトレーニングを多角的に学ぶ。
第2回	アメリカンフットボールのフィールドテスト①	実技：NFLで実施されているフィールドテストについて学ぶ。
第3回	アメリカンフットボールのフィールドテスト②	実技：フィールドテストの結果に基づいた、改善のためのトレーニング立案し、実践する。
第4回	体系的なウォームアップの構築①	実技：スタティックストレッチについて学ぶ。
第5回	体系的なウォームアップの構築②	実技：ダイナミックストレッチについて学ぶ。
第6回	直線方向のスピードトレーニング①	実技：鉛直方向への地面反力を理解し、実践する。
第7回	直線方向のスピードトレーニング②	実技：水方向への地面反力の利用と推進力を理解し、実践する。
第8回	競技特性に基づいたアジリティトレーニング①	実技：ステップ動作のバリエーションについて学ぶ。
第9回	競技特性に基づいたアジリティトレーニング②	実技：減速、切り返し動作について学ぶ。
第10回	スピード・アジリティ向上のためのストレングストレーニング①	実技：直線スピード向上のためのウェイトトレーニングについて学ぶ。
第11回	スピード・アジリティ向上のためのストレングストレーニング②	実技：減速、方向転換能力向上のためのウェイトトレーニング 実技：直線スピード向上のためのウェイトトレーニングjを実践する。
第12回	プライオメトリックトレーニング①	講義：プライオメトリックトレーニングの原理、原則について学ぶ。
第13回	プライオメトリックトレーニング②	実技：プライオメトリックドリルについて理解し、実践する。
第14回	スピード・アジリティ向上のための統合的トレーニングプラン①	実技：スピードアジリティトレーニングのプログレッションについて理解し、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカンフットボールは、準備のスポーツといわれる位多くの準備により多くの向上が考えられます。指導者としても受講者としても、一般教養はもとより常に、知識、技術の取得に意欲を持ち、次の指導に役立つ準備をする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

## 【参考書】

ハイパフォーマンスの科学- トップアスリートをめざすトレーニングガイド-、ナッブ 発行、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身のトレーニングにも役立つ内容を盛り込んでいきます。

## 【その他の重要事項】

本科目は、アメリカンフットボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅰ」を修得していなければ、履修できません。また、受講上「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅳ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅳ

友岡 和彦

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な機能解剖学、運動生理学、またアメリカンフットボールの特殊性を理解し、アメリカンフットボールのフィジカル強化のための戦略的アプローチを立案、実践できることを目指す。

## 【到達目標】

アメリカンフットボールに必要なフィジカル要素を理解し、指導者として、正しいトレーニング方法をアメリカンフットボールの練習に導入して、各年代、各時期で適切なトレーニング方法を提供できる。

## 【授業の進め方と方法】

トレーニングを指導するうえでの原理原則を理解し、安全、かつ効果、効率的なトレーニング指導ができるように、様々な観点からトレーニングをとらえ多角的な知識を身に付けるようにする。そのため、講義では様々な映像を用い、また実技では、動作確認の手段として、ビデオカメラ撮影を行う。また、必要に応じて、ゲストスピーカーを招いて様々な角度から各テーマを取り上げる。

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	効果的なコーチングのための運動学習理論①	講義：エクスターナルキューとインターナルキューについて学ぶ。
第2回	効果的なコーチングのための運動学習理論②	講義、内在的フィードバックについて学ぶ。
第3回	アメリカンフットボール競技向上に繋げるための様々なパワートレーニング①	実技：ケトルベルトレーニングの基礎エクササイズを実践する。
第4回	アメリカンフットボール競技向上に繋げるための様々なパワートレーニング②	実技：ケトルベルトレーニングの応用エクササイズを実践する。
第5回	アメリカンフットボールにおけるコンディショニングトレーニング①	講義：エネルギー代謝経路の基礎を学ぶ。
第6回	アメリカンフットボールにおけるコンディショニングトレーニング②	実技、講義：エネルギー代謝経路に基づいたコンディショニングプログラムの作成し、実践する。
第7回	アスリートの長期育成システム①	講義：育成年代のトレーニングについて学ぶ。
第8回	アスリートの長期育成システム②	講義：各年代でアプローチすべき身体の力要素について学ぶ。
第9回	ピリオダイゼーション理論	講義：一定期間での段階的なトレーニングのプラン作成について学ぶ。
第10回	アメリカンフットボールのためのピリオダイゼーション①	講義：アメリカンフットボールのシーズンに基づいた効果的なトレーニングプランの作成方法について学ぶ。
第11回	アメリカンフットボールのためのピリオダイゼーション②	講義：年間トレーニングプランの作成方法について学ぶ。
第12回	コーチングの実践①	実技：パワートレーニングのコーチングについて理解し、実践する。
第13回	コーチングの実践②	実技：ストレングストレーニングのコーチングについて理解し、実践する。
第14回	ケーススタディ①	実技：ダイナミックウォームアップを作成し、コーチングの実践をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカンフットボールは、準備のスポーツといわれる位多くの準備により多くの向上が考えられます。指導者としても受講者としても、一般教養はもとより常に、知識、技術の取得に意欲を持ち、次の指導に役立つ準備をする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

## 【参考書】

ハイパフォーマンスの科学- トップアスリートをめざすトレーニングガイド-、ナッブ 発行、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身のトレーニングにも役立つ内容を盛り込んでいきます。

## 【その他の重要事項】

本科目は、アメリカンフットボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅱ」を修得していなければ、履修できません。なお、受講上「スポーツ実習（アメリカンフットボール）Ⅲ」から受講することが望ましい。

HSS218LB

## アスリートキャリア論

笠井 淳

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

### 【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

### 【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
- ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
- ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか
- ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
- ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第2回～14回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了承下さい。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する。
第2回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か。経験の中から得られた教訓等について講義
第3回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第4回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第5回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第6回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第7回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第8回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第9回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第10回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第11回	特別講師/トレーナーとは①	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第12回	特別講師/世界を目指す指導者	トップチームの世界への挑戦。選手育成と指導の厳しさについて
第13回	学生の考え（ディスカッション）	自分のキャリア形成についてディスカッションする
第14回	授業のまとめ	レポート課題 授業の総括。レポート提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

### 【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 60%
- 2) 各回のレポート 30%
- 3) 課題レポート 10%

この配分とし、総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義における話のスピードが速過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

### 【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

鈴木 裕輔

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

開講セメスター: 秋学期 | キャンパス: 市ヶ谷

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、スポーツを人間の日々の生活に関わるあらゆる事象としての文化の一つの形態として捉え、現在の日本及び諸外国のスポーツについての話題を検討することで、学生がスポーツに関する諸問題とスポーツの振興のあり方を適切に理解することを目的とします。

## 【到達目標】

本講義では、毎回、スポーツに関する国内外の社会的、政治的、経済的、歴史的、文化的な話題を取り上げ、問題の概要や特徴を確認するとともに、話題の背景や構造を分析します。さらに、適宜、受講生間の意見の交換や討議も行います。なお、受講生にはスポーツに関する諸問題への知識の有無は問わず、講義中の質問や議論など、受講生が積極的に講義に参画することが期待されます。

## 【授業の進め方と方法】

本講義では毎回スポーツに国内外の社会的、政治的、経済的、歴史的、文化的な話題を取り上げ、検討します。

また、毎回受講生にはリアクションペーパーの提出が求められます。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義の説明と基礎的な概念の解説
2	スポーツと社会 (1)	スポーツと社会の関係の検討
3	スポーツと社会 (2)	スポーツと社会の関係の検討
4	スポーツと社会 (3)	スポーツと社会の関係の検討
5	スポーツと政治 (1)	スポーツと政治の関係の検討
6	スポーツと政治 (2)	スポーツと政治の関係の検討
7	スポーツと政治 (3)	スポーツと政治の関係の検討
8	スポーツと文化 (1)	スポーツと文化の関係の検討
9	スポーツと文化 (2)	スポーツと文化の関係の検討
10	スポーツと文化 (3)	スポーツと文化の関係の検討
11	スポーツと歴史 (1)	スポーツと歴史の関係の検討
12	スポーツと歴史 (2)	スポーツと歴史の関係の検討
13	スポーツと歴史 (3)	スポーツと歴史の関係の検討
14	まとめ	講義の総括と期末試験のための準備

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義を受講する際、新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツに関するニュースに接することが推奨されます。

また、本講義では講義の前日までに配布資料を授業支援システム上で公開しますので、内容を事前に確認するとより円滑に受講することができます。

## 【テキスト (教科書)】

本講義ではテキストの代わりに担当講師が作成した資料が配布されます。

## 【参考書】

参考書については講義中に適宜紹介します。

なお、必要に応じ、担当講師が『体育科教育』(大修館書店)で連載している評論「スポーツの今を知るために」の講義が推奨されます。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点: 40%

課題の提出: 30%

最終試験: 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により学生の意見などからの気づきはありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

本講義では講義の前日までに配布資料を授業支援システム上で公開しますので、内容を事前に確認するとより円滑に受講することができます。

## 【その他の重要事項】

毎回の講義の内容については講義中に適宜質問をすることが望まれるとともに、リアクションペーパーへの記載も推奨されます。

≪ 受講についての注意 ≫

2014 年以前入学者が履修する場合、「スポーツ振興論 I」となります。

永尾 雄一

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

開講セメスター: 春学期 | キャンパス: 市ヶ谷

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ競技現場において、選手・指導者双方にとって競技力向上への取り組みに資する様々な情報を戦略的に活用する知識・技術を学ぶ。

## 【到達目標】

1. アスリートとして自身の競技生活に活かせる戦略的情報活用技術を習得する。
2. 指導者として選手への指導の際に活かせる戦略的情報活用技術を習得する。
3. 競技力向上に資する情報の収集方法について基礎から応用まで幅広いレベルを習得する。
4. 収集・分析した情報を競技力向上に活かすためにフィードバックする知識・技術を習得し、実際の競技場面で実践できる能力を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

近年のスポーツ競技場面においては、多種多様なデータを収集・分析・活用し競技力向上への取り組みに役立てられており、国際的なスポーツ競技場面においてもスタンダードな取り組みへと発展している。あわせて、本授業の受講生は SSI コースの学生であり、将来はアスリートや指導者としてスポーツの世界で活躍する人材も多いと考えられる。そこで本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	映像技術①	競技場を撮影する際の基本知識・技術
3	映像技術②	映像撮影に必要とされる機器について
4	映像技術③	アプリ・タブレット端末等を用いた撮影技術
5	情報技術①	データアーカイブ
6	情報技術②	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術③	特殊環境でのネットワーク活用
8	ゲーム分析①	ゲーム分析のねらいと方法
9	ゲーム分析②	ゲーム分析の準備と実践
10	ゲーム分析③	ゲーム分析の実践およびプレゼンテーション
11	モチベーションビデオ	収集映像を活用したモチベーションビデオの作成技術
12	情報戦略①	国際競技力の情報の収集と分析
13	情報戦略②	選手発掘のための情報の収集と分析
14	総括	授業のまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ技術等を自身の競技活動において実践し、課題などへ対応すること。また、各種メディアや書籍等で紹介されているスポーツにおける情報戦略への取り組みについて関心を持つこと。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定はしない。必要に応じて PowerPoint、関連資料、映像等を使用する。

### 【参考書】

特に指定はしない。必要に応じて PowerPoint、関連資料、映像等を使用する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点および講義レポート課題（60％）、最終レポート課題（30％）、学習態度（10％）により総合的に評価する。出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合にはE評価となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践想定型実技やグループワークを引き続き多く取り入れます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に指定はしないが、必要に応じて学生個人所有のノートパソコンやタブレット端末、ビデオカメラ等の利用を求める場合があるため、可能な範囲で対応すること。（但し、授業のために新規に購入する必要はない）

### 【その他の重要事項】

1. 出席およびレポート課題へ取り組む姿勢を重視する。
2. 本授業では、グループワークやプレゼンテーション等を適宜実施する。

HSS221LB

## トレーニング理論と実践

小平 豊海

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春・秋学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィジカルトレーニングの理論と種類を理解し、実践できる力を身につける。中でもレジスタンストレーニングについて理論的背景を基に計画を立て、実践していく能力を養う。

### 【到達目標】

- ・フィジカルトレーニングの理論と種類に対する知識を身につける
- ・競技者または指導者としてレジスタンストレーニングを計画的に実践していく能力を身につける

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義と実技の形式で進めていく。講義ではフィジカルトレーニングの理論を中心に学習する。実技ではレジスタンストレーニングの方法を幅広く実施していく。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要について説明する
2.	レジスタンストレーニングの基本原則	トレーニングの原理原則について説明する
3.	レジスタンストレーニングのタイプ	筋力発揮の様式について説明する
4.	レジスタンストレーニングの生理学的適応	骨格筋に対するトレーニング効果について説明する
5.	プログラムデザイン	プログラムを組み立てる際の考慮すべき要素について説明する
6.	ピリオダイゼーション	戦略的なトレーニング計画について説明する
7.	パワートレーニング	パワートレーニングに関する科学的基礎と意義について説明する
8.	レジスタンストレーニングの実践Ⅰ	上肢のトレーニング方法を実践する
9.	レジスタンストレーニングの実践Ⅱ	下肢のトレーニング方法を実践する
10.	レジスタンストレーニングの実践Ⅲ	体幹のトレーニング方法を実践する
11.	パワートレーニングの実践	パワートレーニングの方法を実践する
12.	実技総括	レジスタンストレーニングの実践方法についての総括をする
13.	理論総括	フィジカルトレーニング理論についての総括をする
14.	試験	授業内試験を実施する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で取り上げた内容をまとめ理解しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

1. レジスタンストレーニングのプログラムデザイン ブックハウスHD
2. ストレngths&コンディショニングⅠ 理論編 大修館書店
3. トレーニング指導者テキスト理論編 大修館書店

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（60%）、授業態度（10%）、テストの結果（30%）をもとに総合的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生から上がった意見は取り入れ、できる限り学生の部活動に活用できる内容を提供する。

### 【その他の重要事項】

8～13回目の授業は実技も行うため、インシユーズと運動ウエアを持参すること。

<< 受講について >>

(1) 受講者は原則 30 名までとする。受講希望者は必ず初回の授業に参加し、担当教員からの許可を得ること。Semester制を行っている学部生も同条件とする。

(2) 履修は 4 単位 (2 回) まで可とする (但し、年間で履修できるのは 2 単位 (1 回) まで)。

HSS222LB

## スポーツ組織論/スポーツ組織論 I

日比 千里

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

開講Semester: 春学期 | キャンパス: 市ヶ谷

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

チームビルディングの手法を学び、スポーツ組織についての考察を深めることを目的とする。

### 【到達目標】

スポーツ組織についての考察を深め、そこから得た自己の学びを実際のスポーツ場面に活かすことができる。

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、チームビルディングについて学び、その手法を体験します。その場でチームごとのワークを行いますので、受け身ではなく、自ら学びを得ようとする主体的な姿勢が求められます。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・スポーツ組織の概要	授業の進め方、スポーツ組織の概要について説明する。
2	メンバーの関係づくり	チームメンバーの関係づくりについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
3	自己理解と他者理解	自己および他者への理解について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
4	コミュニケーション	チームのコミュニケーションについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
5	計画	チームの計画とその実行について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
6	情報伝達	チームの情報伝達について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
7	話し合い方	チームで行う話し合いの方法について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
8	目標設定	チームの目標設定について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
9	役割分担	チームの役割分担について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
10	リーダー	チームのリーダーについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
11	認識共有	チームでの認識共有について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
12	イノベーション	チームのイノベーションについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
13	他チームとの関係性	自チーム、他チームの関係性について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
14	まとめ	授業のまとめとレポート課題を実施する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容を自身の所属組織で実践・活用できるようになることを目指して、講義で得た学びを毎回復習してください。

### 【テキスト (教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中のチームでのワークに対する参加状況・取り組みが 60 %、レポートが 40 %です。

出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価になります。また、授業の進行上、遅刻はできませんので注意してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

「チームスポーツにおいて大切なことや、チームビルディングについて学ぶことができたのでとても良かった。また、他の部活との交流はいい刺激になった」という意見がありましたので、今年度もチームごとのワークを取り入れ、学生間の交流もできる授業を行います。

## 【その他の重要事項】

初回の授業には、必ず出席してください。

チームでのワークが多いため、協力的、主体的な姿勢で授業に参加してください。

また、使用する教場の関係から、受講人数は原則 20 名を上限とします。

≪ 受講についての注意 ≫

2014 年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ組織論 I」となります。

HSS145LB

## オリンピック・パラリンピックを考える

荒井 弘和、吉田 康伸

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：市ヶ谷

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際オリンピック委員会はオリンピック競技大会を開催し、国際パラリンピック委員会はパラリンピック競技大会を開催しています。2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日、東京で第 32 回オリンピック競技大会が開催されます。つづいて、2020 年 8 月 25 日～9 月 6 日に東京 2020 パラリンピック競技大会も開催されます。以下、2 つの大会をまとめて「東京 2020 大会」と呼びます。

本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携してゆく方針を定めています。そこで、科学と文化としてのスポーツの理解を目指す SSI では、本科目を開講し、東京 2020 大会のビジョンと概要を学びます。そして、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけにしたアクションの成果をどうやって未来に継承するか（レガシー）について考えます。

アクション&レガシーの 5 本の柱とは、「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」です。

なお本科目は、公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）にもなっています。そして、本学の 3 つの付属高生の聴講も認めています。

### 【到達目標】

1. 東京 2020 大会のビジョンを説明することができる。
2. 東京 2020 大会のアクション&レガシーについて理解し、説明することができる。
3. 東京 2020 大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる。

### 【授業の進め方と方法】

本学教員をはじめとして、各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京 2020 大会と関連させながら講義を行います。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	東京 2020 大会の概要	東京 2020 大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第 3 回	「スポーツ・健康」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 4 回	「文化・教育」(1)：オリンピックの平和運動	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 5 回	「文化・教育」(2)：オリンピックの文化プログラム	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 6 回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第 7 回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 8 回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 9 回	「スポーツ・健康」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 10 回	「経済・テクノロジー」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 11 回	「経済・テクノロジー」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 12 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 13 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 14 回	まとめ	到達目標に到達したことを認識することができる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマについて事前に調べて、論点を考えた上で出席してください。各回の授業で学んだことについて、自分で調べることで、学びを深めてください。

東京 2020 大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加してください。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

**【参考書】**

授業時間内に、各回の講師から紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

2/3 の出席を成績評価の条件とした上で、「毎回の授業レポート 50%」「期末レポート 50%」で評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度のため、ありません。

**【学生が準備すべき機器他】**

ありません。

**【その他の重要事項】**

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。教室の収容人数の関係で、SSI 生以外の学生の履修は制限される場合があります。受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。

この授業で学んだことと、学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京 2020 大会への関わり方を探して欲しいと思います。そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」という SSI のポリシーを体現することになると考えています。

HSS226LB

**スポーツ実習 I**

吉田 康伸

配当年次／単位：2～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この科目は、自らが所属する体育会各部でのスポーツ活動において、セルフコーチングを行うことを目的とする。SSI のカリキュラムポリシーの中心である「コーチング」の能力を養うことを目指して、セルフコーチングを行う。

**【到達目標】**

学期開始時、「単位認定に関する申請書」における「スポーツ活動での目標」①～③と「目標を達成するために行うこと」①～④の各項目を自ら設定する。その後、スポーツ活動においてセルフコーチングを実践する。

学期終了時、「単位認定に関する報告書」における「自身が設定した目標で達成できたこと、できなかったこと及びその理由等」と「今後自身が行うべき新たな課題及び取り組み」を自ら記述する。

以上の取り組みを通して、セルフコーチングの能力を身につける。

**【授業の進め方と方法】**

履修者は、自らが所属する体育会各部の活動計画に沿って、活動を行う。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回～	スポーツ活動におけるセ	所属する体育会各部の活動計画に沿っ
第 14 回	ルフコーチングの実習	て、活動を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

所属する体育会各部の部長・監督から提示される課題に取り組めるよう、情報を収集して実習に臨むこと。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

必要に応じて、各部の部長・監督から提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

まず、単位認定に関する申請書および報告書が期日内に提出されること。そして、申請書、報告書によるセルフコーチングの内容につき、一定の基準を満たしたと判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定される。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されない。

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度のため、なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし。

**【その他の重要事項】**

この科目は、SSI コースの学生だけが履修できる。この科目の成績評価は、「A+～E」ではなく「P / F」となる。単位認定（P / F）を受けるためには、以下の条件を全てを満たす必要がある。①スポーツ活動への参加、②「スポーツ実習 I・II」の履修登録申請、③申請書の提出、④報告書の提出、⑤体育会に継続して所属していること。申請書・報告書の作成方法や、提出期日・提出場所等については、体育会各部の部長・監督から指示を受けること。

## スポーツ実習Ⅱ

吉田 康伸

配当年次／単位：2～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、自らが所属する体育会各部でのスポーツ活動において、セルフコーチングを行うことを目的とする。SSIのカリキュラムポリシーの中心である「コーチング」の能力を養うことを目指して、セルフコーチングを行う。

## 【到達目標】

学期開始時、「単位認定に関する申請書」における「スポーツ活動での目標」①～③と「目標を達成するために行うこと」①～④の各項目を自ら設定する。その後、スポーツ活動においてセルフコーチングを実践する。

学期終了時、「単位認定に関する報告書」における「自身が設定した目標で達成できたこと、できなかったこと及びその理由等」と「今後自身が行うべき新たな課題及び取り組み」を自ら記述する。

以上の取り組みを通して、セルフコーチングの能力を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

履修者は、自らが所属する体育会各部の活動計画に沿って、活動を行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回～	スポーツ活動におけるセ	所属する体育会各部の活動計画に沿っ
第14回	ルフコーチングの実習	て、活動を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

所属する体育会各部の部長・監督から提示される課題に取り組めるよう、情報を収集して実習に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

必要に応じて、各部の部長・監督から提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

まず、単位認定に関する申請書および報告書が期限内に提出されること。そして、申請書、報告書によるセルフコーチングの内容につき、一定の基準を満たしたと判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定される。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されない。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【その他の重要事項】

この科目は、SSIコースの学生だけが履修できる。この科目の成績評価は、「A+～E」ではなく「P／F」となる。単位認定（P／F）を受けるためには、以下の条件を全てを満たすことが必要である。①スポーツ活動への参加、②「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の履修登録申請、③申請書の提出、④報告書の提出、⑤体育会に継続して所属していること。申請書・報告書の作成方法や、提出期日・提出場所等については、体育会各部の部長・監督から指示を受けること。

## スポーツ指導論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導に関わる知識や考察を深め、自分自身の「理想の指導者像」の獲得を目指す。

「どのような指導者が求められているのか」「どのような指導者でありたいか」について共に学び、考える中で自分なりの指導者像を描くための礎となることが本講義のテーマである。

## 【到達目標】

- ・スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける
- ・多様なニーズに対応するスポーツ指導や育成についての知識を身につける
- ・指導者という視点を通して選手としての自己理解を深め、自分自身の指導スタイルについての考察を深める
- ・理想の指導者像の獲得への足場をつくる

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ指導者に関する知識やコーチングに興味ある学生や、体育教員・日本体育協会公認スポーツ指導者「指導員」等の取得を希望する者を対象とし、「生涯スポーツ社会」を担う体育指導者の為の授業内容とします。

日本体育協会「公認スポーツ指導者養成テキスト」共通科目Ⅰ～Ⅲのテキストをベースに、パワーポイントや配布資料を使用して授業を進行します。毎授業内で、テーマに沿った課題を設定し、リアクションペーパーの提出を求めます。

授業内容によってグループによる話し合いや課題解決などが行われることがあります。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 1. スポーツ指導者とは	①スポーツの意義と価値②公認スポーツ指導者とは③望ましい公認スポーツ指導者とは④安全で、正しく、楽しいスポーツの場を確保するに⑤あなたが理想とするスポーツ指導者とは？⑥スポーツの価値を伝える指導者⑦スポーツライフの構築とスポーツ指導者⑧スポーツ指導者として求められる心構え⑨ジュニア対象指導者の重要性
第2回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 2. スポーツ指導者の倫理	①倫理的問題が生じやすい構造的要因②表面化しにくい倫理的問題への対応③倫理に反する行為や言動④倫理に反する行為がもたらす影響
第3回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ】 3. 指導者の心構え・視点	①主体はプレイヤーである②スポーツの面白みとは③コミュニケーションの基本は個性と自主性の尊重④コミュニケーションスキルとしての「コーチング」⑤コーチングの基本的な理論⑥スポーツ指導者のコミュニケーションスキル⑦上手なアドバイスの仕方、誉め方しかり方⑧指導者の役割は「環境」を作ること
第4回	【スポーツ指導者の役割Ⅰ・特別講演】 4. 世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割	外部講師を招聘し（予定）、指導現場の実際の体験を踏まえて「世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割」について考察する
第5回	【指導計画と安全管理】 1. 指導計画の立て方	①スポーツ指導計画の重要性②スポーツ指導計画立案の原則③指導計画立案の準備④指導計画の種類⑤指導計画の実施、変更、検証
第6回	【指導計画と安全管理】 対象者に応じた指導	性差・発達段階に応じた指導
第7回	【指導計画と安全管理】 2. スポーツ計画と安全管理	①スポーツにおける安全確保の知識②施設・用具の点検③スポーツ活動における安全確保のための具体的行動④スポーツにおける保険制度
第8回	【スポーツと法】 1. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任	①危機管理体制の整備（リスクマネジメント）②スポーツに事故における法的責任③スポーツ事故判例
第9回	【スポーツと法】 2. スポーツと人権	①スポーツ倫理と基本的人権
第10回	【指導者の役割Ⅱ】 プレイヤーと指導者の望ましい関係	①望ましいプレイヤー像とは②自ら考え工夫する環境とは
第11回	【指導者の役割Ⅱ】 プレイヤーと指導者の望ましい関係	③コーチングスキル「観察」＆「承認」プレイヤーと指導者の望ましい関係④その他のコーチングスキル

第12回	【指導者の役割Ⅱ】 ミーティングの方法	①ミーティングとは②なぜミーティングをするのか③ミーティング実施のポイント④指導者としてのモラル
第13回	【指導者の役割Ⅱ】 世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割	①世界における競技スポーツの競争環境②世界の舞台を目指すパスウェイ③世界を目指した育成における指導者の役割
第14回	授業内試験	習熟度確認のための試験を実施

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で配布される資料は次回授業や試験時に使用する可能性があるため、出席できなかった際にも授業内容を確認し、課題については各自取り組むこと。授業内で扱った内容について、自身の活動に持ち帰り考察を深め授業に臨むこと。

授業内容に関連するスポーツ指導に関する時事事象について、情報収集を行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

『公認スポーツ指導者養成テキスト』共通科目Ⅰ～Ⅲ 編集発行 公益財団法人 日本体育協会

**【参考書】**

随時必要に応じて紹介します

**【成績評価の方法と基準】**

- ① 配分
  - i 授業内評価 50点
  - ii 試験 50点
- ② 評価基準

i 授業内評価 授業内での取り組みについても評価対象とします。各回授業のテーマにしたがって提出するリアクションペーパーの内容や、グループワークへの参加姿勢などをもとに評価を行います。

ii 試験 授業内容の習熟度、理解度を知るための試験を実施します。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料やまとめの授業があったことが学習の助けになったという意見を受けて、本年度も適宜まとめやふり返りをしながら進行する予定であります。また、授業内でのグループワークや課題解決によって、各回のテーマについての考察が深まったという意見が多くあったことを参考に、本年度も授業内にこのような活動を取り入れる予定であります。

**【その他の重要事項】**

・各回の授業順序、特別講師は講師の特別の事情等により変更する場合があります。その際には事前にお知らせします。  
・忌引き、競技における試合の為の欠席等については、所定の用紙に必要事項を記入したものを担当教員に提出し指示を受けてください。

HSS102LB

**アスリート育成指導法**

山田 快

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

アスリートを指導し、育成する上で修得しておくべき基礎知識を学び、その理解を深める。

**【到達目標】**

アスリートをはじめ、スポーツに関与する（する・見る・支える・作る・調べる）多様な者を指導し、育成する上で、欠くことのできない基礎知識および実践手法について理解を深め、それらをスポーツの現場で活かせるようになる。

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、公益財団法人 日本スポーツ協会（旧日本体育協会）が公認するスポーツ指導者資格を取得する際、受講が必要となる講習・試験の免除を受けるための必須科目（授業）に位置づけられている。それに伴い、同協会が指定する「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内容に準じ、授業を進めていく。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スポーツの概念と歴史	本授業の概要を解説し、単位認定の基準や受講に当たっての心得などを伝達する。 スポーツが人間や社会にとって、どのような意味を持つのかについて学ぶ。
第2回	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツとは何かについて学ぶ。
第3回	体力とは	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第4回	トレーニングの進め方	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第5回	トレーニングの種類	トレーニングの実践に求められる基礎知識と各種トレーニングの効果について学ぶ。
第6回	社会の中のスポーツ	現代社会におけるスポーツの特徴について学ぶ。
第7回	我が国のスポーツプロモーション①	諸外国のスポーツプロモーション（スポーツの普及・促進や発展）について学ぶ。
第8回	我が国のスポーツプロモーション②	我が国のスポーツプロモーション（スポーツの普及・促進や発展）について学ぶ。
第9回	トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～	トップアスリートの育成に関わり、コーチが求められる役割や持つべき視点について学ぶ。
第10回	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価	トップアスリートの育成・強化に求められる取り組みとその評価方法について学ぶ。
第11回	競技力向上のためのチームマネジメント①	チームマネジメントとは何かについて学ぶ。
第12回	競技力向上のためのチームマネジメント②	アスリート個人やチームの競技力向上に当たり、チームがどうあるべきなのかについて学ぶ。
第13回	競技力向上のための情報とその活用	アスリートの競技力向上に当たり、活用すべき情報と持つべきグローバルな視点について学ぶ。
第14回	総括	本授業で学習した内容を総括し、課題レポートを作成する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テレビや雑誌、インターネットなど、多様な情報媒体から得られるスポーツの動向に鋭敏になり、積極的に目を向けるよう心がけること。また、各回の授業で学習した内容を復習するとともに、次回の受講に向け、心身の状態を十分に整え、毎回の授業に臨むこと。

**【テキスト（教科書）】**

『公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』、公益財団法人 日本体育協会編

**【参考書】**

必要に応じ、適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（70%）を要目として、そこに学期末のレポート課題（30%）を加味し、総合的に評価する。なお、欠席および遅刻は厳重に取り扱うため、心して受講すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

各自が専門とする競技の実践場面や将来指導者を目指す者に、できる限り有益な知識や情報を提供できるよう努める。

## スポーツ医学 I

瀬戸 宏明

配当年次/単位: 1~4年 / 2単位

開講セメスター: 春学期 | キャンパス: 多摩

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防や治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

スポーツ医学 I では、スポーツ医学を学ぶために必要な基礎的知識を身につけた上で、スポーツ医学の意義、ならびにスポーツ競技の現場でみられる疾患や怪我の処置などについて学習する。

## 【到達目標】

1. 基本的な解剖学用語を使用することができる。
2. 骨、骨格筋、神経の代表的な名称を述べることができる。
3. 内臓や血管などの代表的な名称を述べるができる。
4. 健康づくりにおけるスポーツの効果を列挙できる。
5. アスリートの健康管理の重要性を説明できる。
6. スポーツ中に多い内科的疾患 (特に突然死と熱中症) の原因と対処法を説明できる。
7. スポーツ中に多い代表的な内科的障害の原因と対処法を説明できる。
8. スポーツ活動中に多い整形外科的傷害の原因と対処法を説明できる。
9. 心理的ストレスの対処法について述べるができる。
10. 心肺蘇生法の重要性を解説できる。
11. 心肺蘇生法の適切な手順を述べるができる。
12. 止血の適切な手順を述べるができる。
13. RICE 処置の意義を説明できる。
14. RICE 処置の適切な手順を述べるができる。
15. テーピングの目的を述べるができる。

## 【授業の進め方と方法】

講義は多くの競技に共通した内容で行う。毎回のテーマは実際に行われている競技現場を意識しながら授業を展開し、到達目標の達成を目指す。授業は講義形式が中心となる。講義ではスライド、DVD などを用いて効率よい知識の伝達を行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
2	健康づくりとスポーツ医学的健康管理	加齢、健康の定義、生活習慣病などについて解説する。
3	アスリートの食生活と栄養摂取①	トップアスリートが実際行っている食事の内容を解説する。
4	アスリートの食生活と栄養摂取②	サプリメントの効果、効能および食品添加物が身体に及ぼす影響について説明する。
5	アスリートの食生活と栄養摂取③	アスリートに多くみられる栄養障害とその対処法について解説する。
6	スポーツ活動中に多いケガや病気①	スポーツ外傷の概要およびその予防について説明する
6	スポーツ活動中に多いケガや病気②	スポーツ障害の概要およびその予防について説明する
7	アスリートにみられる内科的な急性障害	突然死やアナフィラキシーショックなど内科的急性障害とその対処法について解説する。
8	アスリートにみられる内科的な慢性障害	貧血やオーバートレーニングなど内科的慢性障害とその対策や対処法について解説する。
9	アスリートにみられる怪我や痛み (スポーツ外傷)	頭頸部、上肢、体幹、下肢の外傷について解説して、その対処方法についても説明する。
10	アスリートにみられる怪我や痛み (スポーツ障害)	頭頸部、上肢、体幹、下肢の障害について解説して、その予防方法についても説明する。
11	スポーツによる精神障害と対策	スポーツとより密接に関連のある精神的障害のうち頻度の高いものについて解説する。
12	救急処置と怪我や痛みの予防	止血法や RICE 処置などについて説明する。
13	炎症・治癒過程について	スポーツ活動中に起こる炎症-治癒過程について解説する
14	単位認定試験と解説	授業内において単位認定試験とその解説をおこなう。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料のダウンロードを行い、指定参考書を用いて事前学習を行う。

## 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。毎回、配布資料に沿って進める。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル (監修) 『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』第2版、日本文芸社
2. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 II
4. 小島康昭、他 (著) 『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
5. 武藤芳照 (著) 『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社
6. Peter Brukner, Karim Khan (著) 『臨床スポーツ医学』医学映像教育センター

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業内で実施する小テストと授業への参画態度による平常点 (14%)
  - (2) 期末の筆記試験 (単位認定試験) 86% で評価をおこなう。
- なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は E 評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 後方の席は使用しない。

## 【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## スポーツ医学Ⅱ

瀬戸 宏明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防や治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

スポーツ医学Ⅱでは、スポーツ競技のパフォーマンスを安定的かつ長期的に維持するために極めて重要であるアスリートの「健康管理」に主眼をおいた内容に具体的事例を含め学習することで、トップアスリートとして成功するためにスポーツ医学的知識がなぜ必要であるかを認識する。

## 【到達目標】

1. 基本的な解剖学用語を使用することができる。
2. スポーツバイオメカニクスに関する基礎的用語を使用することができる。
3. 運動器の仕組みと働きを説明できる。
4. アスリートの健康管理に携わる専門的職種を列挙できる。
5. アスリートの健康管理に必要な検討項目を列挙できる。
6. スポーツにおける栄養の意義を解説できる。
7. リハビリテーションとコンディショニングの違いを述べることができる。
8. スポーツ中に多い代表的な内科的障害の原因と対処法を説明できる。
9. スポーツ活動中に多い整形外科的傷害の原因と対処法を説明できる。
10. 高地や寒冷地などでの特殊環境下のスポーツについて説明できる。
11. サプリメントを利用する場合の注意点を列挙できる。
12. ドーピングの意義を述べることができる。

## 【授業の進め方と方法】

講義は多くの競技に共通した内容で行う。毎回のテーマは実際に行われている競技現場を意識しながら授業を展開し、到達目標の達成を目指す。授業は講義形式が中心となる。講義ではスライド、DVDなどを用いて効率よい知識の伝達を行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
2	スポーツと栄養①	スポーツ栄養の理論を踏まえた基礎的な知識を説明する。
3	スポーツと栄養②	水分摂取の意義、効果的な摂取方法および成分などについて解説する。
4	運動器の仕組みと働き①	スポーツ医学に必要な解剖生理学用語について解説する。
5	運動器の仕組みと働き②	筋・骨格筋・神経系について解説する。
6	運動器の仕組みと働き③	関節・運動器の機能について解説する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給システムについて解説する。
8	スポーツバイオメカニクス総論	走る、投げる、跳ぶ、蹴るなどの基本動作のバイオメカニクスについて説明する。
9	アスリートと健康管理	健康管理体制について概説し、メディカルチェックの意義およびその方法について解説する。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	主にアスレティックリハビリテーションについて、その意義、方法を説明する。
11	コンディショニングの手法	スポーツ現場でおこなわれている代表的なコンディショニングの手法について解説する。
12	特殊環境下とスポーツ医学	暑熱環境、低温環境、高地環境、時差、感染症などについて、概要と対策を説明する。
13	ドーピングとスポーツ医学	ドーピング概要およびその歴史、現在の現状を解説しながら、実際の方法を説明する。
14	単位認定試験と解説	授業内において単位認定試験とその解説をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料のダウンロードを行い、指定参考書を用いて事前学習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、配布資料に沿って進める。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル（監修）『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』第2版、日本文芸社
2. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅲ
4. 小島康昭、他（著）『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
5. 武藤芳照（著）『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社

6. Peter Brukner, Karim Khan（著）『臨床スポーツ医学』医学映像教育センター

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業内で実施する小テストと授業への参画態度による平常点（14%）
- (2) 期末の筆記試験（単位認定試験）86%で評価をおこなう。  
なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合はE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 後方の席は使用しない。

## 【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## スポーツ心理学

荒井 弘和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツと心との関係を学ぶ

## 【到達目標】

発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、情報源把握力、信頼関係構築力）」と「状況判断・行動力（主に、自己変革力、環境変革力）」の育成に貢献することを目指します。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、スポーツ心理学の実践的なテーマを学習します。運動・スポーツは、私たちの心と深い関わりをもっています。運動・スポーツと心との関係を学ぶことは、効果的に運動・スポーツ指導を実践する上で欠かせません。この講義では、公認スポーツ指導者養成のための共通科目として、発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて、具体的かつ実践的に学び、実践できるようになることを目指します。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ジュニア期のスポーツ 発育発達過程の身体的特徴、心理的特徴	この授業で扱う全体像を理解し、説明できるようになる。子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。I-7-①
2	ジュニア期のスポーツ 発育発達期に多いケガや病気	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。I-7-②
3	ジュニア期のスポーツ 発育発達期のプログラム	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。I-7-③
4	スポーツの心理 I スポーツと心	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。II-3-①
5	スポーツの心理 I スポーツにおける動機づけ	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。II-3-②
6	スポーツの心理 I コーチングの心理 (1)	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。II-3-③
7	スポーツの心理 I コーチングの心理 (2)	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。II-3-③
8	スポーツの心理 II メンタルマネジメント (1)	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。III-6-①
9	スポーツの心理 II メンタルマネジメント (2)	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。III-6-①
10	スポーツの心理 II メンタルマネジメント (3)	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。III-6-①
11	スポーツの心理 II メンタルマネジメント (4)	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。III-6-①
12	スポーツの心理 II メンタルマネジメント (5)	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。III-6-①
13	スポーツの心理 II 指導者のメンタルマネジメント (1)	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。III-6-②
14	スポーツの心理 II 指導者のメンタルマネジメント (2)	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。III-6-②

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

## 【テキスト（教科書）】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（公）日本体育協会

## 【参考書】

日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応した期末のレポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

「ご自身の体験談や、例になる話を引っ張ってきてくれるため、知識がない自分でも、もっと知りたい！ おもしろい！ と思える」「毎回配られるプリントが非常に役に立った！ 授業の初めにコメントや回答を載せていてみんなの考えがよくわかりおもしろかった！」という意見がありました。この科目は、1 年次から履修可能な必修科目なので、平易に情報提供できるよう努めます。また、授業内レポートを課して、翌週にそのフィードバックを行う授業を展開します。

## 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

## 【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

グループでのワークや、ペアでのワークを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目標は科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することである。運動およびトレーニングを行ったときに、人体の構造や機能がどのように応答するかについて、トレーニング科学を学習することで、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深める。

## 【到達目標】

スポーツおよびトレーニングをする上で最低限必要になる知識の定着が到達目標となる。具体的には骨格系、筋系を中心とした解剖・生理学的知識、各種トレーニングの背景と具体的な方法に関する理解、それぞれの機能のトレーニングの期分けの理解である。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心に進める。トレーニング科学に関する、人体の構造と機能を含めた基本的な知識の習得からはじめる。各種トレーニングに関する考え方や実際の方法、トレーニング効果の評価方法（一般的な体力テストを含む）を、科学的根拠に基づいて紹介していく。基本的なトレーニング計画の立案方法やその実際についても紹介する。各回、パワーポイントを使用するため、プロジェクター、スクリーンを使用して授業を行う。時に簡単な実技を通して身体での理解を深めることも試みる。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（トレーニング科学総論）	トレーニング科学とは
2	機能解剖学概論	骨格系・筋系・運動学基礎
3	運動生理学概論	呼吸機能・循環機能・筋機能・神経機能
4	トレーニング科学概論	トレーニング科学総論
5	ウエイトトレーニング（レジスタンストレーニング）総論	ストレングストレーニング・ウエイトトレーニング・レジスタンストレーニング
6	ウエイトトレーニング各論	主要トレーニング（ベンチプレス・スクワット・パワークリーン）・補助トレーニング
7	持久力トレーニング	持久力トレーニングの基礎・方法・効果
8	柔軟性トレーニング	柔軟性トレーニングの背景・方法・効果
9	コア（体幹）トレーニング	体幹とは・スタビライゼーションエクササイズの実際
10	スピード・アジリティトレーニング	スピードとは・アジリティとは・トレーニング方法の実際
11	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスとは・トレーニング方法の実際
12	バランストレーニング	バランストレーニングの概要・方法・効果
13	パワートレーニング	オリンピックリフティングの概要・方法・効果
14	トレーニング計画（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションとは・ピリオダイゼーションの実際

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを中心に各講義の復習を中心とした学習により、知識の定着をはかること。

## 【テキスト（教科書）】

特に設けないが、各回毎に資料を用意する。資料は「授業支援システム」から各自ダウンロードすることとする。

## 【参考書】

1. 公認スポーツ指導者テキスト 共通科目Ⅲ
2. 石井直方監修、ストレングストレーニング&コンディショニング 第3版。ブックハウス HD. 2010
3. 宮下充正、トレーニングの科学的基礎 改訂版。ブックハウス HD. 2002
4. 横浜市スポーツ医科学センター、図解 スポーツトレーニングの基礎理論。西東社。2007
5. 伊藤マモル著：基礎から学ぶスポーツトレーニング理論。日本芸文社刊。

## 【成績評価の方法と基準】

各回の小テストによる平常点 50%、授業内試験 50%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

取り扱う内容により、実技を入れたり、動画による動作の紹介等を加えて実践的な内容にしたところが良かったようである。今後もできるだけ動きのある講義を心掛けたい。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

## 【到達目標】

地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえでマネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともに、スポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解するとともに、スポーツ事業の計画の方法や組織のあり方を理解する。また、総合型地域スポーツクラブの構造や地域に対する役割を理解すると同時にその多様性に応じた指導方法も学ぶ。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
第2回	地域スポーツクラブの機能と役割（1）	我が国のスポーツ振興
第3回	地域スポーツクラブの機能と役割（2）地域	スポーツ行政の仕組みとねらい
第4回	地域スポーツクラブの機能と役割（3）	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」
第5回	対象に合わせたスポーツ指導（1）	地域スポーツクラブの必要性
第6回	対象に合わせたスポーツ指導（2）	地域スポーツクラブの立ち上げと運営
第7回	スポーツ組織の運営（1）	地域におけるスポーツ経営
第8回	スポーツ組織の運営（2）	総合型地域スポーツクラブの育成と運営
第9回	スポーツ組織のマネジメント（1）	スポーツ組織のマネジメント
第10回	スポーツ組織のマネジメント（2）	スポーツ事業のマーケティング
第11回	スポーツ組織のマネジメント（3）	スポーツ事業のプロモーション
第12回	対象に合わせたスポーツ指導（3）	中高年者とスポーツ
第13回	対象に合わせたスポーツ指導（4）	女性とスポーツ
第14回	対象に合わせたスポーツ指導～障害者とスポーツ～	障害者とスポーツ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書を読んでいることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

レジュメを使用する。

## 【参考書】

- (1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ：(公)日本体育協会
- (2) アスレティックトレーナー教本：(公)日本体育協会
- (3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
- (4) クラブづくりの4つのドア：文部科学省

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況 40%・レポート 30%・試験 30%により総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため記載なし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身の競技力を伸ばすためには、自身のフィジカルや動作について、自己認識、自己分析ができるようになることが重要である。本講義では、様々な機会で開催されている体力テストや、タレント発掘・選抜によって実施されている体力テストや競技力の評価方法、またそのトレーニング方法について学ぶことにより、様々な評価ができるようにすることを目的とする。また、その背景となる発育発達や基礎理論を学習し、自身の行っているスポーツへの応用や理解を深める。

【到達目標】

・自身のフィジカルや動作について、その評価の方法や意味について理解し、その評価に関して自己認識、自己分析ができるようになる。  
・発育・発達やトレーニングの理論に関して、理解を深める。  
・測定を利用した競技パフォーマンスの評価の例として、タレント発掘・選抜について学び、その理解を深める。

【授業の進め方と方法】

スポーツのパフォーマンス評価に重要なのは、競技力に対する自己認識と自己分析である。この授業では、競技力の把握に関して、主にフィジカルの部分を取り上げ、その概念や指導法、評価方法等について学び、自身の競技や、将来指導をする際の競技力向上の為に役立てるようにする。

講義中心ではあるが、テーマによっては実技やディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する
2	種目特性踏まえたタレント発掘・選抜事例Ⅰ	競技力の測定・評価を用いたタレント発掘・育成について、その概念や前提となる条件について、事例を基に学習する。
3	体力および発育と発達	フィジカルの評価に関わる体力および発育と発達について学ぶ
4	種目特性踏まえたタレント発掘・選抜事例Ⅱ	競技力の測定・評価を用いたタレント発掘・育成について、全国で行われている発掘・育成プログラムについて事例を基に学習する。
5	種目特性の理解と、その特性に合わせたトレーニングの目標設定	自身の実施する種目の特性を理解し、それに合わせたトレーニング目標の設定を行う。また自身の競技力を自己認識し、強化しなければならない部分について自己分析をする。
6	トレーニングの理論と計画（ピリオダイゼーション）	トレーニングの理論と計画（ピリオダイゼーション）について学ぶ。
7	指導者の育成（コーチング・マネジメント）	指導者が習得すべき倫理・コーチング・マネジメントに関する知識や技能について学習する。
8	コンディショニングウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と方法	試合時間に合わせたコンディショニングウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と方法について学ぶ。
9	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの方法と実践	実際に自身のバランスや左右差を評価し、その原因となるアライメントや筋力差について簡易チェックを行う。
10	競技力の測定と質の評価	競技力を評価するための方法と、定量的に評価が出来ない質に関する評価法について学ぶ。

11	選抜プログラム実習	実際に行われている発掘・選抜種目について、その種目を実際に行うことにより、測定・計測および実施の注意点等を学ぶ。
12	統計評価方法①	測定した測定種目に関して、集計の方法から、評価、選抜の方法について、実際に行い、学習する。
13	競技力測定プログラムプレゼン	これまで学んできた動きの評価や発掘・選抜プログラムの意義、統計方法を用いて、自身の行っているスポーツのパフォーマンス評価方法についてプレゼンを行う。
14	総括	本授業を総括し、知識の定着を図る。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週のテーマについて準備すること  
 しっかりとした健康管理を行なうこと

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

#### 【参考書】

- ・スポーツ白書 2018 笹川スポーツ財団
- ・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(公)日本体育協会
- ・スポーツ運動学序説 朝岡正雄著 不味堂出版
- ・新・日本人の体力標準値 Ⅱ 首都大学東京体力標準値研究会(株)誠信社
- ・幼児のからだを測る・知る 出村慎一監修 杏林書院

#### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況：45% 2) 課題・期末レポートの内容：35%  
 3) 授業態度：15%

授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含めます。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待します。

課題・期末レポートについて：授業の進行に併せて課題レポートを課す場合があります。提出期限は厳守のこと。レポートの点数は非公開とします。

なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

身体を動かす実習をする場合がある。その際には運動着および室内履きを用意して貰う。授業内で実習の日は指示をする。

#### 【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

<< 受講について >>

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論Ⅰ」となります。

HSS109LB

## スポーツ文化論

吉田 毅

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はスポーツの時代とも言われる。政治的、また経済的にスポーツがこれだけ重要性を有した時代はかつてない。グローバル化という現代社会の特徴を検証するうえで、スポーツは数々の具体例を提示している。こうした現代社会とスポーツの関係性に関して、政治、経済、サブカルチャー等、様々な観点から考える内容から構成される。なお、スポーツ界の動向等により計画（内容）を変更することがあり得る。

#### 【到達目標】

- ・現代社会におけるスポーツの重要性を理解し、文化としてのスポーツを様々な角度から享受できる資質を獲得できる。
- ・個人個人の専門領域に対する関心と融合させて、学際的見地からスポーツ文化に関しての認識を高めることができる。

#### 【授業の進め方と方法】

文献資料およびDVD資料等を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインタラクティブな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の概要、受講上の留意点等に関して説明する。
2	文化としてのスポーツ（スポーツの起源、歴史）	スポーツの歴史、変遷、現代スポーツの特徴。
3	スポーツ文化の変容	グローバル化社会の中でのスポーツの変容。
4	日本のスポーツ文化	我が国固有のスポーツ文化（高校野球、大相撲等）に関して。
5	メディア化するスポーツ	スポーツとメディアの関係性、スポーツ・ジャーナリズムに関して。
6	消費文化としてのスポーツ	スポーツの商品化、スポーツ関連産業、スポーツ・ツーリズム等について取り上げる。
7	生活からスポーツへ	生活に根付いたスポーツ文化について取り上げる。
8	スポーツと教育	体育とスポーツ、遊びとスポーツ、「部活」の文化等を取り上げる。
9	職業としてのスポーツ	プロスポーツの発展、スポーツ選手のライフコース等の問題を取り上げる。
10	スポーツファンの文化	応援やサポーターの文化、スポーツ・ボランティア等の話題を取り上げる。
11	スポーツと芸術	美を競うスポーツ、文学、映画、漫画等で描かれるスポーツについて論じる。
12	グローバル化するスポーツ文化	グローバルなスポーツの発展形態、その光と影に焦点をあてる。
13	スポーツと逸脱	暴力・フーリガニズム、ドーピング、セクシャル・ハラスメント等の問題を取り上げる。
14	総括と成績評価の確認	本授業を総括し、今日におけるスポーツ文化をめぐる主な課題を示すとともに、成績評価の仕方について確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。

**【テキスト（教科書）】**

用いない。適宜，資料を配布する。

**【参考書】**

授業時に参考文献・参考 URL に関しては紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度（リアクションペーパー，発言等）：30%

試験（ミニレポートを含む）：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更により特にありません。

HSS204LB

**スポーツ栄養学 I**

杉山 明美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

分子整合栄養医学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、そのコンディショニング方法を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・身体の仕事みやケガの成り立ち、栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。
- ・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。
- ・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）に対処できるようになる。

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第 2 回目	栄養管理の重要性	新しい栄養学の必要性について学ぶ。
第 3 回目	パフォーマンスと栄養	パフォーマンスと栄養の関係について学ぶ。
第 4 回目	アスリートの食事	アスリートが必要としているバランスのとれた食事について学ぶ。
第 5 回目	消化と吸収	身体の消化と吸収のしくみとパフォーマンスの関係について学ぶ。
第 6 回目	エネルギー代謝	身体の中でエネルギーを作り出すメカニズムについて学ぶ。
第 7 回目	スポーツと栄養素 (たんぱく質)	たんぱく質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響を学ぶ。
第 8 回目	スポーツと栄養素 (糖質)	糖質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 9 回目	スポーツと栄養素 (脂質)	脂質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 10 回目	スポーツと栄養素 (ビタミン①)	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 11 回目	スポーツと栄養素 (ビタミン②)	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 12 回目	スポーツと栄養素 (ミネラル①)	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 13 回目	スポーツと栄養素 (ミネラル②)	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 14 回目	試験	春学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内容を生かしコンディショニングを行う。

**【テキスト（教科書）】**

資料は毎時配布する。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断する。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・欠席者が資料を希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。
- ・集中力が持続できるような授業構成を行う。

**【その他の重要事項】**

併せてスポーツ栄養学Ⅱも受講することが望ましい。

杉山 明美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養医学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、そのコンディショニング方法を学ぶ。

## 【到達目標】

・身体の仕組みや症状の成り立ち、各栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。  
・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。  
・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第2回目	コンディションと栄養	コンディションと栄養の関係について学ぶ
第3回目	アスリートの食事	アスリートが理想とするメニューのつくり方、選び方。また、タイミング別の栄養摂取の方法を学ぶ。
第4回目	鉄欠乏と栄養対策Ⅰ	鉄欠乏の症状と競技への影響について学ぶ。また、貧血診断の問題点について学ぶ。
第5回目	鉄欠乏と栄養対策Ⅱ	鉄欠乏の正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第6回目	風邪と栄養対策	風邪を引くメカニズムについて学ぶ。また、正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第7回目	低血糖と栄養対策	低血糖が起こるメカニズムと競技への影響について学ぶ。また、正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第8回目	スタミナと栄養対策	精神的スタミナと肉体的スタミナの両方を取り上げ、そのメカニズムと正しい栄養アプローチの方法について学ぶ。
第9回目	ケガと栄養対策Ⅰ	ケガが起こるメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第10回目	ケガと栄養対策Ⅱ	ケガが起こるメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第11回目	増量と栄養対策	増量のメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第12回目	減量と栄養対策	減量のメカニズムとその栄養アプローチの方法について学ぶ。
第13回目	サプリメントと栄養対策	サプリメントの考え方や使い方を学ぶ（種目別、時差など）。
第14回目	試験	秋学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を生かしコンディショニングを行う。

## 【テキスト（教科書）】

資料は毎時配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・欠席者が資料を希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。  
・集中力が持続できるような授業構成を行う。

## 【その他の重要事項】

スポーツ栄養学Ⅰから受講することが望ましい。

春日井 有輝

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツと関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

## 【到達目標】

1. コンディションおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解すること。
2. スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気およびその救急処置について理解すること。

## 【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（1）	アスリートの外傷・障害と対策として、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（2）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（3）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（蛋白尿・血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
8	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
9	コンディショニングの手法（1）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての概説をし、その後実習を行う。
10	コンディショニングの手法（2）	下肢の傷害に対してのテーピングの実習を行う。
11	コンディショニングの手法（3）	上肢の傷害に対してのテーピングの実習を行う。
12	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションの概要や、実際のリハビリ（トレーニング）の考え方、計画の立て方についての講義を行う。

13	総括	コンディショニング科学Ⅰの要点を振り返るとともに、期末試験に関する傾向と対策を教示する
14	期末試験	授業内試験を実施する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義前日までに授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参することとする。

**【参考書】**

1. 日本体育協会編、公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ
2. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション
4. 初山日出樹総監修、臨床スポーツ医学、医学映像教育センター

**【成績評価の方法と基準】**

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合はE評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体的な例を挙げたり実技を取り入れながら講義を行うことで理解が深まりやすいと考えられるので、今後も同様に行っていく予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用する。

HSS207LB

**コンディショニング科学Ⅱ**

春日井 有輝

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

**【授業の進め方と方法】**

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	コンディショニングの要素（1）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子に関する講義を行う。
3	コンディショニングの要素（2）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子に関する講義を行う。
4	コンディショニングの要素（3）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子に関する講義を行う。
5	コンディショニングの評価	コンディショニングの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの目的・方法について学習する。
8	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング1）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、ストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング2）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、ストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ1）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を経験する。
11	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ2）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を経験する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を経験、習得する。
13	総括	コンディショニング科学Ⅱの要点を振り返るとともに、期末試験に関する傾向と対策を教示する。
14	期末試験	授業内試験を実施する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義前日までに授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参することとする。

**【参考書】**

日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

その他にも授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は E 評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体的な例を挙げたり実技を取り入れながら講義を行うことで理解が深まりやすいと考えられるので、今後も同様に行っていく予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用する。

HSS111LB

**スポーツ生理学**

田口 直樹

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、スポーツ・運動場面における身体の生理的応答、さらには継続したトレーニングによる生理的变化について学ぶ事を大きな学習テーマとします。

**【到達目標】**

生理学という側面からスポーツ・身体活動実践時の身体について捉え、授業を通じて学ぶ知識・情報を用いて効果の高いスポーツ・トレーニングや身体活動が実践できる能力育成を授業の目標とします。

**【授業の進め方と方法】**

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、スポーツ・運動生理学に関連した知識を学ぶことは授業目的の一つではありますが、その知識を自らのトレーニングやスポーツへの関わりの中でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視します。それゆえ、類似したテーマでの授業が終了するごとに個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認。健康な生活について
2	運動時における骨格筋の働きについて学ぶ	骨格筋の構造と機能、筋力と筋パワー
3	筋力トレーニングのトレーニングナビリティについて学ぶ	筋の肥大と損傷、運動と筋 ATP 代謝
4	運動時におけるエネルギー代謝について学ぶ	運動時の糖質・脂質・タンパク質代謝とホルモン作用
5	運動時におけるホルモンの分泌・働きについて学ぶ	運動時のホルモン分泌、運動による内分泌の変化
6	運動時のエネルギー代謝応答について学ぶ	乳酸と中・高強度運動時のエネルギー代謝の実際
7	筋持久力トレーニングのトレーニングナビリティについて学ぶ	筋持久力および無酸素性能力向上を指したトレーニングの実際と効果
8	運動時における呼吸器系の働きについて学ぶ	運動時における呼吸・心循環
9	運動時における循環器系の働きについて学ぶ	運動と中心循環・末梢循環
10	全身持久力トレーニングのトレーニングナビリティについて学ぶ	全身持久力向上のための有酸素性トレーニングの実際と効果
11	運動時における神経系の働き・調節について学ぶ	神経系による運動時の運動調節
12	運動による骨格への影響について学ぶ	運動と骨代謝
13	環境と運動について学ぶ	運動と環境（高地）、温度・湿度と水分・栄養摂取
14	アスリートの資質、トレーニングのモニタリングについて学ぶ	運動時のモニタリング指標、トップアスリートの特性

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。また、第 6,11,15 回目終了後に提出予定のミニレポートの作成に向け、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

**【参考書】**

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

**【成績評価の方法と基準】**

1) 授業に対する姿勢・理解度 40%, 2) 課題・レポート 40%, 3) 小テスト 20%の配分として総合評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

スポーツ現場による事例（競技につながるような事例）を踏まえ授業を行う事により、生理学的な部分をよりイメージできるように配慮している。レポート内容も課題をこなすだけでなく自らの競技と関連のある課題にし、より深く考える機会を作っている。

**【その他の重要事項】**

授業の運営方針や授業計画の説明などを行いますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

## リーダーシップ論 I

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、すぐれたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

## 【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのイメージを獲得する

## 【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、グループワーク形式の実習、自己分析などを通じて、「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やアクションペーパーの提出を行います。

テーマに応じて、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは？
2	【リーダーシップの定義と学び方】 チームの理論①	・優れたリーダーの共通点 ・リーダーシップと人間観
3	【リーダーシップの定義と学び方】 チームの理論②	・自己概念とは ・ジョハリの窓
4	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する2つの仮説	・資質アプローチ ・行動アプローチ
5	【リーダーシップに関わる行動】 オハイオ州立大学の研究	・配慮と構造づくり ・リーダーシップと動機づけ
6	【リーダーシップに関わる行動】 リーダーシップと動機づけ	・動機づけとパフォーマンスの関係 ・動機づけを高めるリーダーシップとは
7	【特別講演】 リーダーシップのモデル①	・スポーツ指導におけるリーダーシップの実践（外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップと対象理解】 エリクソンの心理社会的発達論	・発達段階に関する理解 ・発達段階に応じたリーダーシップとは
9	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション①	・ことばの3つのレベル ・コンテンツとプロセス
10	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・チームとは何か ・集団規範 ・「場の理論」
12	【リーダーシップとチームビルディング】	・チームビルディング実習
13	まとめ	まとめ、リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業内評価 50%
- ・期末試験 50%

## 【授業内評価】

毎授業、自身の意見や感想などをリアクションペーパーに記述、提出し、その内容を評価対象として重視します。

また、授業内で実施するグループワークとその振り返りについての成果も成績評価の対象とします。

## 【期末試験】

最終講義において論述形式の試験を実施します。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークや自己分析により気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるような活動を取り入れる予定です。

## 【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

## リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考える「シェアードリーダーシップ」について、講義やグループワークなどの体験を通じて学びます。

リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

## 【到達目標】

- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める
- ・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する

## 【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。

授業内では、講義によってリーダーシップについての見識を深めるとともに、自分自身のスタイルを確認するための測定や、それぞれの体験を分かち合うためのグループワーク（発表を含む）を予定しています。また、さまざまなスポーツの時事事象に関する考察や、ゲスト講師による特別講義も予定しています。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことをリアクションペーパーに記入し、毎回提出をします。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究】 ジョン・P・コッターの理論	・リーダーシップとは ・組織が変わるためのリーダーの行動
3	【リーダーシップに関する研究】 マックス・ウェーバーの理論	・支配の類型 ・官僚制の特徴
4	【リーダーシップに関する研究】 PM リーダーシップ理論	・PM リーダーシップ理論とは ・P 行動と M 行動 ・グループワーク「課題解決と P/M 行動」
5	【リーダーシップに関する研究】 4 つのリーダーシップ	・4 つのリーダーシップスタイル ・実習「あなたのリーダーシップスタイルは？」
6	【リーダーシップとリーダー哲学】 価値観	・リーダー哲学とは ・リーダー哲学を支える価値観 ・グループワーク「価値観について」
7	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 (外部講師招聘予定)
8	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	・「聴く」スキル ・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」
9	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	コミュニケーションスタイルの評価・診断
10	【リーダーシップと関係性】 影響力	グループワーク「あなたの影響力とは」
11	【リーダーシップと関係性】 ジョハリの窓	・自己開示 ・フィードバック
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフボデーション
13	まとめ	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	授業内試験	論述形式による試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

## 【テキスト（教科書）】

パワーポイント、関連資料等を適宜使用する。

## 【参考書】

特になし

必要に応じて紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での活動における達成度や参加姿勢（20%）として、授業内で行うグループ課題への取り組みを重視します。リアクションペーパーによるミニレポート（30%）、最終講義での論述形式の試験（50%）によって総合的に成績評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学年や部の単位をこえたグループによる活動を通じて、より交流や自己理解が深まったという感想を毎年受けています。本年度も様々な履修生との交流を通じて学ぶことができる環境を整えるように努力します。

越部 清美

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生を健やかに生き、各自の思い描く目標達成のためには、まず、心身におけるバランスのとれた健康体でなければならない。そのためには、セルフケアこそが最良の手立てとなる。本授業では、セルフケアの基本的な知識を学び、自己のからだへの向き合い方について考察していく。特に、東洋的健康法に関する学びを深め実践を通して習得する。

## 【到達目標】

- 1) 健康に関する基礎的な知識を学び理解する。
- 2) 自己の将来を見通してのからだ・健康づくりの設計ができる。

## 【授業の進め方と方法】

各回の講義の中で、リアクションペーパー等の提出を求める。

数回の招聘指導者を予定している。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	本講義のすすめ方についてのオリエンテーション
2回目	現代社会と『養生訓』	『養生訓』から学ぶべき課題を明らかにする
3回目	呼吸と健康	呼吸に関する生理学的な知識を学び理解する
4回目	姿勢と健康	姿勢に関する基本的な知識を学び理解する。
5回目	食事と健康	食事や栄養に関する知識を学び理解する
6回目	排泄と健康	排泄に関する基本的な知識を学び理解する
7回目	休養・睡眠と健康	休養や睡眠に関する知識を学び理解する
8回目	運動と健康	身体運動と健康のかかわりについて考察する
9回目	東洋的身体技法 太極拳	太極拳に関する身体技法について学ぶ
10回目	東洋的身体技法 ホーキンステクニーク	ホーキンステクニークに関する身体技法について学ぶ
11回目	東洋的身体技法 ヨガ	ヨガに関する身体技法について学ぶ
12回目	東洋的身体技法 呼吸法各種	呼吸法に関する身体技法について学ぶ
13回目	東洋的身体技法 野口体操	野口体操に関する身体技法について学ぶ
14回目	東洋的身体技法 野口整体	野口整体に関する身体技法について学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

指定なし。

## 【参考書】

必要に応じて適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート 20%、試験 30%と、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

からだの使い方や呼吸の大切さについて学んだという学生が多かった。これからも自分のからだとしてしっかり向き合うことの重要性を伝えていきたい。

竹内 洋輔

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、スポーツ振興に携わる人材（コーチ・マネージャー・コーディネーター等）に必要な知識を習得することを目的として、スポーツ振興の現状や課題、社会的制度やサポート体制、指導者の役割・育成方法等を学習していきます。

## 【到達目標】

- ・スポーツ振興の現状と課題について説明できる。
- ・スポーツ振興の社会的制度やサポート体制について説明できる。
- ・指導者の役割・育成方法について説明できる。
- ・スポーツ振興のための具体的方策を考案できる。

## 【授業の進め方と方法】

基本的にパワーポイントを用いた講義形式で進行します。また、学び合いの促進のため、グループワークやグループ発表を適宜交えながら行います。授業内容の理解度評価のため、レポート課題を出す場合があります。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する。
2	日本における公衆衛生と財政	スポーツ振興の背景となる公衆衛生と国の財政、健康寿命等との関係を学習する。
3	スポーツ基本法	国のスポーツ政策の根本となるスポーツ基本法について、ディスカッションを行う。
4	スポーツ基本法と関連省庁の取り組み	スポーツ基本法の理解と、関係する省庁の取り組みについて学ぶ。
5	スポーツ振興の現状と課題	社会において、どのようなスポーツ振興がされているかを学習する。
6	競技スポーツの振興と課題	競技スポーツを事例として、競技スポーツの振興と課題について学習する。
7	広域型地域スポーツクラブについて	スポーツ振興事例として、広域型スポーツクラブについて、その事例を学ぶ。
8	指導者の育成（スポーツ教育・倫理）	スポーツを支える指導者の探索・選定・採用・継続的活用に関わる要因、指導者が習得すべきスポーツ教育・倫理に関する知識や技能について学習する。
9	指導者の育成（コーチング・マネジメント）	指導者が習得すべきコーチング・マネジメントに関する知識や技能について学習する。
10	指導者の育成（スポーツ医科学）	指導者が習得すべきスポーツ医科学に関する知識や技能について学習する。
11	広域型地域スポーツクラブとして ラフ：法政クラブを例として①	広域型地域スポーツクラブとして活動している法政クラブについて、その活動を紹介する。
12	広域型地域スポーツクラブとして ラフ：法政クラブを例として②	広域型地域スポーツクラブとして活動している法政クラブについて、その活動を紹介する。
13	これからのスポーツ振興	さらなる少子高齢化時代を見据え、今後のスポーツ振興方策を検討し、ディスカッションする。
14	総括	本授業を総括し、知識の定着を図る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習として、授業のテーマに関する調べ学習を課す場合があります。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

- ・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（公）日本体育協会
- ・スポーツ・コモンズ 総合型地域スポーツクラブの近未来像（有）想文企画
- ・「スポーツ白書2014」笹川スポーツ財団
- ・「スポーツライフ・データ2014」笹川スポーツ財団
- ・「スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成テキスト」（公）日本体育協会
- ・「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進のための調査研究報告書」（公）日本レクリエーション協会
- ・「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書～一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して～」文部科学省

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況：45% 2) 課題・期末レポートの内容：35%  
3) 授業態度：15%

授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含めます。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待します。

課題・期末レポートについて：授業の進行に併せて課題レポートを課す場合があります。提出期限は厳守のこと。レポートの点数は非公開とします。

なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

### 【その他の重要事項】

※授業の進行具合によって多少の内容変更をすることがあります。

<< 受講について >>

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ振興論Ⅰ」となります。

HSS224LB

## スポーツ産業論/スポーツ産業論Ⅰ

井上 尊寛

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツビジネスにおける現状と現代的な課題について検討するとともに、幅広い領域に拡大しつつあるスポーツビジネスのあり方について、国内外の文献および討議、さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにしていく。

### 【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。授業ではプロジェクターを使用する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケティング戦略の考え方	意思決定、市場細分化、リレー
4	スポーツ・サービス産業のプロダクト	満足
5	スポーツ・イベントのマネジメント1	Jリーグ、企業マーケティング
6	スポーツ・イベントのマネジメント2	観戦者行動、観戦者マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント3	ブランディング
8	スポーツ・イベントのマネジメント4	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
9	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題1	需要動向、事業環境、経営戦略
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題2	スポーツブランドのコーポレート
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題3	CSR、SRI、NGO
12	まとめ	秋学期のテーマに関する総括
13	授業内レポート	レポート作成(1)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義にて使用したスライドや資料の内容を復習してくること。

### 【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

### 【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

### 【成績評価の方法と基準】

授業の感想(40%)および期末テストの評価(60%)から総合的に判断する

### 【学生の意見等からの気づき】

スライドをメモする時間を十分に取ること、可能な限り多くのスポーツ種目の事例を用いて解説すること等を改善したい。

## 【その他の重要事項】

<< 受講についての注意 >>

2015 年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ産業論 I」となります。

HSS225LB

## スポーツ社会学

吉田 毅

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して、スポーツの光と影、様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになることを、本授業は目的としている。なお、スポーツ界の動向等により計画（内容）を変更することがあり得る。

### 【到達目標】

- ・スポーツに関連した具体的事例を通して、社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
- ・国内外のスポーツに関連する事象についての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
- ・社会学的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

### 【授業の進め方と方法】

文献資料およびDVD資料等を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインタラクティブな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは、スポーツ社会学とは
2	グローバル社会の中のスポーツ	高度化、ビジネス化等のキーワードからグローバル社会でのスポーツの変容を探る。
3	現代スポーツの臨界点	ドーピングに代表されるような現代スポーツの問題点を考える。
4	オリンピック・スタディーズ	オリンピックの発展、変遷に関して社会学的に探る。
5	スポーツと自然環境	オリンピックに代表されるメガイベント開催やスポーツに関連する開発と自然環境の問題を考える。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断、または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で、現代の問題に関して考える。
9	スポーツと逸脱の社会学	スポーツにおける暴力、ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から考える。
12	スポーツ政策とスポーツ振興	我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。
13	日本社会とスポーツ	日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。
14	総括と成績評価の確認	本授業を総括し、現代スポーツの主な社会学的課題を示すとともに、成績評価の仕方について確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。

### 【テキスト（教科書）】

用いない。適宜、資料を配布する。

### 【参考書】

菊幸一他編著「現代スポーツのパースペクティブ」（大修館書店）他、授業時に、それぞれの単元に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、発言等）：30%  
試験（ミニレポートを含む）：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特にありません。

HSS218LB

## アスリートキャリア論

成田 道彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

### 【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

### 【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
- ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
- ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
- ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
- ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第2回～13回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了承下さい。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第2回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第3回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第4回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第5回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第6回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第7回	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
第8回	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
第9回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第10回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第11回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第12回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第13回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第14回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでを振り返り将来を考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

### 【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 60%
  - 2) 各回のレポート 30%
  - 3) 課題レポート 10%
- この配分とし、総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

## スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪開催決定からあつという間に5年。予想以上に多くの課題を抱えつつ、準備が進む。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が重要視される。傍らメディアの側の変貌は急速だ。「文字」「映像」を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、メディアの基礎を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

## 【到達目標】

新聞、放送の既存メディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。手段こそ違え取材の理念は共通である筈だ、その理念と扱う情報の選択を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨く。さらにメディアの表現の仕方を吟味することで自らの表現力を高めることが可能になる。

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ界の幅広い知識を得る目的で講義を主体とする。五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組も素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。講義では「今、スポーツは」という日常の動きを敏感に感じ取って貰い、随時ミニレポートとして報告を求める。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリウウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史①	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響②	放送はいまやスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。
11	オリンピックとメディア	メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。その歴史を辿り、20年大会を考える。
12	受け手の反応	大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
13	ニューメディア①	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。
14	ニューメディア②	誰でもが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの業界とこれからのスポーツ界は。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

## 【テキスト（教科書）】

特に使いません。

## 【参考書】

「躍進するコンテンツ淘汰されるメディア」角川歴彦 毎日新聞出版  
「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社

## 【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見る授業後のミニレポート、期末のレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

## 【その他の重要事項】

20年五輪はスポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の産業にも大きく影響する。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

## トレーニング理論と実践

田口 直樹

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニング指導者に必要な基本的な知識を理解する。  
科学的根拠に基づいて行動するための知識を理解し実践できる。

## 【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することができる。

## 【授業の進め方と方法】

各種トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法や安全管理の方法について実習を通して学ぶ。スポーツパフォーマンスを構成する要素としての内容は、動きの分解と組み立て、姿勢と重心位置、運動の連鎖などの関連を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス トレーニング計画の立案（総論）	授業概要の説明と「トレーニングの理論と実践」の構成について学習する
2	筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングの効果と筋力トレーニングのプログラムの条件設定を理解する
3	筋力トレーニングの実際	筋力トレーニングの代表的エクササイズの実技と指導を理解する
4	パワー向上トレーニングの理論	パワーの基本概念、パワー向上トレーニングのプログラム法を理解する
5	パワー向上トレーニングの実際	クイックリフト、ジャンプトレーニング法を理解する
6	プライオメトリクスの実際	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する
7	スタビライゼーションエクササイズ理論	スタビライゼーションエクササイズの基本概念、コアの構造・重要性について理解する
8	スタビライゼーションエクササイズ実際	器具（バランスボール、バランスディスク、メディシンボール）を用いて行う各種トレーニング方法を理解する
9	道具を使わない筋力トレーニングの理論	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する
10	道具を使わない筋力トレーニングの実際	バランス能力・姿勢支持能力・コーディネーション向上のトレーニングを理解する
11	スピード向上トレーニングの理論	スピード・アジリティ・クイックネスの動作テクニック法を理解する
12	スピード向上トレーニングの実際	リアクションダッシュ、ラダー、ドリルなどの敏捷性向上のためのトレーニング方法を理解する
13	持久力向上トレーニングの理論	持久力・サーキットトレーニングの方法を作成し理解する
14	持久力向上トレーニングの実際	持久力・サーキットトレーニングの方法を作成し理解する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：この授業における自分の学習目標を設定する。

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。実習各回の資料を必要に応じて配布する。

## 【参考書】

1. 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論

編. 大修館書店 (2014)

2. 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2014)

3. 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実技編. 大修館書店 (2011)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、各回の実習レポート (20%)、各回の取り組み (20%)

1. 各回の実習レポート：各授業で課題として出す実習レポートを必ず期限までに提出すること。

2. 各回の取り組み：積極的な態度で実習に臨むことが望ましい。

上記1 + 2の総合評価にて成績を決定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

科学的根拠に基づいたトレーニングを理解し実践することでより理解を深めることができる。さまざまなトレーニングを正しいフォームで実践することで競技に活かすことができる。

## 【その他の重要事項】

<< 受講について >>

1・授業では実技も行うため受講人数を制限する（原則30名とする）。

2・初回授業に出席すること。

3・履修は4単位（2回）まで可とする（但し、年間で履修できるのは2単位（1回）まで）。

## 【学生の意見等からの気づき】

より多くの具体例を提示し、スポーツマーケティングのイメージを描きやすいように心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを使用する。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツは多種多様な役割を担い、我々の生活に密着している。こうした状況の中、ビジネスとしてのスポーツに注目が集まり、スポーツ産業の規模も拡大傾向にある。このようなスポーツのビジネス化におけるスポーツ商品の仕組みと、その価値を高めるためのマーケティング手法を学ぶ。

## 【到達目標】

「身体を動かす」というと側面だけでなく、スポーツをビジネスの視点からとらえ、スポーツ商品（製品、サービス）に対するマーケティング手法についての基礎を理解することを目標とする。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、最初にスポーツビジネスを取り巻く環境について説明をする。その後スポーツビジネスの具体例を取り上げながら、スポーツ商品の特徴とスポーツマーケティングの基礎について論じていく。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スポーツと経済との関わり	現代社会におけるスポーツと経済の関連について
2	現代社会におけるスポーツの役割	スポーツの社会的役割について
3	政策としてのスポーツ	日本のスポーツ政策について
4	スポーツ産業①	スポーツ産業全般の仕組みについて
5	スポーツ産業②	スポーツ産業の各分野について
6	スポーツの需要	スポーツ市場の特徴と消費者行動について
7	マーケティングとは	マーケティングの概念について
8	スポーツマーケティングの基礎	スポーツマーケティングの概念について
9	スポーツマーケティングの構造	スポーツマーケティングの構造について
10	スポーツビジネスとCSR	社会貢献を通じたスポーツマーケティングについて
11	スポーツメーカーの経営戦略	スポーツメーカーのマーケティングにおける現状と課題について
12	スポーツイベントのマーケティング	スポーツイベントによって派生する経済効果とマーケティング戦略について
13	スポーツクラブ・スクールのマーケティング	スポーツクラブ・スクールのマーケティングにおける現状と課題について
14	プロスポーツのマーケティング	プロスポーツのビジネスモデルとマーケティングにおける現状と課題について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・スポーツに関するニュースの情報収集をする。
- ・マーケティングに関する資料や記事を収集する。
- ・スポーツビジネスの具体例に関する情報収集をする。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G. ビッツ・D.K. ストットラー編著 白桃書房

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

定期試験および授業内レポート 50%

## スポーツ実習（テニス）Ⅰ/専修実習（テニス）Ⅰ

植村 直己

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニス競技指導者・コーチ・教師を視野に入れ、テニス指導法とテニスに関する知識を学び、日本体育協会公認の「テニス指導員」資格の取得を目的とする。

また、テニス指導員資格を取得することで、将来テニスの普及活動や選手の育成・強化に携わることができる、「上級指導員」「教師」「上級教師」「コーチ」「上級コーチ」など、更に上位の資格取得の可能性を広げることも目標とする。

## 【到達目標】

- ①初心者及び初級者指導法の基本を授業で学習する。
- ②デモンストレーション、練習ドリルを学び、レッスンプログラムを作成し実践できるようにする。
- ③ルール、マナー、審判法、歴史その他テニスの知識を高める。
- ④検定試験に合格できるようにする。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のテニス指導員資格取得に向けて、初心者及び初級者指導法、デモンストレーション方法や実技指導法をコート上で学習する。

また、室内にて講義を行い、ルール、歴史、マナーその他テニスの知識を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テニスの特性、テニスの歴史と現状、指導者の資格
第2回	テニスの技術指導法	テニス指導の考え方、グリップ、ボディーコントロール、ボールコントロール、技術構造
第3回	テニスのルール	テニスのルール、審判法、フェアプレーとマナー
第4回	安全管理	テニスの栄養学と健康管理、応急処置、事故と指導者の責任
第5回	テニスのコーチング法①	テニスと指導者論、初心者・初級者の指導計画、指導内容と指導法
第6回	テニスのコーチング法②	ジュニアの指導計画、指導内容と技術指導法
第7回	基礎技術指導法①	グリップの違いによるグランドストロークの打ち方、打点
第8回	基礎技術指導法②	ボレー、スマッシュのグリップ、打ち方、打点
第9回	基礎技術指導法③	サービス、レシーブのグリップ、打ち方、打点
第10回	ゲーム指導法①	ジュニア初心者・初級者のプレースタイル別戦術と組立て、状況に応じた効果的ショットの選択
第11回	ゲーム指導法②	一般男女初心者・初級者のプレースタイル別戦術と組立て、状況に応じた効果的ショットの選択
第12回	対象別指導法①	PLAY+STAY、低年齢ジュニアの指導法の実践
第13回	対象別指導法②	初心者・初級者のプライベートレッスン指導法
第14回	対象別指導法③	初心者・初級者のグループレッスン指導法

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」を読み、テニスのルール、マナー、技術、指導方法などを事前に学習し、予備知識を高める。全仏、全英、全米オープン、ATPツアー等のTV中継を見て、世界のテニスに関心を持つ。

## 【テキスト（教科書）】

「新版 テニス指導教本」日本テニス協会  
「JTA テニスルールブック」日本テニス協会  
また、必要に応じて授業中に資料を配布します。

## 【参考書】

「テニスマガジン」「スマッシュ」「テニスクラシック」等の月刊テニス専門誌

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢、授業態度など平常点の総合評価（80%）ならびに実技テスト、指導法テスト、ルールテスト、課題レポートの評価（20%）を対象として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テニス指導員資格取得の検定試験における、模擬レッスンの詳細については丁寧に指導します。

## 【その他の重要事項】

本科目は、テニス競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル又は全日本ジュニア選手権に出場レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

日本テニス協会の実技検定試験は卒業年度に行う。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（テニス）Ⅰ」となります。

## スポーツ実習（テニス）Ⅱ/専修実習（テニス）Ⅱ

植村 直己

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニス競技指導者・コーチ・教師を視野に入れ、テニス指導法とテニスに関する知識を学び、日本体育協会公認の「テニス指導員」資格の取得を目的とする。

また、テニス指導員資格を取得することで、将来テニスの普及活動や選手の育成・強化に携わることができる、「上級指導員」「教師」「上級教師」「コーチ」「上級コーチ」など、更に上位の資格取得の可能性を広げることも目標とする。

## 【到達目標】

- ①初級者及び中級者指導法の基本を授業で学習する。
- ②デモンストレーション、練習ドリルを学び、レッスンプログラムを作成し実践できるようにする。
- ③ルール、マナー、審判法、歴史その他テニスの知識を高める。
- ④検定試験に合格できるようにする。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のテニス指導員資格取得に向けて、初心者及び初級者指導法、デモンストレーション方法や実技指導法をコート上で学習する。

また、室内にて講義を行い、ルール、歴史、マナーその他テニスの知識を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	発育発達と一貫指導	発育発達期のトレーニング、一貫指導システム
第2回	安全管理	テニスの安全対策、コンディショニング
第3回	テニスのコーチング法	中級者、上級者への指導計画、指導内容と技術指導法
第4回	基礎技術指導法①	グラウンドストローク、ネットプレーの技術
第5回	基礎技術指導法②	サービス、レシーブからの総合技術
第6回	対象に応じた技術指導法①	女性初級者、高齢者への指導法
第7回	対象に応じた技術指導法②	ジュニア初心者・初級者への指導法
第8回	対象別指導法①	初級者のグループレッスン指導法
第9回	対象別指導法②	ジュニアのグループレッスン指導法、体力トレーニング法①
第10回	テニスの体力トレーニング法②	ジュニア期のコーディネーショントレーニング
第11回	ゲーム指導法	プレースタイル別の組立てと状況判断およびショットの選択
第12回	レッスンプログラムの作成	対象に応じた初心者の指導計画とプログラムの立案
第13回	レッスンプログラムの作成、実践と安全管理	対象に応じた初級者の指導計画とプログラムの立案、実践とコート上での安全管理
第14回	実技テスト、ルールテスト、	テニス指導員検定試験対策

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」を読み、テニスのルール、マナー、技術、指導法などを事前に学習し、予備知識を高める。全仏、全英、全米オープン、ATPツアーのTV中継を見て、世界のテニスに関心を持つ。

## 【テキスト（教科書）】

「新版 テニス指導教本」日本テニス協会  
「JTA テニスルールブック」日本テニス協会  
また、必要に応じて授業中に資料を配布します。

## 【参考書】

「テニスマガジン」「スマッシュ」「テニスクラシック」等の月刊テニス専門誌

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢、授業態度など平常点の総合評価（80%）ならびに実技テスト、指導法テスト、ルールテスト、課題レポートの評価（20%）と対象として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テニス指導員資格取得の検定試験における、模擬レッスンの詳細については丁寧に指導します。

## 【その他の重要事項】

本科目は、テニス競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル又は、全日本ジュニア選手権出場レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

「スポーツ実習（テニス）Ⅰ/専修実習（テニス）Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

日本テニス協会の実技検定試験は卒業年度に行う。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（テニス）Ⅱ」となります。

## スポーツ実習（テニス）Ⅲ/専修実習（テニス）Ⅲ

植村 直己

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニス競技指導者・コーチ・教師を視野に入れ、テニス指導法とテニスに関する知識を学び、日本体育協会公認の「テニス指導員」資格取得を目的とする。

また、テニス指導員資格を取得することで、将来テニスの普及活動や選手の育成・強化に携わることができる、「上級指導員」「教師」「上級教師」「コーチ」「上級コーチ」など、更に上位の資格取得の可能性を広げられることも目標とする。

## 【到達目標】

- ①上級者指導法の基本を授業で学習する。
- ②デモンストレーション、練習ドリルを学び、レッスンプログラムを作成し実践できるようにする。
- ③ルール、マナー、審判法、歴史その他テニスの知識を高める。
- ④検定試験に合格できるようにする。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のテニス指導員資格取得に向けて、初心者から上級者まで各段階における指導法、デモンストレーション方法や実技指導法をコート上で学習する。

また、室内にて講義を行い、ルール、歴史、マナーその他テニスの知識と上級者用の戦術・戦略等を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	上級者指導計画の立案、実践、評価	上級者指導法
第2回	フォアハンドストローク	上級者指導法 基礎技術
第3回	バックハンドストローク	上級者指導法 基礎技術
第4回	テニスの歴史、ルール	テニスの歴史、ルール、マナー、フェアプレーについて学ぶ
第5回	ボレー、スマッシュ	上級者指導法 基礎技術
第6回	サービスとレシーブ	上級者指導法 基礎技術
第7回	シングルの練習ドリル	上級者指導法 応用技術
第8回	ダブルスの練習ドリル	上級者指導法 応用技術
第9回	シングルの戦術	上級者指導法 シングルスゲーム形式
第10回	ダブルスの戦術	上級者指導法 ダブルスゲーム形式
第11回	フィーディング技術と練習ドリル	上級者指導法 応用技術
第12回	テニスのトレーニング法（応用編）	上級者向けの体力作り指導法
第13回	テニスのメンタルトレーニング	上級者指導法 スポーツ心理学
第14回	ゲーム分析とその評価	上級者指導法 指導者としての資質向上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」を読み、テニスのルール、マナー、技術、指導法などを事前に学習し、予備知識を高める。全仏、全英、全米オープン、ATPツアー等のTV中継を見て、世界のテニスに関心を持つ。

## 【テキスト（教科書）】

「新版 テニス指導教本」日本テニス協会  
「JTA テニスルールブック」日本テニス協会  
また、必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

「テニスマガジン」「スマッシュ」「テニスクラシック」等の月刊テニス専門誌

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢、授業態度など平常点の総合評価（80%）ならびに、実技テスト、指導法テストの評価（20%）を対象として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

DVD映像により世界のトップ選手のプレーを学習する。

## 【その他の重要事項】

本科目は、テニス競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル又は全日本ジュニア選手権に出場レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

「スポーツ実習（テニス）Ⅰ/専修実習（テニス）Ⅰ」の単位を修得済であることが望ましい。

日本テニス協会の実技検定試験は卒業年度に行う。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（テニス）Ⅲ」となります。

## スポーツ実習（テニス）Ⅳ/専修実習（テニス）Ⅳ

植村 直己

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニス競技指導者・コーチ・教師を視野に入れ、テニス指導法とテニスに関する知識を学び、日本体育協会公認の「テニス指導員」資格取得を目的とする。

また、テニス指導員資格を取得することで、将来テニスの普及活動や選手の育成・強化に携わることができる、「上級指導員」「教師」「上級教師」「コーチ」「上級コーチ」など、更に上位の資格取得の可能性を広げることも目標とする。

## 【到達目標】

- ① トップ選手育成のための指導法を授業で学習する。
- ② デモンストレーション、練習ドリルを学び、レッスンプログラムを作成し実践できるようにする。
- ③ ルール、マナー、審判法、歴史その他テニスの知識を高める。
- ④ 検定試験に合格できるようにする。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のスポーツ指導員資格取得に向けて、初級からトップ選手まで各段階における指導法、デモンストレーション方法や実技指導法をコート上で学習する。

その他、室内にて講義を行い、ルール、歴史、マナーその他テニスの知識とトップ選手用の戦術・戦略を学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	選手育成指導法	指導者としての国際知識を高める 国際競技力に関する情報と分析
第2回	ベースラインプレーⅠ	選手指導法・応用技術 ボールコントロールの重要性
第3回	ベースラインプレーⅡ	選手指導法・応用技術 フットワークの技術
第4回	ネットプレーⅠ	選手指導法・応用技術 ボレー、スマッシュの強化練習
第5回	ネットプレーⅡ	選手指導法・応用技術 アプローチ&ボレー
第6回	サービス攻撃法	選手指導法・応用技術
第7回	レシーブ攻撃法	選手指導法・応用技術
第8回	シングルの戦術Ⅰ	選手指導法・試合形式
第9回	シングルの戦術Ⅱ (ビデオの活用)	選手指導法・試合形式
第10回	ダブルスの戦術Ⅰ	選手指導法・試合形式
第11回	ダブルスの戦術Ⅱ (ビデオの活用)	選手指導法・試合形式
第12回	選手育成の体力トレーニング	体力トレーニング・基礎知識の学習と実践
第13回	選手育成のための練習ドリル	選手指導法・効果的練習ドリルの実践
第14回	メンタルトレーニング	選手指導法・スポーツ心理学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」を読み、テニスのルール、マナー、技術、指導法などを事前に学習し、知識を高める。全仏、全英、全米オープン、ATPツアー等のTV中継を見て、世界のテニスに関心を持つ。

## 【テキスト（教科書）】

「新版 テニス指導教本」日本テニス協会  
「JTA テニスルールブック」日本テニス協会  
また、必要に応じて授業中に資料を配布します。

## 【参考書】

「テニスマガジン」「スマッシュ」「テニスクラシック」等の月刊テニス専門誌

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢、授業態度など平常点の総合評価（80%）ならびに実技テスト、指導法テストの評価（20%）を対象として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

DVD映像により世界のトップ選手のプレーを学習する。

## 【その他の重要事項】

本科目は、テニス競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル又は全日本ジュニア選手権に出場レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

「スポーツ実習（テニス）Ⅱ/専修実習（テニス）Ⅱ」の単位を修得済みであることが望ましい。

日本テニス協会の実技検定試験は卒業年度に行う。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（テニス）Ⅳ」となります。

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サッカー競技の指導者としての視点から、トップアスリートに必要な基礎知識習得を授業のテーマとする。

学生が指導法やトップアスリートに必要な基礎を理解し、様々な見識をサッカーでの実践に活かせるようになることを目指す。

**【到達目標】**

サッカー選手として必要な技術・戦術・フィジカル・メンタルを身につけると同時に指導法を習得する。

効果的なトレーニングの構築と指導法を説明・解説できる。

**【授業の進め方と方法】**

実技を主体とするが、講義やディスカッションを交えてスキルの習得を目指し、指導法についても理解を深める。必要に応じてビデオ機器を使用する。

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	選手・指導者である前に一人間としての自覚と振る舞いの重要性を学ぶ
第2回	スキルアップ①	基本技術Ⅰ（実技）1対1の重要性
第3回	スキルアップ②	基本技術Ⅱ（実技）1対1の重要性
第4回	声の重要性	コミュニケーションの重要性・・・コーチング（実技）
第5回	スキルアップ③	パス&サポート（実技）
第6回	ボール保持	ボールポゼッションⅠ（実技）
第7回	ボール奪取	ボールポゼッションⅡ（実技）
第8回	スキルアップ④	守備の個人戦術（実技）
第9回	スキルアップ⑤	攻撃の個人戦術（実技）
第10回	守備の戦術トレーニング①	ボールを奪う（個人・グループ）（実技）
第11回	攻撃の戦術トレーニング②	ゴールを奪う（個人・グループ）（実技）
第12回	攻撃のグループ戦術	コンビネーションプレー（実技）
第13回	レベルアップトレーニング①	スモールサイドゲーム（実技）
第14回	レベルアップトレーニング②	ハーフコートゲーム（実技）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

シラバスに掲載の内容を毎回予習してくること。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

- (1)(公) 日本サッカー協会サッカー指導教本
- (2)21世紀のサッカー選手育成法(大修館書店)

**【成績評価の方法と基準】**

参画態度による平常点 50%、実技テスト 50%で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

基礎知識がまず重要だが、学生自身がプレーしている映像や、世界のトッププレイヤーの映像を使つての授業がイメージを共有しやすいという意見があり、適宜活用していきたい。

**【その他の重要事項】**

本科目は、サッカー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習の内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（サッカー）Ⅱ」も履修することが望ましい。

≪ 受講についての注意 ≫

## スポーツ実習（サッカー）Ⅱ/専修実習（サッカー）Ⅱ

長山 一也

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の指導者としての視点から、トップアスリートに必要な基礎知識習得を授業のテーマとする。

学生が指導法やトップアスリートに必要な基礎を理解し、様々な見識をサッカーでの実践に活かせるようになることを目指す。

## 【到達目標】

サッカー選手として必要な技術・戦術・フィジカル・メンタルを身につけると同時に指導法を習得する。

効果的なトレーニングの構築と指導法を説明・解説できる。

## 【授業の進め方と方法】

実技を主体とするが、講義やディスカッションを交えてスキルの習得を目指し、指導法についても理解を深める。必要に応じてビデオ機器を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ボールを使つてのフィジカルトレーニングの必要性
第2回	プレッシング	守備の応用（スモールフィールド）（実技）
第3回	素早い攻撃	攻撃の応用（チェンジサイド・ショートカウンター）（実技）
第4回	レベルアップトレーニング①	個人戦術（メーカースペース）
第5回	レベルアップトレーニング②	ハーフコートゲーム（実技）
第6回	リスタートの攻守	C K・F K・スローイン
第7回	レベルアップトレーニング③	攻守の切り替え（アタック&ディフェンス）（実技）
第8回	レベルアップトレーニング④	グループ戦術・ゲームⅠ（実技）
第9回	レベルアップトレーニング⑤	グループ戦術・ゲームⅡ（実技）
第10回	専門的なプレー	ゴールキーピング（実技）
第11回	レベルアップトレーニング⑥	総合トレーニングⅠ（実技）
第12回	レベルアップトレーニング⑦	総合トレーニングⅡ（実技）
第13回	レベルアップトレーニング⑧	ゲームの実践Ⅰ（実技）
第14回	レベルアップトレーニング⑨	ゲームの実践Ⅱ（実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに掲載の内容を毎回予習してくること。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

- (1)(公) 日本サッカー協会指導教本
- (2) サッカー勝利への技術・戦術（大修館書店）
- (3) サッカーのコーディネーショントレーニング（大修館書店）
- (4) 21世紀のサッカー選手育成法（大修館書店）
- (5) 日本サッカー協会技術委員会監修及び関連発行物

## 【成績評価の方法と基準】

参画態度による平常点 50%、実技テスト 50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識がまず重要だが、学生自身がプレーしている映像や、世界のトッププレイヤーの映像を使つての授業がイメージを共有しやすいという意見があり、適宜活用していきたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、サッカー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習の内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。なお、受講上「スポーツ実習（サッカー）Ⅰ」から履修することが望ましい。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（サッカー）Ⅱ」となります。

## スポーツ実習（サッカー）Ⅲ/専修実習（サッカー）Ⅲ

長山 一也

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の指導者としての視点から、トップアスリートに必要な基礎知識習得を授業のテーマとする。

学生が指導法やトップアスリートに必要な基礎を理解し、様々な見識をサッカーでの実践に活かせるようになることを目指す。

## 【到達目標】

サッカー選手として必要な技術・戦術・フィジカル・メンタルを身につけると同時に指導法を習得する。

効果的なトレーニングの構築と指導法を説明・解説できる。

## 【授業の進め方と方法】

実技を主体とするが、講義やディスカッションを交えてスキルの習得を目指し、指導法についても理解を深める。必要に応じてビデオ機器を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	選手・指導者である前に一人間としての自覚と振る舞いの重要性を学ぶ
第2回	スキルアップ①	基本技術Ⅲ（実技）
第3回	スキルアップ②	基本技術Ⅳ（実技）
第4回	レベルアップトレーニング①	トップアスリートのコミュニケーション
第5回	レベルアップトレーニング②	フィジカルトレーニング（アジリティの重要性）（実技）
第6回	レベルアップトレーニング③	パス&ムーブ（実技）
第7回	レベルアップトレーニング④	ボールポゼッションⅡ（実技）
第8回	レベルアップトレーニング⑤	メンタルトレーニング
第9回	レベルアップトレーニング⑥	攻撃の個人戦術Ⅱ（実技）
第10回	レベルアップトレーニング⑦	守備の個人戦術Ⅱ（実技）
第11回	攻撃的なサッカー	ゴールを奪う（リスクの考え方）（実技）
第12回	守備的なサッカー	ボールを奪う（グループ・チーム）（実技）
第13回	切り替えに瞬間	アタック&ディフェンス（実技）
第14回	レベルアップトレーニング⑧	スモールフィールドでの攻守（実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに掲載の内容を毎回予習してくること。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

- (公) 日本サッカー協会サッカー指導教本
- 21世紀のサッカー選手育成法 (大修館書店)
- サッカー勝利への技術・戦術 (大修館書店)
- サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

## 【成績評価の方法と基準】

参画態度による平常点 50%、実技テスト 50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識がまず重要だが、学生自身がプレーしている映像や、世界のトッププレイヤーの映像を使っただけの授業がイメージを共有しやすいという意見があり、適宜活用していきたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、サッカー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習の内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（サッカー）Ⅳ」も履修することが望ましい。

≪ 受講についての注意 ≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（サッカー）Ⅲ」となります。

## スポーツ実習（サッカー）Ⅳ/専修実習（サッカー）Ⅳ

長山 一也

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の指導者としての視点から、トップアスリートに必要な基礎知識習得を授業のテーマとする。

学生が指導法やトップアスリートに必要な基礎を理解し、様々な見識をサッカーでの実践に活かせるようになることを目指す。

## 【到達目標】

サッカー選手として必要な技術・戦術・フィジカル・メンタルを身につけると同時に指導法を習得する。

効果的なトレーニングの構築と指導法を説明・解説できる。

## 【授業の進め方と方法】

実技を主体とするが、講義やディスカッションを交えてスキルの習得を目指し、指導法についても理解を深める。必要に応じてビデオ機器を使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ボールを使つてのフィジカルトレーニングの必要性
第2回	レベルアップトレーニング①	攻撃のグループ戦術（実技）
第3回	レベルアップトレーニング②	攻撃の応用（サイドチェンジからの突破）（実技）
第4回	レベルアップトレーニング③	守備のグループ戦術（実技）
第5回	レベルアップトレーニング④	守備の応用（スモールフィールドに追い込んだボール奪取）（実技）
第6回	リスタートの攻守	C K・F K・スローイン（サインプレー）
第7回	レベルアップトレーニング⑤	アタック&ディフェンス（フルコート）
第8回	レベルアップトレーニング⑥	グループ戦術とゲームⅠ（コンビネーション）（実技）
第9回	レベルアップトレーニング⑦	グループ戦術とゲームⅡ（チェイシングからボール奪取）（実技）
第10回	レベルアップトレーニング⑧	ゴールキーパーとのコンビネーション（実技）
第11回	レベルアップトレーニング⑨	総合トレーニング（実技）（攻撃主体）
第12回	レベルアップトレーニング⑩	総合トレーニング（実技）（守備主体）
第13回	レベルアップトレーニング⑪	ゲーム
第14回	レベルアップトレーニング⑫	ゲーム（前回のゲームでの課題を修正する）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに掲載の内容を毎回予習してくる。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

- (公)日本サッカー協会指導教本
- サッカー勝利への技術・戦術（大修館書店）
- サッカーのコーディネーショントレーニング（大修館書店）
- 21世紀のサッカー選手育成法（大修館書店）

## 【成績評価の方法と基準】

参画態度による平常点 50%、実技テスト 50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識がまず重要だが、学生自身がプレーしている映像や、世界のトッププレイヤーの映像を使つての授業がイメージを共有しやすいという意見があり、適宜活用していきたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、サッカー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習の内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。本科目を受講する場合、「スポーツ実習（サッカー）Ⅱ」の単位を修得済みであることが受講のための前提条件となる。なお、受講上「スポーツ実習（サッカー）Ⅲ」から履修することが望ましい。

≪受講についての注意≫

2014年度以前入学者が履修する場合、「専修実習（サッカー）Ⅳ」となります。

## スポーツ実習（バドミントン）Ⅰ

升 佑二郎

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、バドミントン指導法を学び、資格取得を目指す。

取得可能資格、公認バドミントン指導員（バドミントン4級）  
また、バドミントン指導員の資格を取得することで、さらに下記の資格取得の可能性が広がります。

（上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）

## 【到達目標】

公認バドミントン指導員（バドミントン4級）の資格を取得することを目指し、同時に日本バドミントン協会公認審判資格（3級）を学習し取得しなければならない、さらにバドミントン指導員の資格を取得することで下記の資格取得の可能性が広がります。

（上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のバドミントン指導員取得に向けて、指導者としてバドミントンを教える為に必要な基礎知識、技術論を習得する。又バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク技術、フットワーク、ノック技術等、実技を中心にコート上で学習して行く。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス バドミントン概論	（講義）バドミントンの特性・生涯スポーツとバドミントン
第2回	バドミントン史	（講義）『世界編』『日本編』バドミントンの起源と発展
第3回	バドミントン技術論	（講義・実技）『初級編』グリップの握り方からサイドアーム
第4回	バドミントン技術論	（講義・実技）『中級編』オーバーヘッドストロークの打法
第5回	バドミントン技術論	（講義・実技）『上級編』ダブルスゲームのローテーション
第6回	バドミントン競技指導論	（講義・実技）『ジュニア編』（成長に応じた指導法）
第7回	バドミントン競技指導論	（講義・実技）『シニア編』（上達に応じた指導法）
第8回	バドミントン・トレーニング論	（実技）『導入編』（バドミントンのトレーニング計画）
第9回	バドミントン・トレーニング論	（実技）『応用編』（バドミントントレーニングの実際）
第10回	バドミントン・コーチ論	（講義・実技）対象に応じたバドミントンの指導法
第11回	バドミントン・コーチ論	（講義・実技）バドミントン戦術の指導と事例の研究
第12回	バドミントンゲームの分析『シングルス編』	（講義・実技）『シングルス編』
第13回	バドミントンゲームの分析『ダブルス編』	（講義・実技）『ダブルス編』
第14回	理論及び実技試験	試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者としてバドミントンを教える為には、自分自身が技術力を身に付けなければならない。その為の学習方法として重要な事は、予習や復習での反復練習である。授業時間内での習得だけでなく授業後に地域スポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

## 【参考書】

「バドミントン教本」（財）日本バドミントン協会編  
「バドミントンの指導論Ⅰ」 日本バドミントン指導者連盟  
「バドミントン競技規則」（財）日本バドミントン協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・講義内容テスト・実技テスト・指導法テストにより評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき記載なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バドミントン競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

## スポーツ実習（バドミントン）Ⅱ

升 佑二郎

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、バドミントン指導法を学び、資格取得を目指す。

## 【到達目標】

公認バドミントン指導員（バドミントン4級）の資格を取得することを目指し、同時に日本バドミントン協会公認審判資格（3級）を学習し取得しなければならない、さらにバドミントン指導員の資格を取得することで下記の資格取得の可能性が広がります。

（上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のバドミントン指導員取得に向けて、指導者としてバドミントンを教える為に必要な基礎知識、技術論を習得する又バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク技術、フットワーク、ノック技術等、実技を中心にコート上で学習して行く。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術及び実践技術	グリップワークの技術習得
第2回	基本技術及び実践技術	ラケットテクニックの技術習得
第3回	基本技術及び実践技術	基本ストローク ドライブ
第4回	基本技術及び実践技術	基本ストローク ハイクリア
第5回	基本技術及び実践技術	基本ストローク ドロップ&レシーブ
第6回	基本技術及び実践技術	基本ストローク プッシュ&レシーブ
第7回	基本技術及び実践技術	基本ストローク スマッシュ&レシーブ
第8回	基本技術及び実践技術	基本ストローク ヘアピンショット総合
第9回	基本技術及び実践技術	応用編 オールロング
第10回	基本技術及び実践技術	応用編 オールショート
第11回	基本技術及び実践技術	シングルスゲームの組立
第12回	基本技術及び実践技術	ダブルスのフォーメーション
第13回	基本技術及び実践技術	ダブルスゲームの組立
第14回	理論及び実技試験	試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者としてバドミントンを教える為には、自分自身が技術力を身に付けなければならない。その為の学習方法として重要な事は、予習や復習での反復練習である。

授業時間内での習得だけでなく授業後に地域スポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

## 【参考書】

「バドミントン教本」（財）日本バドミントン協会編  
「バドミントンの指導論Ⅰ」 日本バドミントン指導者連盟  
「バドミントン競技規則」（財）日本バドミントン協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・講義内容テスト・実技テスト・指導法テストにより評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき記載なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バドミントン競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

## スポーツ実習（バドミントン）Ⅲ

升 佑二郎

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、バドミントン指導法を学び、資格取得を目指す。

## 【到達目標】

公認バドミントン指導員（バドミントン4級）の資格を取得することを目指し、同時に日本バドミントン協会公認審判資格（3級）を学習し取得しなければならない、さらにバドミントン指導員の資格を取得することで下記の資格取得の可能性が広がります。

（上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のバドミントン指導員取得に向けて、指導者としてバドミントンを教える為に必要な基礎知識、技術論を習得する。又バドミントン指導者として身に着なければならぬ基本ストローク技術、フットワーク、ノック技術等、実技を中心にコート上で学習して行く。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 ガイダンス バドミントン概論	講義（バドミントンの特性・生涯スポーツとバドミントン）
第2回	中・上級者指導法 バドミントン史	（講義）バドミントンの起源と発展 『世界編』『日本編』
第3回	中・上級者指導法 バドミントン技術論	（講義・実技）『初級編』グリップの握り方からサイドアーム
第4回	中・上級者指導法 バドミントン技術論	（講義・実技）『中級編』オーバーヘッドストロークの打法
第5回	中・上級者指導法 バドミントン技術論	（講義・実技）『上級編』ダブルスゲームのローテーション
第6回	中・上級者指導法 バドミントン競技指導論	（講義・実技）『ジュニア編』（成長に応じた指導法）
第7回	中・上級者指導法 バドミントン競技指導論	（講義・実技）『シニア編』（上達に応じた指導法）
第8回	中・上級者指導法 バドミントン・トレーニング論	（実技）『導入編』（バドミントンのトレーニング計画）
第9回	中・上級者指導法 バドミントン・トレーニング論	（実技）『応用編』（バドミントントレーニングの実際）
第10回	中・上級者指導法 バドミントン・コーチ論	（講義・実技）対象に応じたバドミントンの指導法
第11回	中・上級者指導法 バドミントン・コーチ論	（講義・実技）バドミントン戦術の指導と事例の研究
第12回	中・上級者指導 バドミントンゲームの分析	（講義・実技）『シングルス編』
第13回	中・上級者指導 バドミントンゲームの分析	（講義・実技）『ダブルス編』
第14回	理論及び実技試験	試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者としてバドミントンを教える為には、自分自身が技術力を身に付けなければならない。その為の学習方法として重要な事は、予習や復習での反復練習である。授業時間内での習得だけでなく授業後に地域スポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

## 【参考書】

「バドミントン教本」（公）日本バドミントン協会編  
「バドミントンの指導論Ⅰ」（公）日本バドミントン指導者連盟  
「バドミントン競技規則」（公）日本バドミントン協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・講義内容テスト・実技テスト・指導法テストにより評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき記載なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バドミントン競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

スポーツ実習（バドミントン）Ⅰを修得していなければ、履修できません。

## スポーツ実習（バドミントン）Ⅳ

升 佑二郎

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、バドミントン指導法を学び、資格取得を目指す。

## 【到達目標】

公認バドミントン指導員（バドミントン4級）の資格を取得することを目指し、同時に日本バドミントン協会公認審判資格（3級）を学習し取得しなければならない、さらにバドミントン指導員の資格を取得することで下記の資格取得の可能性が広がります。

（上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認のバドミントン指導員取得に向けて、指導者としてバドミントンを教える為に必要な基礎知識、技術論を習得する又バドミントン指導者として身に着なければならぬ基本ストローク技術、フットワーク、ノック技術等、実技を中心にコート上で学習して行く。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 応用実践技術	グリップワークの技術習得
第2回	中・上級者指導法 応用実践技術	ラケットテクニクの技術習得
第3回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク ドライブ
第4回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク ハイクリア
第5回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク ドロップ&レシーブ
第6回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク プッシュ&レシーブ
第7回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク スマッシュ&レシーブ
第8回	中・上級者指導法 応用実践技術	基本ストローク ヘアピンショット総合
第9回	中・上級者指導法 応用実践技術	応用編 オールロング
第10回	中・上級者指導法 応用実践技術	応用編 オールショート
第11回	中・上級者指導法 応用実践技術	フットワーク
第12回	中・上級者指導法 応用実践技術	シングルスゲームの組立
第13回	中・上級者指導法 応用実践技術	ダブルスゲームの組立
第14回	理論及び実技試験	試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者としてバドミントンを教える為には、自分自身が技術力を身に付けなければならない。その為の学習方法として重要な事は、予習や復習での反復練習である。授業時間内での習得だけでなく授業後に地域スポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

## 【参考書】

「バドミントン教本」（公）日本バドミントン協会編  
「バドミントンの指導論Ⅰ」（公）日本バドミントン指導者連盟  
「バドミントン競技規則」（公）日本バドミントン協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・講義内容テスト・実技テスト・指導法テストにより評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき記載なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本科目は、バドミントン競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

スポーツ実習（バドミントン）Ⅱを修得していなければ、履修できません。

HSS133LB

## スポーツ実習（水泳）Ⅰ

八塚 明憲

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、水泳指導法を学び、資格取得を目指す。

取得可能資格:公認水泳指導員

また、水泳指導員の資格を取得することで、更に下記の資格取得の可能性も広がります。(上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)

### 【到達目標】

指導員として自信を持って指導できる基礎知識、練習方法を学び、実際に子供・大人を問わず指導できる指導を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認の水泳指導員取得に向けて、指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習し、各種目における適切な泳法の誤り、指導法について学習して行く。講義ではDVDの映像使用。実技ではビデオカメラ(水上・水中)映像による確認。ビート板・パドル・足ひれ・シュノーケル等の実技練習用具も使用する。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 水泳の特性	講義(水泳の意義・特性・生涯スポーツと水泳)
第2回	水泳の歴史	講義(水泳の起源と発展・日本の水泳、世界の水泳)
第3回	水泳技術の構造①	講義(運動原理・ストローク・メカニクス)
第4回	水泳技術の構造②	講義(生理学的要因・心理学的要因)
第5回	水泳指導法の基本①	講義(対象に応じた指導内容と技術指導・指導法・技術水準別指導)
第6回	水泳指導法の基本②	講義(対象に応じた指導内容と技術指導・年齢別指導・目的別指導・水泳場別指導)
第7回	基礎技術及び実践技術①	(実技)自由形
第8回	基礎技術及び実践技術②	(実技)背泳ぎ
第9回	基礎技術及び実践技術③	(実技)平泳ぎ
第10回	基礎技術及び実践技術④	(実技)バタフライ
第11回	基礎技術及び実践技術⑤	(実技)個人メドレー
第12回	日本泳法①	(実技)①横泳ぎ
第13回	日本泳法②	(実技)②横泳ぎ
第14回	基礎技術及び実践技術⑥	(実技)自由形・背泳ぎ スタート、ターン含む

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者として一般教養はもとより水泳の技術及び指導に関する学習は予習と復習から成り立っている。授業の前に、準備し授業の後に反省し、次の指導に役立つ準備をしておく事が大切である。

### 【テキスト（教科書）】

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳指導教本』（大修館）

公益財団法人日本水泳連盟編『安全水泳』（大修館）

### 【参考書】

ベースボールマガジン社「スイミングマガジン」

日本水泳連盟「月刊水泳」

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参画(40%)・講義内容テスト(20%)・実技テスト(20%)・指導法テスト(20%)により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識だけでなく、新しい発見や取り組みに興味がもてるような授業にして行く。新しい練習方法や過去の泳ぎと今の泳ぎの違い、変わる事のない安全重視の指導について学べるようにして行く。

### 【その他の重要事項】

本科目は、水泳競技において高い専門的競技能力(おおよそ全国大会入賞レベル)を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

また、受講上「スポーツ実習(水泳)Ⅱ」も履修することが望ましい。

HSS134LB

## スポーツ実習（水泳）Ⅱ

八塚 明憲

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、水泳指導法を学び、資格取得を目指す。

取得可能資格:公認水泳指導員

また、水泳指導員の資格を取得することで、更に下記の資格取得の可能性も広がります。(上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)

### 【到達目標】

指導員として自信を持って指導できる基礎知識・練習方法を学び、実際に子供・大人を問わず指導できる指導を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認の水泳指導員取得に向けて、指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習し、各種目における適切な泳法の誤り、指導法について学習して行く。講義ではDVDの映像使用。実技ではビデオカメラ(水上・水中)映像による確認。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎技術及び実践技術⑧	(実技)自由形・背泳ぎ
第2回	基礎技術及び実践技術⑨	(実技)平泳ぎ・バタフライ
第3回	基礎技術及び実践技術⑩	(実技)個人メドレー・4種目のスタート、ターン
第4回	基礎技術及び実践技術⑪	(実技)100m個人メドレー・タイム/立ち泳ぎ
第5回	水泳の管理と安全対策①	(講義)水泳事故(事故と指導者の責任、事故と補償)
第6回	水泳の管理と安全対策②	(講義)水泳の管理、環境整備、用具の管理、水泳と保健(健康と衛生管理、傷害と応急手当)
第7回	水泳の管理と安全対策③	(講義)事故と判例・補償・準備・整理運動・プール衛生基準
第8回	個人・集団の指導実習①	(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第9回	個人・集団の指導実習②	(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第10回	個人・集団の指導実習③	(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第11回	個人・集団の指導実習④	(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第12回	水泳競技の規則と審判法	(講義)競泳競技を中心に
第13回	現場における心肺蘇生法①	(実技)救助法・溺者の発見・対応・心得・救助方法・離脱法
第14回	現場における心肺蘇生法②	(実技)蘇生法・留意事項・範囲・調査、処置の手順

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者として一般教養はもとより水泳の技術及び指導に関する学習は予習と復習から成り立っている。授業の前に、準備し授業の後に反省し、次の指導に役立つ準備をしておく事が大切である。

### 【テキスト（教科書）】

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳指導教本』（大修館）

公益財団法人日本水泳連盟編『安全水泳』（大修館）

### 【参考書】

ベースボールマガジン社「スイミングマガジン」

日本水泳連盟「月刊水泳」

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参画(40%)・講義内容テスト(20%)・実技テスト(20%)・指導法テスト(20%)により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識だけでなく、新しい発見や取り組みに興味が持てるような授業にして行く。新しい練習方法や過去の泳ぎと今の泳ぎの違い、変わる事のない安全重視の指導について学べるようにして行く。

### 【その他の重要事項】

本科目は、水泳競技において高い専門的競技能力(おおよそ全国大会入賞レベル)を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

なお、受講上「スポーツ実習(水泳)Ⅰ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（水泳）Ⅲ

八塚 明憲

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、水泳指導法を学び、資格取得を目指す。

取得可能資格:公認水泳指導員

また、水泳指導員の資格を取得することで、更に下記の資格取得の可能性も広がります。(上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)

## 【到達目標】

指導員として一般指導は勿論、選手の指導についても十分な知識、練習方法を学ぶが決して安全第一を忘れない指導を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認の水泳指導員取得に向けて、指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習し、各種目における適切な泳法、指導法について学習して行く。講義ではDVDの映像使用。実技ではビデオカメラ(水上・水中)映像による確認。ビート板・パドル・足ひれ・シュノーケル等の実技練習用具も使用する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 ガイダンス 水泳の特性	講義(水泳の意義・特性・生涯スポーツと水泳)
第2回	中・上級者指導法 水泳の歴史	講義(水泳の起源と発展・日本の水泳)
第3回	中・上級者指導法 水泳技術の構造①	講義(運動原理・ストローク・メカニクス)
第4回	中・上級者指導法 水泳技術の構造②	講義(生理学的要因・心理学的要因)
第5回	中・上級者指導法 指導法の実用①	講義(対象に応じた指導内容と技術指導・指導法・技術水準別指導)
第6回	中・上級者指導法 指導法の実用②	講義(対象に応じた指導内容と技術指導・年齢別指導・目的別指導・水泳場別指導)
第7回	中・上級者指導法 実践技術①	応用(実技)自由形
第8回	中・上級者指導法 実践技術②	応用(実技)背泳ぎ
第9回	中・上級者指導法 実践技術③	応用(実技)平泳ぎ
第10回	中・上級者指導法 実践技術④	応用(実技)バタフライ
第11回	中・上級者指導法 実践技術⑤	応用(実技)個人メドレー
第12回	中・上級者指導法 泳法①	日本(実技)①横泳ぎ
第13回	中・上級者指導法 泳法②	日本(実技)②横泳ぎ
第14回	中・上級者指導法 実践技術⑥	応用(実技)自由形・背泳ぎ スタート、ターン含む

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者として一般教養はもとより水泳の技術及び指導に関する学習は予習と復習から成り立っている。

授業の前に、準備し授業の後に反省し、次の指導に役立つ準備をしておく事が大切である。

## 【テキスト（教科書）】

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳指導教本』（大修館）

公益財団法人日本水泳連盟編『安全水泳』（大修館）

## 【参考書】

ベースボールマガジン社「スイミングマガジン」

日本水泳連盟「月刊水泳」

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参画(40%)・講義内容テスト(20%)・実技テスト(20%)・指導法テスト(20%)により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識だけでなく、新しい発見や取り組みに興味をもてるような授業にして行く。

新しい練習方法や過去の泳ぎと今の泳ぎの違い、変わる事のない安全重視の指導について学べるようにして行く。

## 【その他の重要事項】

本科目は、水泳競技において高い専門的競技能力(おおよそ全国大会入賞レベル)を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習(水泳)Ⅰ」を修得していなければ、履修できません。また、受講上「スポーツ実習(水泳)Ⅳ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（水泳）Ⅳ

八塚 明憲

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本体育協会公認スポーツ指導員・コーチ・教師を視野に入れ、水泳指導法を学び、資格取得を目指す。

取得可能資格:公認水泳指導員

また、水泳指導員の資格を取得することで、更に下記の資格取得の可能性も広がります。(上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)

## 【到達目標】

指導員として一般指導は勿論、選手の指導についても十分な知識、練習方法を学ぶが決して安全第一を忘れない指導を身につける。

## 【授業の進め方と方法】

日本体育協会公認の水泳指導員取得に向けて、指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習し、各種目における適切な泳法、指導法について学習して行く。講義ではDVDの映像使用。実技ではビデオカメラ(水上・水中)映像による確認。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中・上級者指導法 実践技術⑤	応用(実技)自由形・背泳ぎ
第2回	中・上級者指導法 実践技術⑥	応用(実技)平泳ぎ・バタフライ
第3回	中・上級者指導法 実践技術⑦	応用(実技)個人メドレー・4種目のスタート、ターン
第4回	中・上級者指導法 実践技術⑧	応用(実技)100m個人メドレー・タイム/立ち泳ぎ
第5回	中・上級者指導法 水泳の管理と安全対策①	水泳(講義)水泳事故(事故と指導者の責任、事故と補償)
第6回	中・上級者指導法 水泳の管理と安全対策②	水泳(講義)水泳の管理、環境整備、用具の管理、水泳と保健(健康と衛生管理、傷害と応急手当て)
第7回	中・上級者指導法 水泳の管理と安全対策③	水泳(講義)事故と判例・補償・準備・整理運動・プール衛生基準
第8回	中・上級者指導法 個人・集団の指導実習①	個人(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第9回	中・上級者指導法 個人・集団の指導実習②	個人(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第10回	中・上級者指導法 個人・集団の指導実習③	個人(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第11回	中・上級者指導法 個人・集団の指導実習④	個人(実技)集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価
第12回	中・上級者指導法 水泳競技の規則と審判法	水泳(講義)競泳競技を中心に
第13回	中・上級者指導法 現場における心肺蘇生法①	現場(実技)救助法・溺者の発見・対応・心得・救助方法・離脱法
第14回	中・上級者指導法 現場における心肺蘇生法②	現場(実技)蘇生法・留意事項・範囲・調査、処置の手順

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導者として一般教養はもとより水泳の技術及び指導に関する学習は予習と復習から成り立っている。

授業の前に、準備し授業の後に反省し、次の指導に役立つ準備をしておく事が大切である。

## 【テキスト（教科書）】

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳指導教本』（大修館）

公益財団法人日本水泳連盟編『安全水泳』（大修館）

## 【参考書】

ベースボールマガジン社「スイミングマガジン」

日本水泳連盟「月刊水泳」

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参画(40%)・講義内容テスト(20%)・実技テスト(20%)・指導法テスト(20%)により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎知識だけでなく、新しい発見や取り組みに興味をもてるような授業にして行く。

新しい練習方法や過去の泳ぎと今の泳ぎの違い、変わる事のない安全重視の指導について学べるようにして行く。

## 【その他の重要事項】

本科目は、水泳競技において高い専門的競技能力(おおよそ全国大会入賞レベル)を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習(水泳)Ⅱ」を修得していなければ、履修できません。なお、受講上「スポーツ実習(水泳)Ⅲ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（陸上競技）Ⅰ

苅部 俊二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技コーチングの基礎学習

## 【到達目標】

陸上競技の公認陸上競技指導員・コーチ・教師を視野に陸上競技の指導法を学ぶ

## 【授業の進め方と方法】

陸上競技の競技者としてまた指導者として必要な理論とスキルを身につける。実際のトレーニングの中から走・跳・投の理論を学んでいく。また、映像や測定機器を使用し科学的な側面から学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 陸上競技の基礎理論	陸上競技の競技特性について理解を深める。
第2回	種目の特性に応じた基礎理論 発育発達を踏まえた競技者の育成	発育発達を踏まえた指導法について知識を深める。
第3回	種目の特性に応じた基礎理論 指導における各種理論	指導に必要な基礎的な理論を学ぶ。
第4回	種目の特性に応じた基礎理論 陸上競技の主なルール	陸上競技のルールを理解する。
第5回	種目の特性に応じた基礎理論 部活動の運営と地域クラブ	陸上競技部を運営していくための方策と地域クラブの運営について理解を深める。
第6回	走運動の実技指導法 1 短距離種目	短距離走の原理、方法、指導法を学ぶ。
第7回	走運動の実技指導法 2 中距離種目	中距離走の原理、方法、指導法を学ぶ。
第8回	走運動の実技指導法 3 長距離種目	長距離走の原理、方法、指導法を学ぶ。
第9回	走運動の実技指導法 4 ハードル種目	ハードル走の原理、方法、指導法を学ぶ。
第10回	跳躍競技の実技指導法 1 走幅跳	走幅跳の原理、方法、指導法を学ぶ。
第11回	跳躍競技の実技指導法 2 三段跳	三段跳の原理、方法、指導法を学ぶ。
第12回	跳躍競技の実技指導法 3 走高跳	走高跳の原理、方法、指導法を学ぶ。
第13回	跳躍競技の実技指導法 4 棒高跳	棒高跳の原理、方法、指導法を学ぶ。
第14回	投擲競技の実技指導法 1 砲丸投	砲丸投の原理、方法、指導法を学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習および次回授業についての予習

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 大修館  
陸上競技指導教本 種目別実技編 大修館

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高められる授業を目指す。

## 【その他の重要事項】

本科目は、陸上競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（陸上競技）Ⅱ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（陸上競技）Ⅱ

苅部 俊二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技コーチングの基礎学習

## 【到達目標】

陸上競技の公認陸上競技指導員・コーチ・教師を視野に陸上競技の指導法を学ぶ

## 【授業の進め方と方法】

陸上競技の競技者としてまた指導者として必要な理論とスキルを身につける。実際のトレーニングの中から走・跳・投の理論を学んでいく。また、映像や測定機器を使用し科学的な側面から学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投てき競技の実技指導法 3 円盤投	円盤投の原理、方法、指導法を学ぶ。
第2回	投てき競技の実技指導法 4 ハンマー投	ハンマー投げの原理、方法、指導法を学ぶ。
第3回	リレー競技の実技指導法 1 4×100 m R	4×100 m Rの原理、方法、指導法を学ぶ。
第4回	リレー競技の実技指導法 2 4×400 m R	4×400 m Rの原理、方法、指導法を学ぶ。
第5回	駅伝・ロードレースの実技指導法	駅伝・ロードレースの原理、方法、指導法を学ぶ。
第6回	競歩・ウォーキング実技指導法	競歩・ウォーキングの原理、方法、指導法を学ぶ。
第7回	実技指導演習 短距離・ハードル種目	短距離・ハードル種目の指導法についての演習
第8回	実技指導演習 中長距離種目	中長距離種目の指導法についての演習
第9回	実技指導演習 跳躍種目	跳躍種目の指導法についての演習
第10回	実技指導演習 投てき種目	投てき種目の指導法についての演習
第11回	個人指導実習 1	陸上競技の規則について理解し、審判員の資格、方法について学ぶ。
第12回	陸上競技の規則・審判法	陸上競技の規則について理解し、審判員の資格、方法について学ぶ。
第13回	陸上競技の医学・救急法・ドーピング	陸上競技に関する医学、救急法、ドーピングについて理解を深める。
第14回	陸上競技の安全管理（安全対策・競技場管理）	陸上競技における安全管理について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習および次回授業についての予習

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 大修館  
陸上競技指導教本 種目別実技編 大修館

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高められる授業を目指す。

## 【その他の重要事項】

本科目は、陸上競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。なお、受講上「スポーツ実習（陸上競技）Ⅰ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（陸上競技）Ⅲ

苅部 俊二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技コーチングの応用学習

## 【到達目標】

陸上競技の公認陸上競技指導員・コーチ・教師を視野に陸上競技の指導法を学ぶ

## 【授業の進め方と方法】

陸上競技の競技者としてまた指導者として必要な理論とスキルを身につける。実際のトレーニングの中から走・跳・投の理論を学んでいく。また、映像や測定機器を使用し科学的な側面から学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 陸上競技の特性	陸上競技種目の特性を学ぶ。
第2回	陸上競技における発育発達・運動生理学	発育発達の原理・運動生理学の理論を理解し、陸上運動における指導の方法について検討する。
第3回	陸上競技の指導のありかた 状況に応じた指導 コーチングスタイル	陸上競技の指導の在り方について、その指導哲学を学ぶ。
第4回	陸上競技の指導（コーチング） コーチングの原理・方法	陸上競技のコーチングの方法を心理的手法を取り入れながら理解を深める。
第5回	陸上競技のバイオメカニクス	陸上競技のバイオメカニクスについて理解を深める。
第6回	陸上競技の生化学 栄養学	陸上競技の個々のパフォーマンス向上に必要な食事を生化学的な側面から理解していく。
第7回	陸上競技のスポーツ障害	陸上競技に多い傷害を正しく理解し、その対処法、予防法を学ぶ。
第8回	陸上競技のスポーツ法規・ルール	陸上競技におけるスポーツ法規について理解を深める。
第9回	陸上競技とドーピング防止	ドーピングについての正しい知識を得る。
第10回	競技者育成プログラム 初中級者のプログラム （一貫指導）	競技者育成のためのトレーニング計画の立案方法について学習する。
第11回	競技者育成プログラム 上級者のプログラム （トップアスリート）	トップアスリート育成のためのトレーニング計画の立案方法について学習する。
第12回	練習計画の立案	期分け理論に基づいたトレーニングの立案法を学ぶ
第13回	実技指導法 応用実践技術 1 走競技 短距離走	短距離走の指導演習
第14回	実技指導法 応用実践技術 2 走競技 中長距離走	中長距離走の指導演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習および次回授業についての予習

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 大修館

陸上競技指導教本 種目別実技編 大修館

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高められる授業を目指す。

## 【その他の重要事項】

本科目は、陸上競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を習得できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（陸上競技）Ⅰ」を修得していなければ、履修できません。また、受講上「スポーツ実習（陸上競技）Ⅳ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（陸上競技）Ⅳ

苅部 俊二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技コーチングの応用学習

## 【到達目標】

陸上競技の公認陸上競技指導員・コーチ・教師を視野に陸上競技の指導法を学ぶ

## 【授業の進め方と方法】

陸上競技の競技者としてまた指導者として必要な理論とスキルを身につける。実際のトレーニングの中から走・跳・投の理論を学んでいく。また、映像や測定機器を使用し科学的な側面から学習する。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	実技指導法 応用実践技術 4 跳躍競技 走幅跳	走幅跳の指導演習
第2回	実技指導法 応用実践技術 5 跳躍競技 三段跳	三段跳の指導演習
第3回	実技指導法 応用実践技術 6 跳躍競技 走高跳	走高跳の指導演習
第4回	実技指導法 応用実践技術 7 跳躍競技 棒高跳	棒高跳の指導演習
第5回	実技指導法 応用実践技術 8 投てき競技 砲丸投	砲丸投の指導演習
第6回	実技指導法 応用実践技術 9 投てき競技 やり投	やり投の指導演習
第7回	実技指導法 応用実践技術 10 投てき競技 円盤投	円盤投の指導演習
第8回	実技指導法 応用実践技術 11 投てき競技 ハンマー投げ	ハンマー投げの指導演習
第9回	実技指導法 応用実践技術 12 リレー競技 4×100 m R	4×100 m Rの指導演習
第10回	実技指導法 応用実践技術 13 リレー競技 4×400 m R	4×400 m Rの指導演習
第11回	実技指導法 応用実践技術 14 駅伝・ロード	駅伝・ロードの指導演習
第12回	実技指導法 応用実践技術 15 ウォーキング・競歩	ウォーキング・競歩の指導演習
第13回	指導（練習）計画の立案・評価 個人のトレーニング法	個人のトレーニングのプログラムを作成し、実践、その評価を行う。
第14回	陸上競技指導実習 1 キッズの指導	キッズのトレーニングのプログラムを作成し、実践、その評価を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習および次回授業についての予習

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 大修館

陸上競技指導教本 種目別実技編 大修館

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高められる授業を目指す。

### 【その他の重要事項】

本科目は、陸上競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（陸上競技）Ⅱ」を修得していなければ、履修できません。なお、受講上「スポーツ実習（陸上競技）Ⅲ」から履修することが望ましい。

HSS141LB

## スポーツ実習（ラグビー）Ⅰ

苑田 右二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“知識＜吸収＞から見識＜行動＞力へ” 将来的な指導者としての必要な競技の総合的理論の理解とトップアスリートとして活躍できる競技力の向上。

### 【到達目標】

ラグビーフットボール選手として求められる心＜メンタル＞技＜スキル＞体＜フィジカル＞の個人力向上とユニットスキル修得によるチーム戦術の実戦。ゲームにおける応用＜意志疎通と自己判断＞力・創造＜閃き＞力の育成。

### 【授業の進め方と方法】

個人スキルの精密化、ミニ集団システムへの対応、専門ユニットスキルの修得、チーム戦術等TOPに応じた的確な判断力とスキルの一体化。プラス臨機応変、自由自在な創造性発揮による主体的実戦力に必要な理論的理解の講義と基礎技術の修得&実戦訓練。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ラグビーフットボール競技の誕生と歴史背景を調べ競技者としての誇りを持つ。
2	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞基本スキルⅠ	DVD映像にてイメージ作り＜ショーパス、ミドルパス、ワイドパス等＞
3	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞基本スキルⅡ	2対1、3対2＜ラストパス精度＝コミュニケーション（発信・受信）＞
4	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞基本スキルⅢ	3本の矢＜ライン参加＞＜カットイン・カットアウト＞使い分け戦術
5	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞基本スキルⅣ	3本の矢＜縦と横＞＜ループパス・ゲートパス・クロスパス等＞使い分け戦術
6	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞総合的スキルⅠ	タッチフットボール＜ミニコート、ハーフコートにて対戦形式＞
7	ハンドリング＜パス&キャッチングスピード＞総合的スキルⅡ	クルセーダースボール＜パス回数指定による実戦形式の連続攻撃＞
8	キッキング基本スキルⅠ	DVD映像にてイメージ作り＜キック活用のメリット&リスクの理解＞
9	キッキング基本スキルⅡ	グラバーキック、パントキック、ロングキック各種
10	キッキング基本スキルⅢ	キック&キャッチング＜キックパスorキックチェイスディフェンス＞
11	キッキング総合スキルⅠ	キックゲーム＜左右揺さぶり&地域支配＞
12	パス&キックによるゲームメイク＜連続攻撃方法＞	サイドフォローラン＜ハーフメンバーFW4・BK4+SH＞
13	どれだけ繋げられるか？	タッチフットボールゲーム＜リーグ戦＞10VS10
14	どれだけ継続することができるか？	クルセーダースボール＜トーナメント（順位決定）戦＞10VS10

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

競技者の成功は、自らの研究心、探求心、チャレンジ精神、創造力に有り。コーチ目線で一步上級レベルの映像を焼き付けるイメージトレーニングは必要不可欠な条件。“やる気の原点は目標にあり”。

### 【テキスト（教科書）】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

### 【参考書】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

### 【成績評価の方法と基準】

授業姿勢 20%、実技能力 80%にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

「実践での駆け引きが最も楽しい」という意見を頂き、理論を理解し、自ら考え・判断し・創造する。そんな実践実習内容とさせたい。

### 【その他の重要事項】

本科目は、ラグビー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。また、受講上「スポーツ実習（ラグビー）Ⅱ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（ラグビー）Ⅱ

苑田 右二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“知識＜吸収＞から見識＜行動＞力へ” 将来的な指導者としての必要な競技の総合的理論の理解とトップアスリートとして活躍できる競技力の向上。

## 【到達目標】

ラグビーフットボール選手として求められる心＜メンタル＞技＜スキル＞体＜フィジカル＞の個人力向上とユニットスキル修得によるチーム戦術の実戦。ゲームにおける応用＜意志疎通と自己判断＞力・創造＜閃き＞力の育成。

## 【授業の進め方と方法】

個人スキルの精密化、ミニ集団システムへの対応、専門ユニットスキルの修得、チーム戦術等TOPに応じた的確な判断力とスキルの一体化。プラス臨機応変、自由自在な創造性発揮による主体的実戦力に必要な理論的理解の講義と基礎技術の修得&実戦訓練。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	継続力は1/15の責任から完成することの講義と接点の重要性意志統一
2	接点力（立って繋ぐ）Ⅰ	DVD映像イメージ作り、＜ボディーコントロール、ボールコントロール＞
3	<攻撃>（モール）Ⅱ	リップパス、ガットパス、ポップパス 1対1勝負
4	<攻撃>（モール）Ⅲ	ハンマードライブ＜ダイヤモンド（4人1組）システム＞2番目のサポート
5	<攻撃>（モール）Ⅳ	縦・縦・縦・・・・連続攻撃
6	<攻撃>（倒された時のボールリリース）Ⅰ	ロングリリース＜シュリンプリリース、ローリングリリース等＞
7	<攻撃>（ラック）Ⅱ	2番目のサポート＜ダイヤモンドシステム＞差し込み＜トレイン＞オーバー
8	<守備>Ⅰ対1タックルⅠ	DVD映像イメージ作り＜足・肩・手の基本動作・姿勢＞
9	<守備>Ⅱ	倒す起き上がる＜ジャック、ジャカル＞運動性・一連動作
10	<守備>Ⅲ	2次、3次ディフェンスの連続対応、サークルタックル
11	継続orターンオーバーⅠ	3対1セット、5対3連続突破
12	継続orターンオーバーⅡ	1対1ラグビー相撲から3対2、4対3のブレイクダウン
13	継続orターンオーバーⅢ	ミニグリッドで実戦形式5対5
14	ラック&モール使い分けⅠ	実戦形式＜10Mリング＞

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

競技者の成功は、自らの研究心、探求心、チャレンジ精神、創造力に有り。コーチ目線で一步上級レベルの映像を焼き付けるイメージトレーニングは必要不可欠な条件。“成長の原点は独自性にあり”。

## 【テキスト（教科書）】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

## 【参考書】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

## 【成績評価の方法と基準】

授業姿勢 20%、実技能力 80%にて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「実践での駆け引きが最も楽しい」という意見を頂き、理論を理解し、自ら考え・判断し・創造する。そんな実戦実習内容とさせたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、ラグビー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。なお、受講上「スポーツ実習（ラグビー）Ⅰ」から履修することが望ましい。

## スポーツ実習（ラグビー）Ⅲ

苑田 右二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“知識＜吸収＞から見識＜行動＞力へ” 将来的な指導者としての必要な競技の総合的理論の理解とトップアスリートとして活躍できる競技力の向上。

## 【到達目標】

ラグビーフットボール選手として求められる心＜メンタル＞技＜スキル＞体＜フィジカル＞の個人力向上とユニットスキル修得によるチーム戦術の実戦。ゲームにおける応用＜意志疎通と自己判断＞力・創造＜閃き＞力の育成。

## 【授業の進め方と方法】

個人スキルの精密化、ミニ集団システムへの対応、専門ユニットスキルの修得、チーム戦術等TOPに応じた的確な判断力とスキルの一体化。プラス臨機応変、自由自在な創造性発揮による主体的実戦力に必要な理論的理解の講義と基礎技術の修得&実戦訓練。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	FW、BK各々のセットプレーの専門性と重要性の確認
2	スクラム～の攻防と対応	DVD鑑賞にてイメージ作り＜知識的、多種多様性、理解＞
3	地域別フォーメーション＜自陣＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式
4	地域別フォーメーション＜中盤＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式＜チーム別実戦LIVE対戦による状況判断と対応力＞
5	地域別フォーメーション＜敵陣＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式＜チーム別実戦LIVE対戦による状況判断と対応力＞
6	ラインアウト～の攻防と対応	DVD鑑賞にてイメージ作り＜知識的、多種多様性、理解＞
7	地域別フォーメーション＜自陣＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式
8	地域別フォーメーション＜中盤＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式＜実戦LIVEによるチームへの順応力と状況判断・対応力＞
9	地域別フォーメーション＜敵陣＞	TPO状況設定によるAT VS DF形式＜実戦LIVEによるチームへの順応力と状況判断・対応力＞
10	ドロップアウト～の攻防と対応	キック&チェイサーのコンビネーションとキッキングフォーメーション
11	キックオフ～の攻防と対応	キック&チェイサーのコンビネーションとキッキングフォーメーション
12	ラインディフェンス	DVD映像にてイメージ作り、面＜ボールに対する3対1組織＞作り
13	ラインディフェンス	＜プッシュアウト、ONE ON ONE詰め＞使い分け、面と立体防御網システム
14	実戦力	ミニゲーム

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

競技者の成功は、自らの研究心、探求心、チャレンジ精神、創造力に有り。コーチ目線で一步上級レベルの映像を焼き付けるイメージトレーニングは必要不可欠な条件。“楽しみの原点はプロセスにあり”。

## 【テキスト（教科書）】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

## 【参考書】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

## 【成績評価の方法と基準】

授業姿勢 20%、実技能力 80%にて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「実践での駆け引きが最も楽しい」という意見を頂き、理論を理解し、自ら考え・判断し・創造する。そんな実践実習内容とさせたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、ラグビー競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。本科目を受講する場合、「スポーツ実習（ラグビー）Ⅰ」を修得していなければ、履修できません。また、受講上「スポーツ実習（ラグビー）Ⅳ」も履修することが望ましい。

## スポーツ実習（ラグビー）Ⅳ

苑田 右二

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | キャンパス：多摩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“知識＜吸収＞から見識＜行動＞力へ” 将来的な指導者としての必要な競技の総合的理論的理解とトップアスリートとして活躍できる競技力の向上。

## 【到達目標】

ラグビーフットボール選手として求められる心＜メンタル＞技＜スキル＞体＜フィジカル＞の個人力向上とユニットスキル修得によるチーム戦術の実戦。ゲームにおける応用＜意志疎通と自己判断＞力・創造＜閃き＞力の育成。

## 【授業の進め方と方法】

個人スキルの精密化、ミニ集団システムへの対応、専門ユニットスキルの修得、チーム戦術等TOPに応じた的確な判断力とスキルの一体化。プラス臨機応変、自由自在な創造性発揮による主体的実戦力に必要な理論的理解の講義と基礎技術の修得&実戦訓練。

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゲーム（相手との対戦）における勝利への必要不可欠な条件となるプレーヤーとしてのミッション（しなければならないこと）事項等の確認。
2	ハンドリング＜パス & キャッチング＞スピード	タッチフットゲーム＜スペースパス & ラン＝コミュニケーション＞
3	ハンドリング＜展開のリズム & テンポ＞	クルセーダーズボール＜パス回数条件付攻撃による連続攻防＞
4	ボールの継続	雪ダルマ＜2対1、3対1、4対1、5対1、6対1＞からTTラン崩し → ラストWIDE勝負まで。
5	ボールの継続＜リズム & テンポ＞	雪ダルマ＜2対1、3対1、4対1、5対1、6対1＞からTTラン崩し → ラストWIDE勝負まで。
6	連続ディフェンス	ピラーディフェンス＜順目連続＞
7	連続ディフェンス＜アップ&プッシュ＞	スウィングディフェンス＜逆目連続＞
8	連続ディフェンス＜ペナルティー0＞	リーグディフェンス＜15分間徹底DF2ボール形式＞
9	チームシステムの共通理解	サイド別攻撃＜ストロングポイントの活用＞3フェーズ3本の矢システム化
10	実戦的レベルアップ	ハーフコートゲーム
11	実戦的レベルアップ	ハーフコートゲーム
12	実戦的レベルアップ	ハーフコートゲーム
13	実戦的レベルアップ	フルコートゲーム
14	実戦的レベルアップ	フルコートゲーム

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

競技者の成功は、自らの研究心、探求心、チャレンジ精神、創造力に有り。コーチ目線で一步上級レベルの映像を焼き付けるイメージトレーニングは必要不可欠な条件。“喜びの原点は結果にある”。

## 【テキスト（教科書）】

なし＜関連資料、DVD映像など必要に応じて紹介する＞。

## 【参考書】

なし＜関連資料、DVD映像などは必要に応じて紹介する＞。

## 【成績評価の方法と基準】

授業姿勢 20%、実技能力 80%にて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「実践での駆け引きが最も楽しい」という意見を頂き、理論を理解し、自ら考え・判断し・創造する。そんな実践実習内容とさせたい。

## 【その他の重要事項】

本科目は、ラグビー競技において高い専門的競技能力（おおそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。

本科目を受講する場合、「スポーツ実習（ラグビー）Ⅱ」を修得していなければ、履修できません。なお、受講上「スポーツ実習（ラグビー）Ⅲ」から履修することが望ましい。

## SSI主催科目担当 専任教員一覧

氏名	担当科目	所属等
荒井 弘和	スポーツ心理学 アスリートのキャリアマネジメント オリンピック・パラリンピックを考える	文学部教授
		自転車競技部部長
泉 重樹	トレーニング科学	スポーツ健康学部教授
伊藤 マモル	スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ	法学部教授
		フェンシング部部長
井上 尊寛	スポーツ産業論	スポーツ健康学部専任講師
笠井 淳	スポーツ方法論 アスリートキャリア論	経営学部教授
		アメリカンフットボール部部長
荻部 俊二	スポーツ実習(陸上競技)Ⅰ～Ⅳ	スポーツ健康学部教授
		陸上競技部監督
越部 清美	セルフケア論	社会学部准教授
杉本 龍勇	スポーツマーケティング論	経済学部教授
瀬戸 宏明	スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ	スポーツ健康学部准教授
成田 道彦	アスリートキャリア論	スポーツ健康学部専任講師
山田 快	アスリート育成指導法	経済学部准教授
吉田 康伸	生涯健康論 トップアスリート論 オリンピック・パラリンピックを考える スポーツ実習(バレーボール)Ⅰ～Ⅳ	経営学部教授
		バレーボール部部長

## 【学校法人 法政大学環境憲章】

学校法人法政大学は、「開かれた法政21」のヴィジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。

### 環境問題へ取り組む大学の先頭に！

世界的に温暖化をめぐる論議が盛んになる中で、大学にとっても環境問題の解決への取り組みは21世紀の教育・研究課題と言えます。本学はいち早く大学キャンパスにおける環境改善をめざす活動を開始、1999年の市ヶ谷キャンパスでの環境マネジメントの仕組みづくりに関する国際規格である「ISO14001」の認証登録につづき2004年に多摩キャンパスでも認証登録して「グリーン・ユニバーシティ」をめざして前進してきました。

2017年度からは、「ISO14001」で培ってきた実績を生かした本学独自のEMS（環境マネジメントシステム）へ移行します。

これからも、環境問題の解決に向けて先頭に立って取り組んでいきます。

### 環境について学ぼう

大学が環境改善に取り組む際、最も重要な責務は環境について学ぶ機会を学生の皆さんそして広く社会に提供することにあります。「環境」をテーマにした講演会やセミナー・シンポジウムなどを開催しています。また、「エコツアー（企業・自治体・地域でのさまざまな環境改善の取り組みを実地に見学するプログラム）」を企画し、実体験を通じて環境問題への理解を深める試みも行っています。

### キャンパスライフをグリーンに

家庭や地域で、また行政や企業でも環境改善をめざす動きが高まっています。キャンパス生活のなかでもできることが多くあります。あなたも環境改善活動に参加しませんか。

#### (1)省エネルギーを！

市ヶ谷キャンパスでは、電気・ガス・重油など大量のエネルギーを消費しています。都心のヒートアイランド・温暖化防止のためにも省エネに心がけましょう。冷房は室温28℃、暖房は室温20℃に設定しています、教室を出るときは消灯をお願いします。

#### (2)ゴミを減らそう！

ゴミになるものをキャンパスに持ちこまないようにするのが一番です、廃棄してしまうモノを減らしていきましょう。大学では講義やゼミでコピーや資料印刷など大量の紙類を消費し、そのほとんどが使用後には捨てられています。両面コピーをしたり、再生紙を利用してムダをなくしましょう。使用済みの用紙類は「ミックスペーパー回収ボックス」の中へ。

#### (3)ゴミ分別で再資源化を！

「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」「ビン・カン・ペットボトル」「ミックスペーパー」の分別ゴミ箱を設置しています。再使用・再資源化へご協力ください。

### ちょっぴり生活を変えてみよう

環境の改善は現在の私たちのライフスタイルを変えることなしには実現できません。「便利で快適な生活」は、資源の大量採取・大量生産・大量消費・大量廃棄によって成り立っています。ライフスタイルを変えることは、私たち個人にとっては「少し手間、ちょっと面倒なこと」ですが、キャンパスでの私たち一人ひとりの具体的行動が改善の決め手です。あなたも生活変えてみませんか？

\*詳しい内容を大学ホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/>) →教育・研究→学びの特色→環境教育／環境センターにてごらんいただけます。

\*皆様のご理解とご協力をお願いし、ご意見・ご提案をお待ちしています。

環境センター TEL: 03-3264-5681  
FAX: 03-3264-5545  
Mail: [cei@hosei.ac.jp](mailto:cei@hosei.ac.jp)

# M E M O





学生証番号	
氏 名	